

平成26年度入学生用

# 履 修 要 項

(*syllabus*)

児童教育学科

鹿児島女子短期大学

Kagoshima Women's College

# 《 目 次 》

学修の手引き ..... P1 ~ P4

平成26年度入学生 教育課程 ..... P5 ~ P8

[一般教養科目] (共通) ..... P9 ~ P39

[ 専 門 科 目 ]

1年次用(平成26年度) ..... P41 ~ P84

2年次用(平成27年度) ..... P85 ~ P136

《 卷 末 》

※「修得単位記入一覧表」

[ 注 記 ]

※平成27年度(2年次)の履修科目について、

一部「担当者・履修内容等」の変更があります。

なお、内容変更等があった科目は、2年次当初で差し替えを行います。

1  
年  
前  
期

1  
年  
後  
期

2  
年  
前  
期

2  
年  
後  
期

修  
得  
単  
位  
記  
入  
表

# 学 修 の 手 引

この冊子は、本学での学修の手引きとして作成したものです。

はじめに、児童教育学科の教育課程を掲載しました。これは平成26年度入学生の皆さんに対して開設される授業科目を示したものです。

つぎは、講義要項で、教育課程に示された各授業科目について、担当教員が授業の概要・授業の項目等を解説したものです。受講に際して大いに活用してください。

## 1. 履修計画および単位修得

大学における履修計画および単位修得は、皆さん一人ひとりの問題であり、自分自身の責任においてなされるべきものです。したがって、自ら本学を志した初心に立ち、もう一度将来の進路を見極め、その目標に沿って確実な履修計画を立てて単位を修得していくよう努めなければなりません。

履修上の疑問点については、学級指導教員(ホーム担任)の指導・助言をしっかり受け、また教務課に問い合わせるなどして、問題を残さないようにしてください。卒業の時期になって単位不足や単位の取り違いなどにより、卒業あるいは、めざす免許・資格の取得ができないといったことがおこらないよう十分注意してほしいと思います。

## 2. 教育課程と履修

本学における教育課程には、まず、一般教養科目の他に、コースごとに専門科目がおかれています。その中に、卒業要件としての課程のほかに、免許・資格を取得するために必要な課程が体系的に編成されています。以下、教育課程のことについて説明します。

### (1) 授業科目の **区分** について

- ① 一般教養科目
- ② 専門科目
- ③ 教職科目
- ④ 司書教諭養成科目(小・幼コース、小・保コース)
- ⑤ 保育士養成科目(小・保コース、幼・保コース)
- ⑥ ピアヘルパー認定試験受験資格必修科目

### (2) 授業科目の **履修方法** について

大学の授業は、講義・演習・実験・実習・実技など、その形態はさまざまですが、学生の主体的、積極的参加により、教員と学生が一体となって学問に取り組む場です。そのような授業への参加によって、高度な知識・技能を修得し、あわせて学問的研究のあり方についても十分身につけるようにしてもらいたいと思います。

### (3) 授業科目の **単位数** について

大学の授業科目には、それぞれ単位数が定められています。これは、授業の形態と授業時間数に応じて決められているものです。したがって、皆さんは授業科目を履修して単位を修得し、その単位数で課程の終了が認定されることになります。そこで、開講されている授業科目の中から、所定の科目を履修し、それらの単位を修得して、卒業や免許・資格の取得に必要な要件を充足しなければなりません。

#### (4) 授業科目の **必修・選択** の指定について

教育課程の中で、それぞれの授業科目には、必修・選択必修・選択の指定があります。

- ① 必修科目 … 必ずその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ② 選択必修科目 … 特定の授業科目のグループの中から決められた数の科目を選択してその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ③ 選択科目 … 各自が自由に選択して履修し、その単位を修得する科目のことです。

#### (5) 授業科目の **開講学期** について

授業科目の開講学期は、教育課程表の中の開講学期単位数の欄に示されています。つまりその授業科目の単位数は、当該授業科目が開講される学期の欄に記入されています。したがって、指定された学期において、それぞれの科目を受講するように履修計画を立てなければなりません。もし、そのことを誤ると、授業科目の履修の機会を失い、2年間での卒業ができなくなることもありますので、十分に注意してください。

#### (6) **履修届** について

皆さんが所要の単位を修得していくためには、本学の教育課程により、各学期のはじめに受講科目を決め、教務課へ履修届を提出しなければなりません。その際に、卒業要件が充足できるか、希望する免許・資格取得のために必要な単位数が充足できるかなど確実におさえておかなければなりません。

### 3. 卒業要件や免許・資格に必要な単位数

#### (1) 卒業要件

本学に2年以上在学し、本学所定の教育課程により、次に示す単位の合計が、各コースともに **62単位以上を修得した者**を卒業と認めることになっています。

#### 卒業に必要な各専攻の最低修得単位数

学 科	一般教養科目			専 門 科 目			計
	必修	選択必修	選 択	教科に関する科目	教職等に関する科		
児童教育学科	4	4	8	4	29	13	62

#### 卒業要件として必要な最低修得単位数の修得方法

ア. 一般教養科目の中から、16単位以上を修得すること。

- ① 必修科目 … 「WE LOVE 鹿児島！」の2単位、「キャリアガイダンス」の2単位は、全員修得すること。
- ② 選択必修科目 … 「英語演習・ドイツ語演習・中国語演習・韓国語演習」のいずれか一つを選択し、同じ科目のⅠ・Ⅱを合わせて4単位を修得すること。
- ③ 選択科目 … 上記以外の一般教養科目の中から、8単位以上を修得すること。

イ. 専門科目の中から、46単位以上を修得すること。

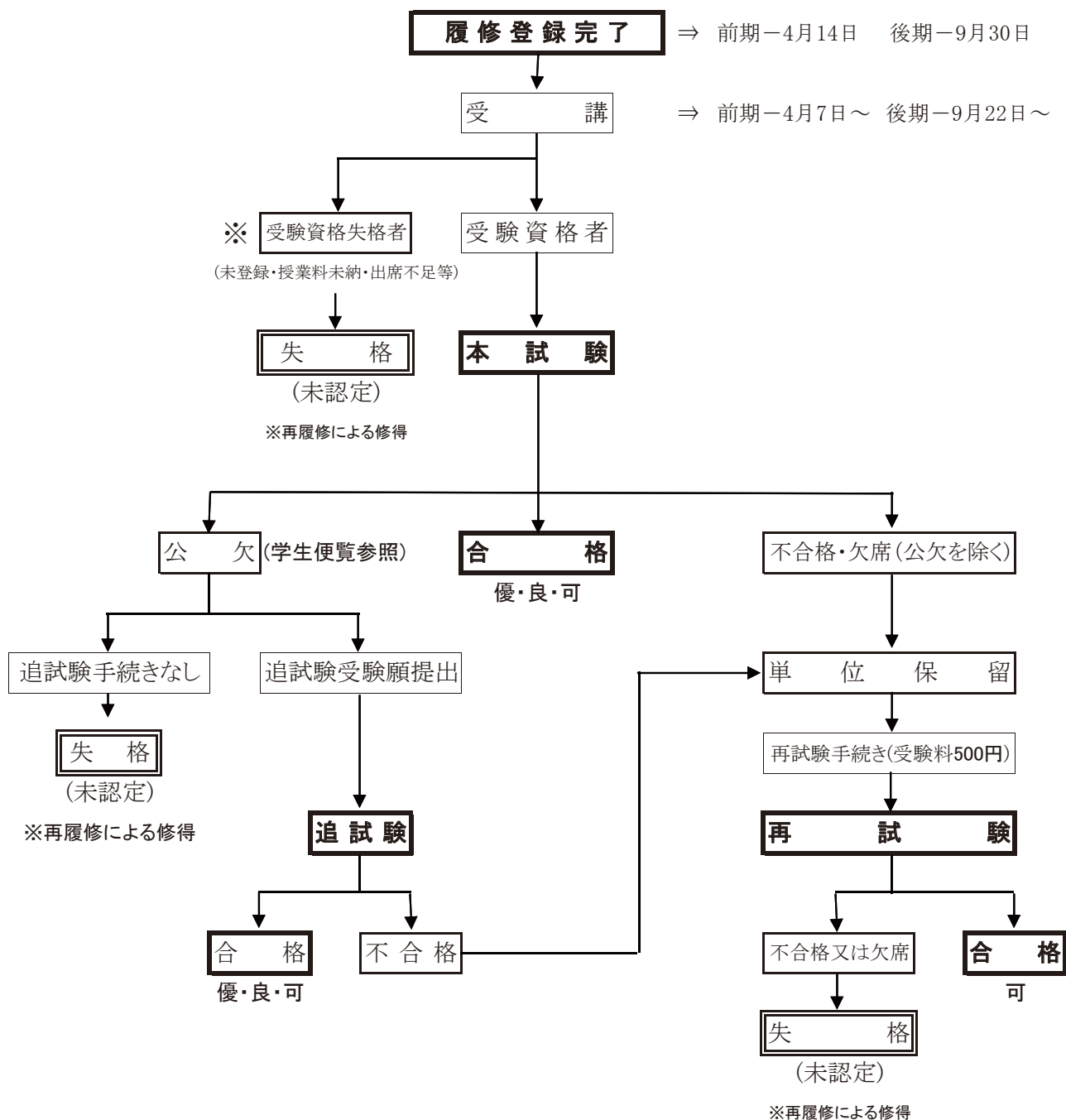
なお、「免許・資格関連科目」(別表第1の2)は、「専門科目」に含まれるもの(○印のあるもの)を除き、**卒業に必要な単位に含めることができません**ので注意が必要です。

## (2) 免許または資格

児童教育学科において、取得できる教員免許状または資格は次のとおりです。

学 科	取得できる免許状・資格	コース		
		小・幼コース	小・保コース	幼・保コース
児童教育学科	小学校教諭二種免許状	○	○	
	幼稚園教諭二種免許状	○		○
	保育士証		○	○
	司書教諭資格	○	○	
	ピアヘルパー受験資格	○	○	○

## 「履修登録」から「単位認定」までの流れ



### I. 「本試験」の成績発表について

①本試験の成績発表は、試験終了後「成績発表用学生番号」によって  
 掲示します。

②「成績発表用学生番号」は、試験開始前に、配布します。

### II. 「追試験」・「再試験」の実施日程等ならびに成績発表について

①本試験同様、「成績発表用学生番号」によって掲示します。

※ 「成績発表学生番号」は、学籍番号とは異なり、学年によって変わります。

# 一般教養科目

科目番号	1	授業科目	日本語表現の基礎 (Fundamentals of Japanese Expressions)				担当者	瀬戸口 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 日本語の表現(書くこと・話すこと)について、基礎的な表現力(就中、書く力)を身につけることをめざす。それも、自ら進んで、興味・関心をもって、話し・書けるようになることを、めざす。							
	2. 到達目標 (1)原稿用紙のつかい方を身につける。 (2)文字・表記・用語に習熟する。 (3)文章表現力を身につける。							
	3. 事前事後学習 新聞やテレビなどで、種々の情報を収集し、自分の考え・意見を表明・開陳する場を多くもつ。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 自己紹介(話す・書く)							
	② 原稿用紙のつかい方の演練……定着・実践							
	③ 文字(字形、楷書、鉛筆書き、五十音図、いろは歌)について							
	④ 表記法(文体→常体＝デアル・ダ・タ体。ひらがな書きなど)について							
	⑤ 課題作文の提示……① レベル I							
	⑥ 一文の短さ・簡潔さの模範→奨励→実践							
	⑦ 話しことばと書きことばの差異の具体的理解(演練) → 課題作文に活かす。							
	⑧ 課題作文の提示……② レベル II							
	⑨ 文のつづけ方(＝接続のしかた)の理解→演練→実践							
	⑩ 課題作文のチェックとフィードバック							
	⑪ 課題作文の提示……③ レベル III							
	⑫ 段落設定とその工夫……文章構成の理解→実践							
	⑬ 一語作文・一文作文の理解・演練→実践							
	⑭ 文章の推敲について……演練							
⑮ 課題作文の提示……④ (最終作文) レベル IV								
成績評価	各種レポート(20%)と最終作文(80%)							
参考文献等	テキスト：米田明美 藏中さやか 山上登志美 著 『大学生のための日本語表現 実践ノート』 風間書房							
備考								
	オフィスアワー	火7・8限						



科目番号	2	授業科目	倫理学 (Ethics)			担当者	村若 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「倫理学」とは、人の生き方、人と人との関係のあり方、社会のあり方について考える学問です。道徳とか倫理とかいうものは、実はすでに皆さんがすでに身につけているものです。倫理学は、その身につけているものを反省し、吟味する学問だと考えてください。本年度は、「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題について考えていきます。まずアメリカ流の「生命倫理」の成立史や基本思想を明らかにし、その後、主として医療倫理の諸問題にテーマを絞って解説します。さまざまなテーマについて、ビデオなどを用いて身近な問題として関心を持ってもらい、倫理的な思考の訓練をします。						
	2. 到達目標 1. さまざまな道徳的ジレンマを学びつつ、原則に基づいて自ら考えることができる。 2. 生命尊厳の理念のもとで、自己と他者を人格として理解することができる。 3. 現実に生じている生命倫理の問題に関心を持ち、自ら判断することができる。						
	3. 事前事後学習 講義前に講義で扱うテキストの部分を読んでおくこと。 講義後、復習や視聴覚教材の感想文を課することがある。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 倫理学と「生命倫理」						
	② 生命倫理の成立(1)患者の権利						
	③ 生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史						
	④ 生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則						
	⑤ 尊厳死(1)						
	⑥ 尊厳死(2)						
	⑦ 安楽死(1)						
	⑧ 安楽死(2)						
	⑨ 人工妊娠中絶						
	⑩ 不妊治療技術の利用(1)						
	⑪ 不妊治療技術の利用(2)						
	⑫ 出生前診断(1)						
	⑬ 出生前診断(2)						
	⑭ 脳死と臓器移植(1)						
⑮ 脳死と臓器移植(2)							
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 提出物(感想文等)(20点)						
参考文献等	テキスト:中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂 使用視聴覚機器:VHSビデオデッキ、DVDプレーヤー						
備考							
	オフィスアワー	火曜日					

科目番号	3-①	授業科目	文学 (Literature)			担当者	高島 まり子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 作品の映像を中心にアメリカ文学の鑑賞と解説を通し、日米の社会・文化理解を深め、自分自身の生き方について思索する。						
	2. 到達目標 1.アメリカ文学の鑑賞と理解。 2.日米の社会・文化についての理解を深める。 3.自分の生き方について考える。						
	3. 事前事後学習 原作(日本語翻訳も可)の読書。振り返りシートの提出。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	『るつぼ』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・振り返りシート作成。					
	②	同					
	③	同					
	④	関連して『真実の瞬間』の資料配布・解説・鑑賞・振り返りシート作成。					
	⑤	『ラスト・オブ・モヒカン』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・振り返りシート作成。					
	⑥	同					
	⑦	同					
	⑧	『若草物語』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・振り返りシート作成。					
	⑨	同					
	⑩	同					
	⑪	黒人差別と公民権運動の資料提示・解説・作品鑑賞・意見交換・振り返りシート作成。					
	⑫	同					
	⑬	『カラー・パープル』の資料配布・解説・鑑賞・意見交換・振り返りシート作成。					
	⑭	同					
	⑮	同					
⑯	総括レポートの提出						
成績評価	受講態度・毎回の振り返りシート(40%) レポート等(60%)の総合評価						
参考文献等	○参考文献: 亀井俊介『アメリカ文学史講義』南雲堂 長坂寿久『映画で読むアメリカ』(朝日文庫) 朝日新聞社 小林憲二『アメリカ文化の今——人種・ジェンダー・階級』ミネルヴァ書房 八尋春海編著『映画で学ぶアメリカ文化』スクリーンプレイ出版 八尋春海編著『映画で楽しむアメリカの歴史』金星堂 福島隆彦『アメリカの秘密』メディアワークス 岩元巖編『アメリカ文学のヒロイン』リーベル出版 ○視聴覚機器(DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考	オフィスアワー	水曜日 12:00~14:00					

科目番号	3-②	授業科目	文学 (Literature)			担当者	伊佐山 潤子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 日本文学史に燦然と輝く「源氏物語」の世界にご招待します。現代人にも共通する人間の感情、人の生き方、とりわけさまざまに魅力的な人物たちの存在に、皆さんきっと驚くことでしょう。千年も前の作品がなぜ今も読者をひきつけるのか、その秘密に触れてみます。						
	2. 到達目標 ・「源氏物語」の大略を理解する ・登場人物に自身を重ねながら物語を読むことができる ・平安時代の生活に関する知識を身につける						
	3. 事前事後学習 ・登場人物の名前と関係を覚えること ・物語の全体像を把握すること						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 『源氏物語』と紫式部の時代						
	② 光源氏の一生						
	③ 紫の人(1) 桐壺更衣・藤壺						
	④ 紫の人(2) 紫の上・女三の宮						
	⑤ 中の品 空蝉・夕顔・末摘花						
	⑥ 六条御息所と葵の上(1) 車争い						
	⑦ 六条御息所と葵の上(2) 物の怪						
	⑧ 朧月夜						
	⑨ 明石の君						
	⑩ 桐壺帝・朱雀帝・冷泉帝						
	⑪ 光源氏と頭中将						
	⑫ 夕霧と柏木						
	⑬ 薫と匂の宮						
	⑭ 大君・中君・浮舟						
⑮ 『源氏物語』の世界							
成績 評価	出席状況と受講態度(講義への取り組み)60%、学期末レポート40%						
参考 文献 等	テキスト: プリントを配布します。 参考文献: 山本淳子『源氏物語の時代 一条天皇と后たちのものがたり』(朝日新聞社 2007) 三田村雅子『源氏物語 天皇になれなかった皇子のものがたり』(新潮社 2008) ほかは講義中随時紹介します。 DVD等使用						
備 考							
	オフィスアワー	金曜日 16:25~17:00					

科目番号	4	授業科目	心理学 ( Psychology )			担当者	園田 美保
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 この講義の第一の目標は、より深い人間理解である。ここでの人間とは、もちろん自分自身を含むものであり、その点では自己を探る手がかりを見つけて欲しい。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとして、心理学の各領域や方法を学びながら、考える力も身に付けていく。						
	2. 到達目標 (1)人間の心理と行動との関係を理解する。 (2)自己理解を深める。 (3)他者理解を広げる。						
	3. 事前事後学習 ・各回の授業内容から、自分でキーワードになる言葉や概念を5～10語程ピックアップする。 ・上記のキーワードを自分で説明できる程度に理解を深める。授業中で理解しきれなかった場合は図書館等を利用して調べる。 ・各回で扱った内容に関連しそうな、自分にとって身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション (講義形式、授業計画、心理学イントロ「心理学とは?」)						
	② 心理学の歴史と方法 (心理学の始まり、心理学の方法論と私たちが人間を見るまなざし)						
	③ 動機づけ (領域各種動機づけ説、動機の高ヒエラルキー、動機づけを高める方法)						
	④ 情動 (情動の発達、情動の種類、感情と表出、気分障害)						
	⑤ 認知 (私たちは環境をどのように知るか? 感覚、知覚、認知の特性)						
	⑥ 学習 (人間の行動が作られるしくみとは? 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習)						
	⑦ 中間振り返り < 普段の「わたし」の行動を、これまでの心理学で解説してみる >						
	⑧ 知能 (知能の構造、知能の発達、遺伝か環境か?、今からできる創造性を発揮する思考法)						
	⑨ パーソナリティ (人の特徴の捉え方: 類型論と特性論、人格のつくられる、性格の測り方)						
	⑩ 適応 (人間を環境との関わりで考えてみると? 不適応反応、ストレス、防衛機制)						
	⑪ 社会と人間1 (集団とは、集団から個人への影響)						
	⑫ 社会と人間2 (個人や少数者が集団に与える影響: 少数意見が通る条件/リーダーシップ論)						
	⑬ 臨床の心理学1 (心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解)						
	⑭ 臨床の心理学2 (心理療法のアプローチ四者四様; 精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法)						
⑮ 総括・補足・全体ふり返り							
成績評価	各回のショートレポート 及び 受講態度 (65%)・中間レポート (10%)・最終レポート (25%)						
参考文献等	特定のテキストは使用しない。随時資料を配布する。 使用機材: プロジェクター投影によるパソコンのプレゼンテーションソフト						
備考	オフィスアワー	火16:20～					

科目番号	5	授業科目	社会学 (Introduction of Sociology)			担当者	倉重 加代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 自分から離れて世の中を見る視点を身につけ、日常生活や社会の仕組みを理解する。						
	2. 到達目標 1.社会学の基本的視点を身につける。 2.社会の多様性、可能性について理解する。 3.情報評価能力を身につける。						
	3. 事前事後学習 事前学習…教科書を読んでおくこと。 事後学習…授業で取り上げた事例に対して、自分自身の意見をまとめること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	社会学とは					
	②	意味と相互主観性					
	③	アイデンティティ(1)自分探し					
	④	アイデンティティ(2)アイデンティティと社会との関わり					
	⑤	アイデンティティ(3)自分探しと現代社会					
	⑥	正常と異常(1)正常と異常の境界					
	⑦	正常と異常(2)レッテルを貼る／貼られること					
	⑧	正常と異常(3)水俣病に学ぶこと					
	⑨	予言の自己成就(1)イメージと現実					
	⑩	予言の自己成就(2)意図せざる結果					
	⑪	共同体(1)家族の現実					
	⑫	共同体(2)地域社会の変容					
	⑬	共同体(3)新たな関係性					
	⑭	国家と市民社会(1)国家とは何か					
	⑮	国家と市民社会(2)国家と市場と市民 総括					
⑯	筆記試験						
成績評価	筆記試験(90%)※筆記試験は90分で実施 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト 友枝敏雄ほか編『社会学のエッセンス[新版]』有斐閣 2007年 参考文献 フロム, E. 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社 1951年 アリエス, P. 杉山光信・杉山恵美子訳『〈子供〉の誕生』みすず書房 1980年 ほか 一部視聴覚機器(DVD)使用						
備考	オフィスアワー	火曜日9・10限目(研究室)					

科目番号	6	授業科目	国際化と経済 ( Internationalization & Economics )			担当者	大重 康雄
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 産業と経済・金融の基本的なしくみ、国際経済の現状を学ぶ。 ・国際社会の現状を理解し日本・地域経済の課題について考える。						
	2. 到達目標 1.基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる。 2.グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきか主体的に判断できる。						
授業計画	3. 事前事後学習 ・各授業のテーマの中から自分の最も関心のある事柄(経済分野)についてサマリーを作成。 ・サマリーに基づきグループで討議し、問題点をまとめる。						
	4. 各回の授業内容						
授業計画	① 「経済」とは何か・・・経済学的考え方について						
	② GDPで考える物価と経済成長						
	③ 金融のしくみと経済						
	④ 貿易取引と決済のしくみ						
	⑤ 国際通貨制度の現状と問題点						
	⑥ 企業のグローバル化(多国籍化の現状)						
	⑦ 地域経済統合(FTA/EPA)の歩み						
	⑧ グローバル・イシュー I (開発と貧困)						
	⑨ グローバル・イシュー II (環境・エネルギー・食料)						
	⑩ 各国・地域事情ーグローバル化と日本						
	⑪ 各国・地域事情ーアジア・ASEAN						
	⑫ 各国・地域事情ーアメリカ						
	⑬ 各国・地域事情ーヨーロッパ・ロシア						
	⑭ 鹿児島県経済とグローバル化						
	⑮ 講義の総括						
成績評価	・学期末に実施する筆記試験(90分で実施)の成績及び、授業への取組姿勢等によって評価する。 (授業での発言・取組姿勢10%・定期試験90%)						
参考文献等	○テキスト・・・「私たちの国際経済ー見つめよう、考えよう、世界のこと」 東京経済大学国際経済グループ 著 有斐閣ブックス ○参考文献・・・「グローバルエコノミー」 岩本武和ほか著 有斐閣アルマ ※ 講師作成レジュメ(毎回配布予定)						
備考							
	オフィスアワー	午後4時30分～5時30分(大重研究室)・要事前連絡					

科目番号	7	授業科目	歴史学 ( History )			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 民俗学や地理学など他学問との連携も視野に入れながら、生活に密接なかかわりをもつ題材から、何を目的としどのような方法で研究がなされているかという歴史学の在り方を学ぶ。						
	2. 到達目標 ①民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する。 ②過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす。 ③歴史学の成果を参照しながら社会の在り方を考える。						
	3. 事前事後学習 事前学習として、高校までの歴史学習を振り返る。 事後学習として、授業時に提示されたテーマについて、自分の住む地域等に即して調べ学習を行う。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	イントロダクション					
	②	地名と歴史研究(1) —難読地名の研究—					
	③	地名と歴史研究(2) —鹿児島・南九州・沖縄の地名研究—					
	④	地名と歴史研究(3) —地名研究の意義—					
	⑤	歌をとおしての地域性研究					
	⑥	お化けの研究(1) —「怪談」を研究する視点—					
	⑦	お化けの研究(2) —お化けの不易と流行—					
	⑧	お化けの研究(3) —柳田國男の研究と町おこし—					
	⑨	お化けの研究(4) —お化け研究の意義—					
	⑩	人生儀礼の研究(1) —死の文化と歴史—					
	⑪	人生儀礼の研究(2) —恋愛と結婚の歴史的研究—					
	⑫	人生儀礼の研究(3) —祭り・芸能の研究—					
	⑬	人生儀礼の研究(4) —人生儀礼研究の意義—					
	⑭	食文化の歴史					
⑮	鹿児島の近現代史						
成績評価	筆記試験(60分で実施)にて評価する。(100%)						
参考文献等	○参考文献は講義中に適宜指示する。 ○ビデオ(DVD)を使用する場合がある						
備考							
	オフィスアワー	月曜日 18:00～19:00					

科目番号	8	授業科目	インターンシップ ("Internship" in Companies)			担当者	大重 康雄	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前期	児教	演習	2	選択			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ・本科目の目的は、家庭と学校で教育を受けてきた学生に、今後参画して行く「社会」を垣間見る機会を与え、これまで得てきた理論や技術が社会といかなる関連をもっているかを、体験を通して考えることである。							
	2. 到達目標 1.社会体験を大学での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立てる。 2.職業に関する興味、関心、適性が、どこにあるかを自ら考える機会とする。 3.実社会の厳しさを体験することによって、社会人となる自覚を持ち、自己啓発に努める。							
	3. 事前事後学習 ・関心のある企業について企業研究をしっかり行い企業選択を行う。 ・インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるようにまとめる。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	ガイダンス・インターンシップとは何か					(大重)	
	②	研修先企業概要・エントリーシート登録方法説明					(大重)	
	③	エントリーシート・自己PRの書き方					(大重)	
	④	一次マッチング説明・仕事の基本的心得					(大重)	
	⑤	外部講師講演(1)					(外部講師)	
	⑥	研修企業の研修内容説明					(大重)	
	⑦	来客対応の基本・二次マッチング参加登録					(大重)	
	⑧	職場の人間関係・二次マッチング調整					(大重)	
	⑨	職場のマナー研修					(学内講師)	
	⑩	企業のしくみとコンプライアンス					(大重)	
	⑪	研修企業の業界研究					(大重)	
	⑫	外部講師講演(2)					(外部講師)	
	⑬	本学講師指導:お礼状の書き方					(学内講師)	
	⑭	研修日誌・研修のレポート提出(事後研修)					(大重)	
⑮	インターンシップ参加報告発表会(事後研修)					(大重)		
成績評価	※講義終了後 企業団体へのインターンシップ参加(実習)							
	・研修報告書、研修日誌、研修総括レポート、事前・事後研修(指導)等で総合的に評価する。 ・受講態度(20%) レポート等提出状況(30%) 参加報告プレゼンテーション内容(50%)							
参考文献等	○講義の都度紹介する							
備考								
	オフィスアワー	午後4時30分～5時30分(大重研究室)・要事前連絡						



科目番号	9-①	授業科目	キャリアガイダンス I (Career Guidance I)			担当者	児童教育学科 全教員
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・通年	児教	演習	1	必修		
授業の 目標及 び内容	1. 授業の目的 本演習は、学生個々の自己実現、専門性の向上及び職業適応のために、次のような経験・学習が行われるよう計画されている。 (1) 学生個々が短大生活に十分適応し、自らの特性や目標に沿った学習を積み重ねること。 (2) 保育士・幼稚園教諭、小学校教諭など、各職種の仕事と社会的役割を理解すること。 (3) それぞれの職業に必要な技能、資質、人間性(倫理観)へ向けての道筋をつかむこと。 (4) 地域社会において自らの能力を十分に発揮できるよう自己理解を深め、人生設計を立てること。  授業形態は基本的に合同とするが、必要に応じてクラス単位またはホーム単位で行うこととする。						
	2. 到達目標 (1)自己理解を深め、自らの将来を見通す広い視野をもつ。 (2)広い分野に探究心を持ち、明確な目標をもって学習をする。 (3)生涯学習的な視点を持ち、自己実現へ向けて意欲をもつ。						
	3. 事前事後学習 事前指導として、いろいろなメディアを使ってさまざまな職業で活躍している人たちと触れ合う機会を持つことを促す。事後指導では、自分の職業選択にかかわる情報を集めるために、事業所ガイダンスなどの機会を利用するように促す。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 短大生活の過ごし方と将来へのつながり						
	② 各専門職の職務内容						
	③ 2年生との交流 — 2年生から学ぶ①(短大生活において何を学ぶか) —						
	④ 現在における自己分析, 自己の将来像 — マッチングに向けて —						
	⑤ 夢を語り合ってみよう — 自己実現のために —						
	⑥ 社会人としてのマナー						
	⑦ 2年生との交流 — 2年生から学ぶ②(実習等に向けた準備と心構え) —						
	⑧ これまでの学習の語り合い						
	⑨ 本学科卒業生, 就職内定者・進学者による講話 なお、本授業の実施時期および内容は、2年間という限られた期間で効果的な学習をおこなうため、本学科における他の学習機会(学内研修, 各実習および実習指導, 就職ガイダンス, 附属教育機関や卒業生との連携等)とうまく融和させながら進めていく。						
成績評価	・レポート提出および受講態度による総合評価						
参考文献等	(※ 授業中に適宜紹介する。)						
備考	なし						
	オフィスアワー	各担当教員の研究室にて随時					

科目番号	9-②	授業科目	キャリアガイダンスⅡ (Career Guidance Ⅱ)			担当者	児童教育学科 全教員
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・通年	児教	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本演習は、学生個々の自己実現、専門性の向上及び職業適応のために、次のような経験・学習が行われるよう計画されている。 (1) 学生個々が短大生活に十分適応し、自らの特性や目標に沿った学習を積み重ねること。 (2) 保育士・幼稚園教諭、小学校教諭など、各職種の仕事と社会的役割を理解すること。 (3) それぞれの職業に必要な技能、資質、人間性(倫理観)へ向けての道筋をつかむこと。 (4) 地域社会において自らの能力を十分に発揮できるよう自己理解を深め、人生設計を立てること。  授業形態は基本的に合同とするが、必要に応じてクラス単位またはホーム単位で行うこととする。						
	2. 到達目標 (1)協働的活動において自己を表現し、能力を発揮できる。 (2)各職種の専門性と社会的役割を理解し、責任感・倫理観を身につける。 (3)社会において自らの人生を設計し、成長し続けることができる。						
	3. 事前事後学習 事前指導では、選択した職業に就くための道筋を考え、ロールモデルを見つけるために現場に出かけることを促す。事後指導では、自分の生活設計と自己の成長を考え、実行することを促す。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 2年次における学習内容と具体的な就職活動						
	② 各領域の専門性について考える ―学習課題の明確化―						
	③ 1年生との交流 ―ひとに伝える①(これまでの短大生活をまとめ、伝える)―						
	④ これまでの経験と自己の将来像 ―進路のマッチングに向けて―						
	⑤ 社会人としてのマナー						
	⑥ 自己アピールの方法、保育・教育観の見直し						
	⑦ 1年生との交流 ―ひとに伝える②(実習等における自らの経験をまとめ、伝える)―						
画	⑧ 卒業後の夢を語り合ってみよう ―将来の人生設計について考える―						
	なお、本授業の実施時期および内容は、2年間という限られた期間で効果的な学習をおこなうため、本学科における他の学習機会(学内研修、各実習および実習指導、就職ガイダンス、附属教育機関や卒業生との連携等)とうまく融和させながら進めていく。						
成績評価	・レポート提出および受講態度による総合評価						
参考文献等	(※ 授業中に適宜紹介する。)						
備考	なし						
	オフィスアワー	各担当教員の研究室にて随時					

科目番号	10—①	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	高島 まり子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 英語の総合力「聴く・話す・読む・書く」を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 到達目標 1.基礎的文法力を固める。 2.「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる。 3.リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く。						
	3. 事前事後学習 予習・復習・課題の提出						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	<Unit 1>					
	②	同					
	③	<Unit 2>					
	④	同					
	⑤	<Unit 3>					
	⑥	同					
	⑦	<Unit 4>					
	⑧	同					
	⑨	<Unit 5>					
	⑩	同					
	⑪	<Unit 6>					
	⑫	同					
	⑬	<Unit 1,2>総括					
	⑭	<Unit 3,4>総括					
	⑮	<Unit 5,6>総括					
⑯	筆記試験						
成績評価	受講態度(40%)、期末試験(60%)の総合評価						
参考文献等	○ <i>Communication Builder</i> (吉富 昇 著、南雲堂 2014年) をテキストとして使用予定だが、変更の可能性あり。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	水曜日 12:00～14:00					

科目番号	10-②	授業科目	英語演習 I (English I)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	児童教育 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標及び 内容	1. 授業の目的 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる。 2. 英語及び異文化に興味を持ち、進んで学習することができる。 3. 積極的に問題に取り組み、英語の理解を深めることができる。						
	3. 事前事後学習 各文法事項を授業時に理解したうえで、テキストの問題を復習しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション(授業説明、テキスト・マンガの紹介、文法導入)						
	② Unit 1 be動詞(現在形)						
	③ Unit 2 一般動詞(現在形)						
	④ Unit 3 be動詞(過去形)						
	⑤ Unit 4 一般動詞(過去形、規則変化)						
	⑥ Unit 5 一般動詞(過去形、不規則変化)						
	⑦ Unit 6 命令文、There is[are]～、itの特別用法						
	⑧ Unit 7 注意すべき疑問文						
	⑨ Unit 8 進行形						
	⑩ Unit 9 未来形						
	⑪ Unit 10 助動詞(1)						
	⑫ Unit 11 助動詞(2)						
	⑬ Unit 12 名詞・冠詞 基本事項						
	⑭ Unit 12 名詞・冠詞 応用						
⑮ 総括							
成績評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。						
参考文献等	テキスト :Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備考							
	オフィスアワー	金曜 12:55～14:25					

科目番号	10-③	授業科目	英語演習 I (Elementary English Conversation I)			担当者	霧島 S. 怜
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ★ 参加者の言語的力量と上達の速度に応じて内容の増減が有り得る。 This course is designed to improve the overall understanding of read and spoken phrases about various topics. (簡単な物語を正確に聞き取り、その意味を正しく理解すること)						
	2. 到達目標 (1) 人の前で英文を綺麗に朗読すること。 (2) 朗読等を正しく理解すること。 (3) 異文化理解。						
	3. 事前事後学習 各演習の予習をしっかりとて貰います。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	演習の内容、方法と成績等についての説明。ミニ演習の実習。					
	②	U20. Why learning a foreign language ? (読解と朗読 ☺)					
	③	同上 (英文の聞き取り、繰り返すとミニ会話 ☆)					
	④	U4. Beauty Contest ! (☺)					
	⑤	同上 (☆)					
	⑥	U5. Who Pays ? (☺)					
	⑦	同上 (☆)					
	⑧	U10. Fan Worship ! (☺)					
	⑨	同上 (☆)					
	⑩	U8. Cyber Love ! (☺)					
	⑪	同上 (☆)					
	⑫	Special IAAE 10. A Horrible Vacation ! (☺)					
	⑬	同上 (☆)					
	⑭	Special IAAE 23. A Morning Cup of Coffee ! (☺ ☆)					
⑮	受講生が選択するテーマ。異文化について学びましょう。(M?)						
成績評価	まとめとMini-test !						
	予習 40% 演習参加内容 40% Mini-test 20%						
参考文献等	Textbook Richard R. Day等, "Impact Issues 1", Pearson Longman. (isbn 978-962-01-9930-1) 更に、必要に応じて、習熟資料を配布します。						
備考	学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte!"(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名な諺が教示するように、一晩で有名な先生の指導によって外国語を身につけた人はいません。具体的で魅力的な動機があれば、一番早く学びます。では、大生らしく、楽しく学びましょう…						
	オフィスアワー	非常勤控え室にて 12:30-13:00					

科目番号	11	授業科目	ドイツ語演習 I (Elementary German I)			担当者	武田 輝章
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ドイツ語を使って大きな声であいさつをしましょう。ドイツ語で自分のことを紹介してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざします。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界は同じでしょうか、違うのでしょうか。自分の眼で見てください。						
	2. 到達目標 ドイツ語で自己紹介ができるようになる。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざす。						
	3. 事前事後学習 授業に臨む前にあらかじめ単語の発音と意味を調べる。基本的な表現を繰り返して音読し、次の時間までに暗唱してくる。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 授業方針の説明+「みんなが知っているドイツ語」						
	② 勉強の方法(1)「自宅学習をしよう」						
	③ 勉強の方法(2)「考えて学ぼう」						
	④ 発音(1)「大きな声で発音しよう」						
	⑤ 挨拶(1)「大きな声であいさつしよう」						
	⑥ 発音(2)「もっと大きな声で発音」						
	⑦ 挨拶(2)「もっと大きな声であいさつ」						
	⑧ 発音(3)「日本語と比べてみよう」						
	⑨ 挨拶(3)「決まり文句はそのまま覚えよう」						
	⑩ 発音(4)「英語と比べてみよう」						
	⑪ 挨拶(4)「覚えたらすぐ使おう」						
	⑫ 発信(1)「ドイツ語で言ってみよう」						
	⑬ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」						
	⑭ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」						
⑮ 総合「前期のまとめ」							
成績 評価	筆記試験(60分で実施)						
	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)						
参 考 文 献 等	1 テキストについては授業で指示						
	2 新アポロン独和辞典(同学社)						
	3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社)						
	4 ビデオ・DVD・CDなどを使用						
備 考							
	オフィスアワー	月曜日12:30~13:30					

科目番号	12	授業科目	中国語演習 I (Chinese practice I)			担当者	谷口 明夫
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 初めて中国語を学ぶ人、または中国語を基礎から確実に学びたい人のための科目です。中国語の基礎的な発音と文法。日常の挨拶ことばを学び、簡単な日常会話の力、初歩的な作文力、短い文章を読解する力を養成することを目標とします。						
	2. 到達目標 ①中国語の音節構造、声調、有気と無気の違いを理解し、ほぼ正確に発音できる。 ②簡体字・繁体字・常用漢字の違いを理解し、書くことができる。 ③1～10の数字を正確に言うことができる。 ④自分の名前を紹介することができる。 ⑤「～したい」「～がある」「～がいる」「～をもっている」の表現とその否定表現を理解し、使うことができる。						
	3. 事前事後学習 復習が最も大切です。①学んだ中国語の単語と文、特に教科書の本文を、毎日5分以上声に出して読んで暗記すること。1週間に合計35分すればいいというわけではありません。毎日練習することが大切です。②簡体字と発音の綴り(ローマ字ピンイン)は必ず書いて覚えること。眺めているだけでは、学習が停滞します。						
	4. 各回の授業内容						
授業計画	①	発音 I :声調とは何か。四つの声調と軽声。単母音。挨拶のことばI。数字の1・2・5					
	②	" II :声調の反復練習。複母音。挨拶のことばII。数字の8と7					
	③	" III :声調の反復練習。複母音(続)。簡単な単語と単文。数字の6と9					
	④	" IV :声母とは何か。有気音と無気音の違いは?					
	⑤	" V :日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10					
	⑥	" VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3					
	⑦	" VII :3声か2声に変化すること。不(bu)と一(yi)が変化すること。声調パターンの練習。					
	⑧	第1課:人称代詞「あなた・わたし・かれ」の言い方。名前の言い方:自己紹介の仕方。					
	⑨	"					
	⑩	第2課:“是”「～である」の用法。“嗎”を使った疑問文。疑問詞疑問文。					
	⑪	"					
	⑫	第3課:動詞述語文:中国語の語順は日本語と違う。「こそあど」の言葉。「～の…」					
	⑬	"					
	⑭	第4課:「想」(～したい)と形容詞述語文。					
	⑮	第5課:所有を表す“有”と“没有”。数詞と量詞。家族の呼称。					
成績評価	学期末筆記試験 80点 平常の発音 20点 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考	声調を含む発音は、1音節語が発音できるようになれば、それでマスターできたというものではありません。複音節語の各音節の声調が流暢に発音できるようになるまでが第一段階です。声に出して読み、紙に書き、CDを聞く努力が大切です。毎日10分以上勉強すれば、学習は格段に進みます。						
	オフィスアワー	授業終了後					

科目番号	13	授業科目	韓国語演習 I (Korean I)			担当者	金 孝珍
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 韓国語の学習を通して、隣国の韓国への理解を深めるとともに国際感覚を身につけ韓国人との交流だけではなく世界の人々との交流に役立てる素質を培う。						
	2. 到達目標 (1)韓国語の文字と発音を正確に習得 (2)自己紹介ができる (3)身の回りの物や人について表現できる (4)予定や習慣について表現できるようになること						
	3. 事前事後学習 (1)教科書を事前に読んでおくこと。 (2)授業終了時に出される課題は、次回の授業時に確認するので復習しておくこと。 (3)各課に出てくる文法や単語を暗記すること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 韓国語の文字と発音(子音・母音)						
	② 韓国語の文字と発音(子音・パッチム)						
	③ 韓国語の文字と発音(単語)、韓国語の挨拶						
	④ 日本人の名前のハングル表記・自己紹介						
	⑤ 職業・国籍について話す						
	⑥ 身の回りの物の名称を韓国語で表現する						
	⑦ 身の回りの物の持ち主について表現する						
	⑧ 相手の名前を尋ねる						
	⑨ 自分の持ち物について話す						
	⑩ 家族について話す						
	⑪ 家や学校がどこにあるかについて話す						
	⑫ 物や人の位置関係を話す						
	⑬ 予定について話す						
	⑭ 習慣について話す						
⑮ 総括							
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考文献等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備考	1. メールでの質問は⇒miripnagi@me.comまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						



科目番号	14	授業科目	数学基礎 (Basic Mathematics)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 数学の面白さを知り、日常に適用する態度を育む						
	2. 到達目標 (1) 数学的活動の面白さを実感する (2) 数学の有用性を認識する (3) 獲得した技能を日常に応用する技量を備える						
	3. 事前事後学習 適宜、授業内で指示する						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① ガイダンス: 本講義の概要や目標等について						
	② 数の誕生と発展						
	③ 数にまつわる不思議なパターン						
	④ グラフを読み解く: 鹿児島の人人口変動とその背景						
	⑤ 数値を読み解く: オリンピック選手を選んでみよう						
	⑥ 順列・組合せ						
	⑦ 確率						
	⑧ 図形: タングラムで様々な形を作ろう						
	⑨ 図形: 迷路の解き方・作り方						
	⑩ 図形: 様々な図形の角度と面積						
	⑪ 関数: 関数とは?						
	⑫ 関数: 関数の表現 ー式、表、グラフ						
	⑬ 不思議な数: フィボナッチ数と黄金比						
	⑭ 微分と積分						
⑮ 総括							
成績評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は90分で実施 ○受講態度(15%) ○講義での発表や提出物(15%)						
参考文献等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する						
備考							
	オフィスアワー	月・水・金13時～18時(西館412号室)					

科目番号	15	授業科目	理科基礎 (Science)			担当者	内田 豊海
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 広範な分野の知に触れることを通し、科学の楽しさを味わい、科学的探究心を育む						
	2. 到達目標 (1) 理科の面白さを実感し、科学的事象に興味関心を持つ (2) 科学的思考能力や探究心を培う (3) 実験・観察能力を習得する						
	3. 事前事後学習 適宜、授業内で指示する						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① ガイダンス:科学的な考え方って何だろう						
	② 最先端の科学:科学でわかっていることとわかっていないこと						
	③ ものの見方:五感を使った観察1;触覚と視覚						
	④ ものの見方:五感を使った観察2;味覚、嗅覚と聴覚						
	⑤ 宇宙の誕生と進化						
	⑥ 地球:その多彩な環境						
	⑦ 生物の進化と多様性						
	⑧ 遺伝するもの、しないもの						
	⑨ 病気:病は気から?						
	⑩ エネルギーの作り方						
	⑪ 疑似科学:科学っぽいけど科学じゃないもの						
	⑫ 化学変化:身の回りの出来事を、化学式で表してみよう						
	⑬ 炎色反応:花火を作ってみよう						
	⑭ 社会と科学						
⑮ 総括							
成績評価	学期末試験の成績(50%) ※筆記試験は90分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)						
参考文献等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する						
備考							
	オフィスアワー	月・水・金13時～18時(西館412号室)					

科目番号	16	授業科目	分子からみた生物 (Molecular biology)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前後期	児教	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 見えないところでどのような生命現象が起こっているのか、遺伝学の観点から最近のトピックスを交えつついろいろな観点から物事をとらえられる教養を身につける。						
	2. 到達目標 (1) 生物について基礎的な知識を習得する。 (2) 最近の生物における知見を学ぶ。						
	3. 事前事後学習 最近の生物の出来事について新聞等で興味を持っておく。1時間ごとに単元として授業を行うので、前回の講義内容について、作成したノートをもとに見直しておく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 生物と細胞						
	② 生き物のからだをつくっているもの①						
	③ 生き物のからだをつくっているもの②						
	④ 細胞の増え方						
	⑤ 精子と卵のでき方						
	⑥ メンデルの遺伝						
	⑦ 血液型で遺伝を知ろう						
	⑧ 遺伝疾患の分類						
	⑨ 男の子、女の子の生まれる可能性						
	⑩ 羊のドリー クローン動物						
	⑪ 遺伝子改変植物の是非						
	⑫ 臓器移植と家畜						
	⑬ ご先祖様と人類(1)						
	⑭ ご先祖様と人類(2)						
	⑮ 総括						
⑯ 試験							
成績評価	受講態度(30%)および試験(70%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない						
備考							
	オフィスアワー	火・木・金の講義の無い時間					

科目番号	17	授業科目	人間と環境 (Human beings and the Environment)			担当者	江崎 一郎
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年前後期	児教	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会において特に顕著になってきている問題の一つが環境問題である。産業革命以降のさまざまな分野での近代化により、われわれの生活は物質的豊かさを享受することができるようになった。特に石油等の化石燃料の消費により、言わば「便利な生活」を手に入れたわけである。だが、このように便利で豊かな生活の限界が見え始めている。たとえば、地球温暖化がその一つであり、また局地的には発生しつつある食糧不足もその一つである。この講義では地球環境問題に的を絞り、人間と環境とのあるべき関係を考えると同時に、このことの基礎ともなるべき人間行為のあり方、そこにおける法的あるいは倫理的な問題をも考察の対象としながら、この問題の具体的解決策について考察することを授業の目的とする。						
	2. 到達目標 1,環境問題を主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 2,環境問題に対する理解を踏まえ、他者との関わりを思考できる。 3,環境問題に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。						
	3. 事前事後学習 授業開始前には、事前の下調べをする。 授業終了後には、学習した内容をノートにまとめ、必要な情報を収集する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション					
	②	環境問題とは					
	③	地球温暖化					
	④	オゾン層の破壊					
	⑤	熱帯林の伐採					
	⑥	砂漠化					
	⑦	酸性雨					
	⑧	公害問題					
	⑨	京都議定書					
	⑩	気候変動に関する国際連合枠組み条約					
	⑪	化学物質過敏症					
	⑫	環境ホルモン					
	⑬	環境基本法					
	⑭	新しい人権としての環境権					
⑮	総括						
成績評価	平常点30%、レポート70%。 教科書・ノート忘れ・無断欠席などは、減点。						
参考文献等	教科書:竹下 賢編 『第4版・入門法学』晃洋書房						
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方など)を行うので必ず出席すること。 受講生は、事前に教科書を購入し、ルーズリーフを準備しておくこと。						
	オフィスアワー	非常勤講師控室 金曜日 授業終了後30分					

科目番号	18	授業科目	日本国憲法 (Constitution of Japan)			担当者	池田 哲之
区分	開講学期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前後期	児教	講義	2	選択	幼教免・小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 日本国憲法の定める重要事項の意義を、判例解説も織りませ「立憲主義」の観点から明らかにする。ありうべき憲法改正たいして、的確な判断を下しうるための基本的知識を培うことも本授業の目的である。						
	2. 到達目標 (1)「人権」の歴史的由来と今日的意義を理解する。 (2) 統治機構と人権保障の関係について理解する。 (3) 日本国憲法制定過程の問題点を知る。						
	3. 事前事後学習 事前学習: あらかじめ日本国憲法の条文を二読三読しておいてほしい。 事後学習: 教員の与えた課題・ワークを、所定の期限内に確実にやりおえること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 憲法の誕生						
	② 近代立憲主義と憲法典の性格						
	③ 人権の種類						
	④ 人権の享有主体(1)－外国人・法人－						
	⑤ 人権の享有主体(2)－収監者・公務員－						
	⑥ 憲法の私人間効力、包括的基本権(憲法13条)						
	⑦ 信教の自由/内心の自由						
	⑧ 表現の自由/学問の自由						
	⑨ 人身の自由と適正手続						
	⑩ 経済的自由権と社会権						
	⑪ 統治機構と三権分立						
	⑫ 国会(立法府)の機能						
	⑬ 裁判所(司法府)の機能						
	⑭ 内閣(行政府)の機能						
	⑮ 総括－日本国憲法制定過程と憲法改正問題も視野に－						
⑯ 筆記試験・受講状況							
成績評価	学期末試験(90点)※筆記試験は70分で実施。 受講状況(10点) ※出席状況も勘案する。						
参考文献等	(1) 教員作成のレジュメ (2) 長尾一紘著『はじめて学ぶ やさしい憲法』実務教育出版 (3) 憲法条文資料						
備 考	履修要綱の記載内容は、受講生の理解度等により、授業開始後に変更となる場合もあります。						
	オフィスアワー	火曜日16:30～17:30					

科目番号	19	授業科目	海外事情 (Foreign Culture Experience)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ①異文化に接し、異文化への理解を深める。 ②体験的に国際感覚を養う。 ③自分の専門分野について国際比較の視点から理解を深める。						
	2. 到達目標 (1)異文化への理解 (2)国際感覚を養う (3)専門分野について国際比較できるようにする						
	3. 事前事後学習 事前指導として渡航先の概要、旅行に向けての諸準備等の説明を旅行会社と協力して行う。また、渡航先の簡単な会話練習等を本学教員を中心に行う。事後指導として帰国後に体験発表、レポート作成等を行う。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①「国外研修旅行」参加者の募集とその届出の提出。						
	②「国外研修旅行」の事前説明会と事前指導。						
	③「国外研修旅行」の実施。						
	④「国外研修旅行」に関する体験発表とレポート提出。						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	(1)1年生のみ2単位と成績が与えられる。 (2)成績と単位は、事前・事後指導の参加(20%)、研修旅行の参加とレポート提出(80%)によって与えられる。						
参考文献等							
備考	要注意: ① 参加希望者数、国内外の治安等の事由で国外研修旅行が行われず、よって「海外事情」を開講しないこともある。 ② 履修届けをする際、この科目の単位(2)を卒業の取得必修単位の内に加算しないこと。						
	オフィスアワー						

科目番号	20-①	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)			担当者	高島 まり子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 英語の総合力「聴く・話す・読む・書く」を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 到達目標 1.基礎的文法力を固める。 2.「聴く・話す・読む・書く」力の土台を固める。 3.リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く。						
	3. 事前事後学習 予習・復習・課題の提出						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	<Unit 7>					
	②	同					
	③	同					
	n i	<Unit 8>					
	⑤	同					
	⑥	同					
	⑦	<Unit 9>					
	⑧	同					
	⑨	同					
	⑩	<Unit 10>					
	⑪	同					
	⑫	同					
	⑬	<Unit 11>					
	⑭	同					
	⑮	同					
⑯	筆記試験						
成績評価	受講態度(40%)、期末試験(60%)の総合評価						
参考文献等	○ <i>Communication Builder</i> (吉富 昇 著、南雲堂 2014年) をテキストとして使用予定だが、変更の可能性あり。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	水曜日 12:00～14:00					

科目番号	20-②	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる。 2. 英語及び異文化に興味を持ち、進んで学習することができる。 3. 積極的に問題に取り組み、英語の理解を深めることができる。						
授業計画	3. 事前事後学習 各文法事項を授業時に理解したうえで、テキストの問題を復習しておくこと。						
	4. 各回の授業内容						
授業計画	① オリエンテーション(前期の復習)						
	② Unit 13 代名詞						
	③ Unit 14 前置詞						
	④ Unit 15 形容詞						
	⑤ Unit 16 副詞						
	⑥ Unit 17 比較(1)						
	⑦ Unit 18 比較(2)						
	⑧ Unit 19 接続詞 基本事項						
	⑨ Unit 19 接続詞 応用						
	⑩ Unit 20 受け身(受動態)						
	⑪ Unit 21 不定詞						
	⑫ Unit 22 動名詞						
	⑬ Unit 23 分詞						
	⑭ Unit 24 現在完了						
	⑮ 総括						
成績評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。						
参考文献等	テキスト : Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備考	オフィスアワー 金曜 12:55~14:25						



科目番号	20—③	授業科目	英語演習Ⅱ (Elementary English Conversation II)			担当者	霧島 S. 怜
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 The aim of the course is an accurate understanding of spoken phrases related to various themes and an endeavour at self-expression. (簡単な話しを正しく理解し、対話を試みること)						
	2. 到達目標 (1) 人の前で英文を綺麗に朗読すること。 (2) 会話等を素早く理解すること。 (3) 異文化理解。						
	3. 事前事後学習 各演習の予習をしっかりして貰います。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	演習の内容、方法と成績等についての説明。ミニ演習の実習。					
	②	U6. Saying "I love you" (読解と朗読 ☺)					
	③	同上 (英文の聞き取り、繰り返しとミニ会話 ☆)					
	④	U11. "Pet Peeve" (☺)					
	⑤	同上 (☆)					
	⑥	U7. Truth (☺)					
	⑦	同上 (☆)					
	⑧	U17. To Have or Have Not (☺)					
	⑨	同上 (☆)					
	⑩	U18. Are Humans Smart? (☺)					
	⑪	同上 (☆)					
	⑫	Special IAAE 14. A Thief Who Begged! (☺ ☆)					
	⑬	Special IAAE 27. The Last Dance! (☺ ☆)					
	⑭	Special. St.Valentine! (☺ ☆)					
	⑮	受講生が選択するテーマ。異文化について学びましょう。(X?)					
	⑯	まとめとMini-test!					
成績評価	予習 40% 演習参加内容 40% Mini-test 20%						
参考文献等	Textbook 前期教科書の後半。						
備考	学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte!"(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名な諺が教示するように、誰も一晩で有名な先生の指導によって外国語を身につけたことはありません。具体的で魅力的な動機があれば、一番早く学びます。では、後期も元気で学びましょう…						
	オフィスアワー	非常勤控え室にて 14:00-14:30					

科目番号	21	授業科目	ドイツ語演習Ⅱ (Elementary German II)			担当者	武田 輝章
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ドイツ語を使って自分のことを紹介してみましょう。さらに、身のまわりのことや日本のことを簡単に説明してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることが目標です。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界の違いを自分の眼で確かめてみましょう。						
	2. 到達目標 ドイツ語で自己紹介ができるようになる。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざす。						
	3. 事前事後学習 授業に臨む前にあらかじめ単語の発音と意味を調べる。基本的な表現を繰り返して音読し、次の時間までに暗唱してくる。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 授業方針・授業改善の説明						
	② 前期の復習「忘れたら思い出そう」						
	③ 発信(1)「ドイツ語で自己紹介」						
	④ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」						
	⑤ 情報収集(1)「分からないことは聞いてみよう」						
	⑥ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑦ 発信(4)「ドイツ語で他己紹介」						
	⑧ 情報収集(2)「未知の世界を覗いてみよう」						
	⑨ 読む(1)「辞書を引くのは楽じゃない」						
	⑩ 書く(1)「辞書を使うのも楽じゃない」						
	⑪ 読む(2)「辞書が引ければ一人前」						
	⑫ 書く(2)「辞書が使えれば二人前」						
	⑬ 文化(1)「ヨーロッパの歴史と風土」						
	⑭ 文化(2)「ヨーロッパの視点で見る」						
	⑮ 総合「後期のまとめ」						
⑯ 筆記試験(60分で実施)							
成績評価	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)						
参考文献等	1 テキストについては授業で指示 2 新アポロン独和辞典(同学社) 3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社) 4 ビデオ・DVD・CDなどを使用						
備考							
	オフィスアワー	木曜日12:30~13:30(研究室)					

科目番号	22	授業科目	中国語演習Ⅱ (Chinese practice Ⅱ)			担当者	谷口 明夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 中国語の基礎的な発音、特に声調と母音・子音及び簡単な単語、挨拶ことば、初歩的な文法を学んだことのある人のための科目です。中国語演習Iで学んだ発音と文法の知識を基礎として学習を進め、基本的な読み、書き、話し、聞く力を伸ばすことを目標とします。						
	2. 到達目標 ①人数・金額・年月日・曜日・時間(～時～分)など、数字を使った表現を理解し、使うことができる。 ②「～は～より～だ」等の比較の表現、「いつ、どこで～する」等の表現を理解し、使うことができる。 ③完了と経験の表現、「～するのが好きだ」等の表現を理解し、使うことができるようになる。 ④上記の文型を理解し、文例を記憶することにより、簡単な日記を書くことができるようになる。						
	3. 事前事後学習 ①学んだ単語と文、特に教科書の本文を、毎日声に出して読んで覚えて下さい。特に発音がよくなります。 ②学んだ単語と文型だけを使って、簡単な日記を書いて下さい。まだ複雑な考えなどを書くことは不用です。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 第6課:「～するのが好き」 助動詞「要」						
	② //						
	③ //						
	④ 第7課:曜日の言い方。「あさ・ひる・ばん」などの時間詞。数量を表わす方法。						
	⑤ // V :日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10						
	⑥ // VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3						
	⑦ 第8課:時刻の言い方。ここ・そこ・あそこ。所在を表す文。「～から～まで」の表現。						
	⑧ //						
	⑨ //						
	⑩ 第9課:完了の表現。「とても・非常に～」の表現。「～しているところだ」						
	⑪ //						
	⑫ //						
	⑬ 第10課:助動詞”会”と”能””できる”の表現。様態補語「～得～」						
	⑭ //						
⑮ //							
成績評価	学期末試験の成績(85%)・受講態度(15%) 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考							
	オフィスアワー	授業終了後					

科目番号	23	授業科目	韓国語演習Ⅱ (KoreanⅡ)			担当者	金 孝珍
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年後期	児教	演習	2	選択必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 韓国語の学習を通して、隣国の韓国への理解を深めるとともに国際感覚を身につけ韓国人との交流だけではなく世界の人々との交流に役立てる素質を培う。						
	2. 到達目標 (1)趣味・日付・電話番号・時間・個数・値段が表現できる (2)予定や習慣について表現できる (3)人や物の姿や性質、自分の感じていることが表現できる (4)店や食堂で買い物をしたり、注文したりできるようになること						
	3. 事前事後学習 (1)教科書を事前に読んでおくこと。 (2)授業終了時に出される課題は、次回の授業時に確認するので復習しておくこと。 (3)各課に出てくる文法や単語を暗記すること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 趣味や職業について話す						
	② 月日を表現する						
	③ 自分の持ち物や家族について話す						
	④ 電話番号を表現する						
	⑤ 数を数える、時間を表現する						
	⑥ 予定や習慣について話す						
	⑦ 〃						
	⑧ 授業時間・営業時間等を表現する						
	⑨ 人や物の姿や性質を表現する						
	⑩ 自分の感じていることを表現する						
	⑪ 移動の手段・所要時間を表現する						
	⑫ 値段を尋ねる・値段を言う						
	⑬ 個数を言って注文する						
	⑭ 食堂での会話						
⑮ 総括							
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考文献等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備考	1. メールでの質問は⇒miripnagi@me.comまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						

科目番号	24	授業科目	体育講義 (Science of Sports and Exercise )			担当者	黒原 貴仁
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	1	選択	小教免・幼教免・保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 近年、生活習慣病の増加や個人の価値観を尊重する傾向が強くなっていることにもない、健康とスポーツに対するかつてない関心と欲求を生み出している。本講義は現代生活における健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できるような基礎的理解を深めることを目的とする。						
	2. 到達目標 1.健康についての基礎的理解を深める 2.スポーツについての基礎的理解を深める 3.健康とスポーツの相互関係の理解を深める						
	3. 事前事後学習 事前;スポーツについての情報収集を行うこと 事後;授業でのポイントを整理すること						
	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション(健康とは?運動とは?)						
	② オリンピックについて						
	③ 現代社会におけるスポーツの社会的意義						
	④ 生涯スポーツとは?						
	⑤ ダイエットと運動効果						
	⑥ 生活習慣病とその予防						
	⑦ ヘルスプロモーションの意義						
	⑧ まとめ(45分) 筆記試験(45分)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
⑫							
⑬							
⑭							
⑮							
成績評価	筆記試験(70%)及びレポート課題(30%)による						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	月曜日 5・6限					

科目番号	25	授業科目	体育実技 (Lifetime Sports Activity)			担当者	黒原 貴仁
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	実技	1	選択	小教免・幼教免・保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会において、スポーツは豊かなQOL(生活の質)の観点からも重要な役割を担っている。また、スポーツは望ましい人間関係の構築や地域の活性化、活力ある民主的な社会の発展に大きく寄与する人類の貴重な文化のひとつである。本授業は体を動かすことの楽しさや意義を理解し、生涯をとらして積極的にスポーツに参加できるような基礎的な知識、技術、態度を習得し、健康・安全、体力の保持増進への基礎的な能力を高めることを目的とする。						
	2. 到達目標 1.健康的な心と体をつくるための知識を高める 2.スポーツをとらしてコミュニケーション能力を高める 3.充実した生活を送るための体力を高める						
	3. 事前事後学習 事前;実技に耐えうる体力を高める 事後;各種目の動きについてフィードバックを行う						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション、前半の種目選択と実践					
	②	ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	③	)					
	④	前半活動期間					
	⑤	[バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する]					
	⑥	各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	⑦	)					
	⑧	)					
	⑨	後半の種目選択、ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	⑩	)					
	⑪	後半活動期間					
	⑫	[バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する]					
	⑬	各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	⑭	)					
⑮	)						
成績評価	参加態度(70%)、ゲーム結果(30%)等を総合して評価する。						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	月曜日 5・6限					

科目番号	26	授業科目	「WE LOVE 鹿児島！」 (Seminar for Local Identity Education)			担当者	高島 まり子他	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	児教	演習	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 学生を鹿児島再発見の旅へと導き、自分の中の地域を見つめ、地域の中に自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」の自覚を促す。同時に地域での体験や貢献活動を含め、地域課題への取り組みを通して意欲的な「地域活性化の担い手」として貢献できる人材となることを目指す。							
	2. 到達目標 1.鹿児島再発見。 2.「ローカル・アイデンティティ」の自覚を深める。 3.「地域活性化の担い手」としての基礎を固める。							
	3. 事前事後学習 開講前の科目趣旨についてのオリエンテーション。 講師の活動や著書の紹介を通じた予習。毎回の授業後のレポート提出。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	オリエンテーション					(瀬戸・新村・高島)	
	②	講義1					(大木・横峯)	
	③	講義2					(原口・田村)	
	④	講義3					(新村・中村)	
	⑤	演習1					(横峯・内田・坪井)	
	⑥	演習2					(池田・瀬戸口・高島)	
	⑦	演習3					(宇都・谷川・丸田)	
	⑧	体験型授業1					(松崎・山元)	
	⑨	体験型授業2					(村若・平嶋)	
	⑩	演習4					(井上・松下)	
	⑪	演習5					(小松・高島)	
	⑫	演習6					(大村・黒原)	
	⑬	体験型授業3					(日本赤十字鹿児島支社職員・今村・ボランティア)	
	⑭	体験型授業4					(日本赤十字鹿児島支社職員・今村・ボランティア)	
	⑮	プレゼンテーション指導					(瀬戸・新村・高島)	
⑯	プレゼンテーション試験							
成績評価	学期末のプレゼンテーション試験(60%), 受講態度と提出物(40%)							
参考文献等	*教材:プリント配布、視聴覚教材 *視聴覚機器(PC・プロジェクター・スクリーン)使用							
備考	*諸般の事情により、講義や体験型授業の日程、担当者等が変更になる可能性がある。 *授業内容の詳細は、開講前に資料を配布して解説する。							
	オフィスアワー	火曜日の14:00~17:00						

# 專 門 科 目





科目番号	101	授業科目	音楽 I (Music I)			担当者	新村 元植
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	必修		
授業の 目標及 び内容	1. 授業の目的 幼児教育に必要な基礎的音楽理論と幼児曲の歌唱を演習する。						
	2. 到達目標 授業の前半;(45分)「保育者として必要な幼児曲弾き歌い技術の修得」 ①1グループ2名が、歌唱援助者と伴奏者を分担する。 ②幼児に見立てた学生を対象に、幼児曲を歌唱し、援助する演習を実施する。 授業の後半;(45分)「幼児教育及びに必要な音楽理論の修得」 ①音楽の基礎的知識(楽典等)や幼児に対する音楽的援助についての演習する。						
	3. 事前事後学習 演習に際しては、事前に各グループごとに幼児曲の伴奏及び援助について研究する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 音楽理論1(五線、下線、音部記号、譜表、幹音名)						
	② 音楽理論2(派生音名、変化記号、楽譜の記譜法)						
	③ 音楽理論3(音符、休符、付点、タイ等の音楽に関する記号)						
	④ 音楽理論4(拍子、小節、拍子記号等の音楽に関する記号)						
	⑤ 幼児に対する音楽的援助1(幼稚園教育要領を基にした音楽的援助の考え方)						
	⑥ 音楽理論5(幹音の音程)						
	⑦ 音楽理論6(派生音の音程)						
	⑧ 幼児に対する音楽的援助2((幼児の音楽的な表現のねらいと活動内容)						
	⑨ 音楽理論7(長音階の構造と作成演習)						
	⑩ 音楽理論8(長音階及び短音階の構造と作成演習)						
	⑪ 幼児に対する音楽的援助3(幼児の音楽的能力の発達について)						
	⑫ 音楽理論9(同主調・平行調・属調・下屬調)						
	⑬ 音楽理論10(同主調・平行調・属調・下屬調)の問題演習						
	⑭ 幼児に対する音楽的援助4(保育における指導計画の立案とその考え方)						
⑮ 総合的演習(保育に必要な基礎的音楽知識のまとめ)							
成績評価	1) 期末試験では筆記試験(90分)を実施し、講義内容の理解度を評価する。(70%) 2) 平常点(授業課題・出席等)を評価する。(30%)						
参考文献等	うたとあそび(鹿児島私立幼稚園協会編) ピアノテキスト(全国大学音楽教育学会九州地区学会編)						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日(新村研究室)					

科目番号	102	授業科目	器楽 I (Piano I)			担当者	中村 礼香 稲森 奈津子
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	1年・前期	児教 (小・幼・小・保/幼・保)	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 子どもの音楽教材の伴奏ができるように、ピアノ奏法の基本と応用力を修得する						
	2. 到達目標 ・バイエル78番まで弾けるようになる ・幼児曲の伴奏が弾けるようになる						
授 業 計 画	3. 事前事後学習 ・授業で毎回1曲は合格がもらえるように事前に練習した上でレッスンに臨む。 ・授業後は、レッスンで注意されたことを復習する。						
	4. 各回の授業内容						
	①	グループ分け後、バイエル3・4・5・6・7 を中心に個人指導及び集団指導					
	②	バイエル44,44'を中心に個人指導及び集団指導					
	③	バイエル8・11を中心に個人指導及び集団指導					
	④	バイエル16/「みつばちマーチ」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑤	バイエル19を中心に個人指導及び集団指導					
	⑥	バイエル29/「手をたたきましょう」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑦	バイエル48/「ぞうさん」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑧	バイエル52/「きらきら星」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑨	バイエル55/「あくしゅでこんにちは」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑩	バイエル66/「七夕さま」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑪	バイエル68・69を中心に個人指導及び集団指導					
	⑫	ハ長調スケール・カデンツ/「ちょうちょ」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑬	ト長調スケール・カデンツ/「水あそび」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑭	バイエル78/「さんぽ」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑮	試験曲のための個人指導及び集団指導					
	⑯	ピアノ実技試験					
成績 評価	① ピアノ実技試験を行う。 ② バイエル78番以降の任意の1曲、または履修した幼児曲1曲から弾き歌いのいずれかを暗譜で演奏する。 ③ 成績は実技試験(50%)と、平常点及び受講態度(50%)とする。						
参考 文献 等	テキスト : うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ピアノテキスト(全国大学音楽教育学会九州地区編) ピアノ教則本(ソナチネアルバム、ブルグミュラー他レベルに応じたもの)						
備 考	オフィスアワー	(中村研究室)月～金 9:00～18:00(ただし授業時間を除く)					

科目番号	103-①	授業科目	体育 I (Physical Education I)			担当者	小松 恵理子 黒原 貴仁
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ○小学校体育で取り扱う運動の演習を行う。適切な運動実践や安全についての理解を深めつつ、運動に親しみ小学校教員として必要な基礎的技能を養う。						
	2. 到達目標 (1) 小学校体育の内容を指導するためにふさわしい知識や技能が身につけられる。 (2) 小学校体育の内容を指導するため安全についての知識・理解を身につける。 (3) 小学校教員としてふさわしい態度や考え方を身につけられる。						
	3. 事前事後学習 (小松) 授業中に出す課題達成のため、グループワークや自主練習が必要である。 (黒原) 事前学習は、実技に耐える体力を高める。 事後学習は、各種目の動きについてフィードバックを行う						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション・ストレッチ指導法					(黒原)
	②	基本の運動	走・跳の運動遊び、力試しの運動遊び				(黒原)
	③	ゲーム	ゴール型				(黒原)
	④		ネット型				(黒原)
	⑤		ベースボール型				(黒原)
	⑥	器械運動	マット運動				(黒原)
	⑦		跳び箱運動				(黒原)
	⑧	陸上運動	短距離走・リレー及びハードル走、走り幅跳び				(黒原)
	⑨	表現運動	①オリエンテーション 動く楽しさから表現へ				(小松)
	⑩		②即興教育				(小松)
	⑪		③リズム作り				(小松)
	⑫		④リズムとイメージ				(小松)
	⑬		⑤動きの発展—運動の5要素を利用して—				(小松)
	⑭		⑥作品形式・伴奏音編集法				(小松)
	⑮		⑦発表・評価				(小松)
⑯		⑧実技試験				(小松)	
成績評価	参加態度(70%)及び課題達成(30%)を総合して評価する。(黒原) 授業中の課題(90%) / 受講態度(10%) (小松)						
参考文献等	三浦弓杖編著：「ダンス学習指導」光文書院 マリオン・ゴフ著：「ダンスの教え方・学び方」玉川大学出版部						
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー	黒原：月曜日5・6限 小松：月曜日午後					

科目番号	103-②	授業科目	体育 I (Physical Education I)			担当者	小松 恵理子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (幼保)	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児教育における「領域 健康」や「領域 表現(身体表現)」を中心に、多くの場面で必要とされる美しく機能的に動ける身体を育成するとともに、それらの活動において必要とされる創作舞踊の基礎的理論と技術を習得し、指導者としての資質の向上を目指す。						
	2. 到達目標 (1) 基礎的舞踊技術を身につける。 (2) 基礎的創作舞踊理論を身につける。 (3) 学んだ理論を駆使し、作品創作・発表が行える。						
	3. 事前事後学習 授業中に出す課題達成のため、グループワークや自主練習が必要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 基礎的舞踊技術1: 身体感覚を鋭敏にするとともに、動く身体を実感し、動く楽しさを体験する。						
	② 基礎的舞踊技術2: 身体感覚を鋭敏にするとともに、動く身体を実感し、動く楽しさを体験する。						
	③ 即興教育法1 : 楽しく運動を創り出す方法を学ぶ。						
	④ 即興教育法2 : 楽しく運動を創り出す方法を実習する。						
	⑤ リズム原論1: 基礎的専門技術となる『運動を舞踊運動(表現運動)にする方法(動きのリズム)』について学ぶ。						
	⑥ リズム原論2: 基礎的専門技術となる『運動を舞踊運動(表現運動)にする方法(動きのリズム)』について学ぶ。						
	⑦ 空間論1: 表現と空間の意義について学ぶと共に、舞踊運動に活かす効果的な空間の使い方について学ぶ。						
	⑧ 空間論2: 表現と空間の意義について学ぶと共に、舞踊運動に活かす効果的な空間の使い方について学ぶ。						
	⑨ 運動分析論1: ルドルフ・ラバンの研究による運動分析論を学び、舞踊運動(表現運動)の分析や動きの変化・発展を学ぶ。						
	⑩ 運動分析論2: ルドルフ・ラバンの研究による運動分析論を学び、舞踊運動(表現運動)の分析や動きの変化・発展を学ぶ。						
	⑪ 形式論: 作品のまとめ方・伴奏音編集方法について学ぶ。						
	⑫ 作品創作1: 授業で学んだ内容を基盤に、現時点で最も関心のある題材を選択し、グループで作品を創作する。						
	⑬ 作品創作2: 授業で学んだ内容を基盤に、現時点で最も関心のある題材を選択し、グループで作品を創作する。						
	⑭ 作品創作3: 授業で学んだ内容を基盤に、現時点で最も関心のある題材を選択し、グループで作品を創作する。						
	⑮ 作品発表 : グループ毎に創作作品の発表を行う。						
⑯ 実技試験							
成績評価	授業中の課題(90%) 受講態度(10%)						
参考文献等	三浦弓杖編著:「ダンス学習指導」光文書院 マリオン・ゴフ著:「ダンスの教え方・学び方」玉川大学出版部						
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー	月曜日午後					

科目番号	104-①	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	必修	小教免・幼教免必修 保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本講義は幼稚園及び小学校の教諭を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは、具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲を高まることを期待する。						
	2. 到達目標 (1) 教職の意義 (2) 教員の役割 (3) 教員としての資質の吟味						
	3. 事前事後学習 導入的講義であるため事前学習は必要ないが、後期の「教育原理」で本科目との関連づけを図ること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 自らを知ることーオリエンテーション						
	② 教員とは誰かⅠー幼稚園教諭の役割ー						
	③ 教員とは誰かⅡー幼稚園教諭の資質ー						
	④ 教員とは誰かⅢー小学校教諭の役割ー						
	⑤ 教員とは誰かⅣー小学校教諭の資質ー						
	⑥ 法的にみた教員の職務内容等						
	⑦ 子どもを知ることー心理学から見てー						
	⑧ 子どもを知ることー社会学から見てー						
	⑨ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅰ)						
	⑩ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅱ)						
	⑪ 小学校教育の具体的な実践内容(Ⅰ)						
	⑫ 小学校教育の具体的な実践内容(Ⅱ)						
	⑬ 小学校教育の具体的な実践内容(Ⅲ)						
	⑭ 幼稚園と小学校の連携を見据えて						
⑮ 総括							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	使用せず						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日除く随時					

科目番号	104-②	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	池田 哲之 山元 有一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (幼保)	講義	2	必修	幼教免必修 保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本講義は、幼稚園教諭等を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲が高まることを期待する。なお、本講義は前半を山元が、後半を池田がそれぞれ担当する。						
	2. 到達目標 1 教職の意義 2 教員の役割 3 教員としての資質の吟味						
	3. 事前事後学習 1年前期の免許取得の導入的科目なので特段の事前学習は必要ないが、ニュースや新聞などで日頃から子どもや子どもを廻る諸問題に関心を持ってもらいたい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 教員とは誰かⅠ - 教員の役割 -						
	② 教員とは誰かⅡ - 教員の資質 -						(山元)
	③ 自らを知ること						(山元)
	④ 子どもを知ること						(山元)
	⑤ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅰ)						(山元)
	⑥ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅱ)						(山元)
	⑦ 幼稚園教育の具体的な実践内容(Ⅲ)						(山元)
	⑧ 乳幼児たちの現在 - 養育環境の変容 -						(池田)
	⑨ 学校・保育施設をめぐる事故・事件Ⅰ - その動向 -						(池田)
	⑩ 学校・保育施設をめぐる事故・事件Ⅱ - 具体的ケースから -						(池田)
	⑪ 保育者等の安全配慮義務Ⅰ - 債務不履行法理 -						(池田)
	⑫ 保育者等の安全配慮義務Ⅱ - 不法行為法理 -						(池田)
	⑬ 現行幼稚園教育法制 - その当否の検証 -						(池田)
	⑭ これからの幼児教育と幼稚園教育法制度						(池田)
⑮ 総括						(山元・池田)	
成績評価	学期末試験に代え、教員各々にレポート(100%)を提出し、それぞれのレポートの評点を合算して評価する。						
参考文献等	池田担当講義では、池田哲之ほか著『人間関係能力育成の研究』(くらすなや書房)を使用。山元は使用せず。						
備考							
	オフィスアワー	池田:火曜日16:30~17:30 山元:水・木曜日除く随時					

科目番号	105	授業科目	保育原理 (Principle of Childcare)			担当者	丸田 愛子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小・幼/小・保/幼・保)	講義	2	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保育の意味や役割を理解した上で、施設保育(主として保育所と幼稚園における保育)における目的、思想や歴史、内容、方法など基礎的事項を広く学習する。また、保育所保育指針におけるポイントを読み解きながら、現代の保育に求められていることを理解する。また、これらの学習を通して、保育所・幼稚園という職場や保育士・幼稚園教諭という専門的な仕事を理解することで、保育実習や教育実習などその後の実践的な学習の準備をおこなう。						
	2. 到達目標 1. 「保育」の意味や役割を理解し、自らの子ども観・保育観を深めている。 2. 保育所・幼稚園という職場、保育士・幼稚園教諭という専門的な仕事を理解している。 3. 保育の思想や歴史、現代の課題を理解し、社会的役割について意識できる。						
	3. 事前事後学習 毎回の講義の後、各自、配布されたプリント等をもとに復習することが望ましい。また、十分に理解できなかった内容は、講義後あるいは次回講義等で質問をし、不明な点を残さないこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション (私たちの子ども観と保育について)						
	② 保育の意義 (養護と保育, 子どもの最善の利益)						
	③ 保育の目的 (保育所と幼稚園, 認定こども園, 関連法令)						
	④ 保育の歴史と思想 (1) : 世界の保育史(最初期の保育思想)						
	⑤ 保育の歴史と思想 (2) : 世界の保育史(近代の保育思想)						
	⑥ 保育の歴史と思想 (3) : 日本の保育史, 諸外国における現代の保育						
	⑦ 保育の原理 (1) : 養護と保育の一体性						
	⑧ 保育の原理 (2) : 子どもの遊びと活動, 子どもの主体性, 環境を通じた保育						
	⑨ 保育の原理 (3) : 子育て支援, 保護者に対する援助						
	⑩ 保育の内容 (1) : 保育内容, 内容とねらい						
	⑪ 保育の内容 (2) : 5領域, 総合的な保育						
	⑫ 保育の内容 (3) : 発達過程, 子ども個々に応じた援助						
	⑬ 保育の方法 (1) : 保育のさまざまな形態						
	⑭ 保育の方法 (2) : 保育の計画, 評価						
⑮ 現代における保育の課題 (子どもの生活環境, 現代の子育て, 保育制度の将来, 他)							
成績 評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況(20%程度) 2. 学期末筆記試験(80%程度) ※筆記試験は90分で実施 以上による総合評価とする。						
参考 文献 等	[テキスト] ※配布プリントを中心とする。 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター						
備 考							
	オフィスアワー	月 16:30~17:30					



科目番号	106	授業科目	教育心理学 (Educational psychology)			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 児童の発達および学習の過程を理解し、指導・援助について基本的な考え方を理解する。						
	2. 到達目標 ① 学習の過程及び動機づけについて理解する ② 発達過程に応じた指導援助を理解する ③ 問題行動について理解し、援助方法を知る						
	3. 事前事後学習 事前学習として、参考図書として「幼児期から児童期への教育」「育ちあう乳幼児教育保育」「絶対役立つ教育心理学」などの図書を紹介し、自分の受けた教育を振り返るレポートを作成する。事後学習では教育に関する新聞やテレビなどの報道から、現在の教育にかかわる問題について、自分なりの意見を持つように指導する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 子どもの発達的特徴						
	② 動機づけ理論1：動機付け過程とその原理						
	③ 動機づけ理論2：内発的動機づけ						
	④ 動機づけ理論3(外発的動機づけ)						
	⑤ 学習の理論1(代表的理論の概説)						
	⑥ 学習の理論2: 連合理論						
	⑦ 学習の理論3：観察学習・認知理論						
	⑧ 幼児期の遊びの特徴と意義						
	⑨ 学習指導法(発見学習、有意味重要学習、プログラム学習)						
	⑩ 記憶のプロセスと「理解」の理論						
	⑪ 人格・知能の発達と理論						
	⑫ 教育評価の目的とその種類						
	⑬ 学級経営における教師の役割と子どもとの人間関係						
	⑭ 教育相談に関する考え方と指導・援助						
⑮ 総括							
成績評価	1. 授業で出される課題の達成(15%) 2. 筆記試験(70%)※60分で実施 3. 受講態度(15%)						
参考文献等	テキスト;教育心理学I:発達と学習 渡部・豊田(著)サイエンス社 参考資料を適宜、配布するので、ファイリングすること 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 16:30~17:30					

科目番号	107	授業科目	教育制度論 (Educational Law System)			担当者	池田 哲之
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期 2年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	幼教免・小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 近代学校教育制度の歴史的変遷を踏まえ、学校教育(公教育)のあるべき姿を考察する。						
	2. 到達目標 (1) 国民国家における学校の機能を理解する。 (2) 戦後教育改革の意義およびその問題点を知る。 (3) 今日もとめられる公教育像を構築しうる知見をえる。						
	3. 事前事後学習 事前学習: 日ごろから教育問題に関心を持ち、新聞、インターネット等の教育記事に目を通す習慣をつけること。 事後学習: 教員の与えた課題を、所定の期限内に確実にやりおえること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 幕末期の教育概況－寺子屋・藩校・塾－						
	② 「学制」布達－近代学校教育制度の萌芽－						
	③ 森 有礼の教育政策－諸学校令－						
	④ 教育勅語(「教育ニ関スル勅語」)の渙発						
	⑤ 大正期の教育動向－大正デモクラシーの時代－						
	⑥ 戦時教育体制						
	⑦ 占領支配下の教育改革－四大教育指令－						
	⑧ 旧教育基本法の成立						
	⑨ 高度経済成長期下の教育政策						
	⑩ 臨時教育審議会－戦後教育政策の転換点－						
	⑪ 子どもの変容－社会・教育病理の顕在化－						
	⑫ 改正教育基本法の成立の背景						
	⑬ 改正教育基本法の要点						
	⑭ 教育改革の諸動向						
	⑮ 総括						
⑯ 筆記試験・受講状況							
成績 評価	学期末試験(85点)※筆記試験は60分で実施予定。 受講状況(15点)※出席状況も勘案する。						
参考 文献 等	(1) 教員作成のレジュメを、ほぼ毎時配布する。 (2) テキストについては、講義時に指示する。						
備 考	単位互換開放対象科目 シラバスの記載内容は、受講生の理解度等により、授業開始後に変更となる場合があります。						
	オフィスアワー	火曜日16:30～17:30					

科目番号	108-①	授業科目	発達心理学 I (Developmental psychology I)			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (1・2組)	講義	2	必修	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人は一生涯をかけて成長し、変化し、発達していく存在である。本講義では、人間観と発達観に関する知識を増やし、人間への理解を深めるとともに、対人援助技術への認識も深めていけるよう学習を進めていく。 また、発達の様相を概観するにあたっては、こころの発達に重要なテーマに沿って乳幼児期・児童期の発達を解説した後、親や保育者の心の発達についても考え、こころの生涯発達の理解を目指す。						
	2. 到達目標 1. 人間観と発達観に関する知識をもち、人間について広い理解ができる。 2. 乳幼児期・児童期の心の発達に重要なテーマを理解し、援助に活かせる。 3. 子どもの保護者、教師・保育者自身の心の健康について認識を深めている。						
	3. 事前事後学習 毎回の講義の後、各自、教科書の該当箇所を読み、復習および補足学習することが望ましい。また、十分に理解できなかった内容は、講義後あるいは次回講義等で質問をし、不明な点を残さないこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション (心理学とこころと発達)						
	② 発達の基本的特徴 (発達の特徴, 生涯発達の概念, 保育者のメンタルヘルス)						
	③ 赤ちゃんの能力 (原始反射, 身体/運動の発達, 気質, コミュニケーション能力)						
	④ 愛着関係の発達 (1) : 母子関係, 愛着, 基本信頼感						
	⑤ 愛着関係の発達 (2) : 愛着の感受性, 愛着と対人関係, 保育者の愛着						
	⑥ 知的な発達 (1) : ピアジェの理論, 子どもの思考の発達						
	⑦ 知的な発達 (2) : 子どもの能力と特有の世界観						
	⑧ 自己と情動の発達 (自己意識, 第一次反抗期, 情動調整)						
	⑨ 仲間関係と社会性の発達 (1) : 乳幼児期の対人関係, 遊びの発達, ことばの発達						
	⑩ 仲間関係と社会性の発達 (2) : 他者理解, 思いやり, 自己コントロール, 道徳性の発達						
	⑪ 大人になること (児童期, 思春期から成人期の発達)						
	⑫ 親になること (成人期から中年期の発達)						
	⑬ 老いを迎えること (老年期の発達)						
	⑭ 保育者として生きること						
⑮ 現代の子どもの育ちとこころの援助							
成績評価	1. 受講態度 (15%) 2. 授業中の課題及びレポート等の提出状況 (15%) 3. 学期末筆記試験 (70%) 以上による総合評価とする。						
参考文献等	テキスト ; 教育心理学 I : 発達と学習 渡部・豊田 (著) サイエンス社 参考文献等 ; 授業中に適宜紹介する。 視聴覚機材 ; 書画カメラ, PC, プロジェクター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月 16:30~17:30					

科目番号	108-②	授業科目	発達心理学 I (Developmental psychology I)			担当者	平嶋 慶子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (幼保)	講義	2	必修	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人の生涯にわたる発達変化を概観し、発達についての基礎理解を図る。						
	2. 到達目標 ①発達の概念と発達の原則を学ぶ。 ②発達理論を理解する。 ③それぞれの発達段階の特徴を知り、自分や他者の理解を深める。						
	3. 事前事後学習 講義後の復習を主とする。テキストと共に配布資料を確認し、次回の講義までに用語や概念を理解しておくことが重要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 発達とは①発達の定義と発達の原則						
	② 発達とは②発達の規定因と発達段階						
	③ 発達のはじめ～胎児期～新生児期						
	④ 乳児期						
	⑤ 幼児期前半						
	⑥ 幼児期後半						
	⑦ 児童期①思考と学習						
	⑧ 児童期②社会性の発達						
	⑨ 思春期～青年期						
	⑩ 成人(壮年期～老年期)						
	⑪ 発達を説明する理論①前成説・先決説						
	⑫ 発達を説明する理論②遺伝説・経験説						
	⑬ 発達を説明する理論③相互作用説						
	⑭ 発達をつまづき(遅れ)、発達障がいとその支援						
	⑮ 集団保育と発達						
⑯ 試験							
成績評価	筆記試験は90分で実施 試験80% 受講態度20%						
参考文献等	保育・教育ネオシリーズ5 発達の理解と保育の課題 無藤隆 編著 同文書院						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(ただし火曜日を除く)・要事前連絡					

科目番号	109	授業科目	学校経営と学校図書館 (Management in the Sochool and Sochool Library)			担当者	岩下 雅子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学校教育において中心的な役割を果たすことが期待される学校図書館について、その機能を十分に発揮するにはどのように運営すべきであるのか、学校図書館の経営、そのほか学校教育、職員、地域との関わりについて解説する。						
	2. 到達目標 学校図書館の機能と学校教育、学校職員や地域との連携、学校図書館の評価と改善などを中心に学習する。その際、司書教諭としての業務だけでなく学校の管理者としての視点から学校図書館の経営について考える。						
	3. 事前事後学習 事前に配布されたプリントは前もって読んでおく。質問事項は事前に配布したプリントに記入して提出する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 図書館としての学校図書館						
	② 学校図書館の理念						
	③ 学校図書館の教育的意義(1)						
	④ 学校図書館の教育的意義(2)						
	⑤ 教育行政と学校図書館						
	⑥ 学校図書館の経営(1)						
	⑦ 学校図書館の経営(2)						
	⑧ 司書教諭と学校司書						
	⑨ 学校図書館メディアの構築と管理(1)						
	⑩ 学校図書館メディアの構築と管理(2)						
	⑪ 学校図書館活動(1)						
	⑫ 学校図書館活動(2)						
	⑬ 学校内での相互協力						
	⑭ 図書館の相互協力						
⑮ 総括							
成績評価	受講態度(15%) 筆記試験(60分で実施、85%)						
参考文献等	テキストはなし。プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	110	授業科目	社会科教育法 ( Teaching Method of Social Studies )			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 目的・内容・方法・評価等の面から小学校社会科教育の在り方について理解し、また、模擬授業等とおして必要な技能を習得して実践できるようにする。						
	2. 到達目標 (1) 社会科教育の目標・内容・方法・評価について理解する (2) (1)の学習成果を活用して授業実践ができる (3) 模擬授業により協働して活動を構成することができる						
	3. 事前事後学習 講義内容の振り返りや模擬授業の準備をとおして、授業内容の理解を深める。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	イントロダクション					
	②	中学年の目標・内容と実践事例 (1)					
	③	中学年の目標・内容と実践事例 (2)					
	④	第5学年の目標・内容と実践事例					
	⑤	第6学年の目標・内容と実践事例					
	⑥	社会科教材開発論 (1)					
	⑦	社会科教材開発論 (2)					
	⑧	社会科の授業技術					
	⑨	社会科の評価					
	⑩	学習指導案の作成方法					
	⑪	模擬授業と検討会 (1)					
	⑫	模擬授業と検討会 (2)					
	⑬	模擬授業と検討会 (3)					
	⑭	模擬授業と検討会 (4)					
⑮	総括						
成績評価	原則として筆記試験(90分で実施)で評価する。また、模擬授業への取組など受講態度を加味する。(筆記=80%、態度=20%)						
参考文献等	テキスト:文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館) 参考文献は講義中に適宜指示する。 ビデオを使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日 18:00~19:00					

科目番号	111	授業科目	算数科教育法 (Methodology of Teaching Elementary Mathematics)			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 算数科教育の理論を学修し、実践に活かせる活用力を養う。						
	2. 到達目標 1. 算数科の変遷を概観し、今後求められる能力を把握する 2. 教科の目標や内容、評価の観点に関する知識を有する 3. 授業の計画・実施・評価・改善など、実践的な能力を養う						
	3. 事前事後学習 事前に『小学校算数指導要領解説算数』の該当箇所を読むこと 事後学修として、授業で指示された課題をすること						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① ガイダンス:本演習の概要や目標等について						
	② 算数教育の目標①:算数・数学の特性、算数教育の現状と課題						
	③ 算数教育の目標②:学習指導要領における変遷						
	④ 算数教育の内容①:学習指導要領の指導内容とその系統性						
	⑤ 算数教育の内容②:各領域における指導内容						
	⑥ 算数科学習指導の基礎①:様々な学習・理解の理論						
	⑦ 算数科学習指導の基礎②:算数的活動						
	⑧ 算数科学習指導の基礎③:問題解決、数学的思考方						
	⑨ 算数科学習指導の基礎④:教具の工夫						
	⑩ 算数教育の評価:評価の意義、種類、内容						
	⑪ 算数科授業①:算数科授業ビデオの鑑賞・討論						
	⑫ 算数科授業②:学習指導案の作成						
	⑬ 模擬授業とその検討①						
	⑭ 模擬授業とその検討②						
⑮ 総括							
成績評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(50%) ○受講態度(15%) ○演習での発表や提出物(35%)						
参考文献等	テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』, 東洋館出版社						
備考							
	オフィスアワー	月・水・金13時～18時(西館412号室)					

科目番号	112	授業科目	保育内容総論 (an introduction to childcare content)			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 幼稚園教育要領及び保育所保育指針について概説し、保育の理念と指導・援助の基本的な考え方や方法を知る。						
	2. 到達目標 ① 保育内容について概要を知る ② 発達過程に応じた援助について理解する						
	3. 事前事後学習 事前指導では、保育雑誌などに目を通し、実際の保育内容を知ることができるよう指導する。またボランティアなどで幼児との触れ合う機会を紹介する。事後指導では、保育にかかわる新聞やテレビ報道などに関心を向けると同時に、保育技術を高めるように具体的な教材作りを指導する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 幼稚園教諭と保育士について						
	② 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針の保育の基本(総則)1						
	③ 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針の保育の基本(総則)2						
	④ 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の計画と留意事項1						
	⑤ 保育の内容;幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の計画と留意事項2						
	⑥ 領域の考え方・5領域の各論						
	⑦ 教育課程・指導計画の編成(食育・特別支援教育、子育て支援についても触れる)						
	⑧ 保育の評価と資質の向上						
	⑨ 保育の観察・記録と評価						
	⑩ 指導計画の作成1						
	⑪ 指導計画の作成2						
	⑫ 指導計画の作成3						
	⑬ 幼稚園教育実習の概要						
	⑭ 保育所実習の概要						
⑮ 情報機器及び教材の活用							
成績評価	1. 授業で出される課題の達成(20%) 2. 筆記試験(65%)60分で実施 3. 受講態度(15%)						
参考文献等	テキスト:「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 その他「子どもの発達と保育の本」学研 「保育指導案の書き方」開(著) 北大路書房 使用機器:教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 10:30~17:30					



科目番号	113	授業科目	保育内容(健康) (Health of Early Childhood)			担当者	大村 一光
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 幼児期の運動や遊びは、身体の発育、発達に多大な影響をもたらすのみならず、精神的、社会的発達に対しても大きく影響をおよぼす。したがって、幼児期の発達特性をよく理解し、発育・発達に応じた保育援助のあり方や運動、遊びの持つ特性を理解しておくことは重要なことである。ここでは、上述した観点から、乳幼児期の健康に関する基礎的理解をめざす。						
	2. 到達目標 1. 教育現場の実情を理解する 2. 幼児の理解 3. 幼児との積極的関わり						
	3. 事前事後学習 学習内容をふまえて、各自の幼児期の振り返りはもとより、保護者や祖父母等の幼児期における遊びや健康管理等についても聞き取り調査を行い、レポート等による提出をめざす						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	幼児期の健康のとらえ方					
	②	「健康」のねらい、指導の基本					
	③	身体の発育・発達 I					
	④	身体の発育・発達 II					
	⑤	運動機能の発達 I					
	⑥	運動機能の発達 II					
	⑦	運動機能の発達 III					
	⑧	保育計画における健康面での留意点 I					
	⑨	保育計画における健康面での留意点 II					
	⑩	運動施設における怪我の実態とその対策					
	⑪	運動遊びの実際 I					
	⑫	運動遊びの実際 II					
	⑬	運動遊びの実際 III					
	⑭	運動遊びの実際 IV					
⑮	各種行事と運動						
成績評価	学期末試験あるいはレポート提出(60%)、受講態度等(40%)による ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	保育内容・健康 健帛社 パワーポイントを使用						
備考							
	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00					

科目番号	114	授業科目	保育内容(言葉) (Childcare Content(Verbal Skills))			担当者	平嶋 慶子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 保育内容(言葉)の領域について、理解と実技の習得を図る。 領域の概念とことばについて学び、言語発達の姿と言語発達の理論を理解する。 同時に実技については指遊び、お話し(絵本や紙芝居)か折り紙と絵かき歌を4人1グループで発表する。						
	2. 到達目標 ① ことばについて学ぶ。 ② 言語発達の姿と言語発達の理論を理解する。 ③ 指遊び、お話し(絵本・紙芝居)を練習し発表する。						
	3. 事前事後学習 4人1グループで①実技発表のための内容を下調べをしてから演目を決めて、担当教員(他グループと重複がないか調整する)に届ける。②発表用レジュメを作成する。指遊びは楽譜と遊び方の挿し絵、折り紙は折り図、お話しは題名とあらすじ・作者、出版社の情報、絵かき歌は描き方を載せる。③実際の発表前に少なくとも3週間前からグループごとに担当教員にチェックを受け、リハーサルに合格してから発表に臨む。学びを深めるため、自分の発表を通して、また他班の発表を見て学びレポート書く。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション(授業の組み立ての説明とグループ分け、課題の提示)						
	② 領域「言葉」とは						
	③ 模範演示・ことばの働きと特徴						
	④ 実技発表・ことばの発達1:前言語期						
	⑤ 実技発表・ことばの発達2:移行期						
	⑥ 実技発表・ことばの発達3:言語期①文法の獲得						
	⑦ 実技発表・ことばの発達4:言語期②二次的言葉の習得						
	⑧ 実技発表・ことばの発達5:ことばとコミュニケーション						
	⑨ 実技発表・言語発達を説明する理論①学習説						
	⑩ 実技発表・言語発達を説明する理論②生得説						
	⑪ 実技発表・ことばを育てる環境						
	⑫ 実技発表・保育者の役割と援助						
	⑬ 実技発表・「言葉」のさまざまな活動内容						
	⑭ 実技発表・ことばと発達の関係実技発表・総括						
⑮ 実技発表・総括							
成績評価	実技の発表(①リハーサル②レジュメ作成③発表)80% 受講態度20%						
参考文献等	保育・教育ネオシリーズ5 発達の理解と保育の課題 無藤隆 編著 同文書院						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(ただし火曜日を除く)・要事前連絡					

科目番号	115	授業科目	保育内容(表現Ⅰ) (Childcare content (Representation I))			担当者	松下 茉莉香
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児期から児童期における造形表現活動を考察する。						
	2. 到達目標 1. 保育所保育指針を理解し、幼児期から児童期の造形表現活動の教育的意義、発達過程について理解する。 2. 描く活動を中心とした多様な制作を通して、表現の豊かさを学び保育士や幼稚園教諭として必要な基礎的な表現技能を習得する。 3. 制作や教材研究、講義を通して幼児期から児童期の子供の発達に沿った支援の在り方を考察する。						
授 業 計 画	3. 事前事後学習 (事前): ⑥回目・テキストP75～P79 ⑦回目・テキストP71～P75に目を通しておくこと。 (事後): テキストP63～P79と授業中に配布したプリントをよく復習し試験に臨むこと。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	① 幼児期の造形表現について						
	② 絵の具を用いた表現について①: 年齢別の実践例を見ながら絵の具の特性とよさを学ぶ						
	③ // ②: 実験制作を通して発達に合わせた支援を学ぶ						
	④ 自然物の特徴を観察して描く①: 自然物のもつ色形の変化や魅力を捉える						
	⑤ 自然物の特徴を観察して描く②: 透明水彩絵の具による着彩・総括						
	⑥ 幼児期の子どもの絵の発達について①: 錯画期～象徴期						
	⑦ 幼児期の子どもの絵の発達について②: 図式期						
	⑧ 平面表現の多様性を学ぶ①: 多様な表現手段・素材の体験						
	⑨ 平面表現の多様性を学ぶ②: 課題制作・まとめ						
	⑩ 紙を用いた表現について ①: 年齢別の実践例を見ながら紙の特性と加工・指導法を学ぶ						
	⑪ // ②: 紙などを基に教材を企画・製作発表						
	⑫ 保育実践における知識と技能 パネルシアター・ペープサートを見て学。						
	⑬ パネルシアターの制作Ⅰ						
	⑭ パネルシアターの制作Ⅱ						
	⑮ パネルシアター・ペープサート制作のまとめ(実践法と意義を理解する)						
成績評価	受講態度(10点)・レポート(10点)・筆記試験90分(40点)・作品評価(40点)						
参考文献等	テキスト: 「保育をひらく造形表現」 榎 英子 萌文書林						
備考							
	オフィスアワー	月曜日 昼休み(松下研究室): できれば事前に連絡すること。					

科目番号	116	授業科目	社会福祉 (Social Welfare)			担当者	谷川 知士
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	1年・前期	児教	講義	2	必修	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ・社会福祉に関する全般を通し、体系的な知識と援助の基礎を身に付ける。						
	2. 到達目標 (1) 社会福祉の概念や理論を理解する。 (2) 社会福祉の歴史や制度を理解する。 (3) 地域福祉やボランティアについて理解する。						
	3. 事前事後学習 事前:教科書を読む。 事後:教科書で示した重要事項を整理しておく。						
授業計画	4. 授業計画						
	① 講義のガイダンス、保育における社会福祉						
	② 社会福祉の概念と理論						
	③ 社会福祉の対象と主体						
	④ 現代社会の特徴と福祉ニーズ						
	⑤ 社会福祉の歴史						
	⑥ 地域福祉計画と地域福祉						
	⑦ 社会福祉制度と体系						
	⑧ 社会福祉の財政と費用負担						
	⑨ 社会保障及び関連制度の概要						
	⑩ 社会福祉従事者の概要と保育士の倫理						
	⑪ 子ども家庭福祉・障害者福祉・高齢者福祉						
	⑫ ボランティアの意義と活動						
	⑬ 社会福祉の動向と改革						
	⑭ 鹿児島社会福祉						
⑮ 総括							
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する。 ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	117	授業科目	子どもの保健 I (Child Health I)			担当者	宇都 弘美
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	児教	講義	2	選択	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 健康の概念を再確認し、子どもの健康管理に必要な知識について学ぶ。具体的には、まず小児期の区分や子どもの発達について理解する。次に、統計から見た子どもの健康に関する現状を確認し、それに対する母子保健施策を学ぶ。さらに、子どもが罹りやすい病気とその対応や、事故防止と安全対策についても理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 小児期の区分や子どもの発達について理解する 2. 統計から見た子どもの健康に関する現状を知り、それに対する母子保健施策を学ぶ 3. 子どもが罹りやすい病気とその対応、事故防止と安全対策について理解する						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回行うことが望ましい。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 保育保健の意義・範囲、健康の概念、子どもの定義と区分						
	② 出生前の成長と出生後の身体発育						
	③ 生理機能の発達						
	④ 運動機能の発達						
	⑤ 精神発達						
	⑥ 子どもにかかわる統計						
	⑦ 子どものための保健対策(母子保健行政)						
	⑧ 新生児・未熟児						
	⑨ 出生前の原因による病気						
	⑩ 病気の予防、小児疾患の主な症状						
	⑪ 小児期の病気①						
	⑫ 小児期の病気②						
	⑬ 小児期の病気③						
	⑭ 小児の事故と対策						
	⑮ 性教育と性感染症						
⑯ 筆記試験							
成績評価	筆記試験(90分で実施)100%						
参考文献等	テキスト : 開講時に指示する 参考文献: 授業の中で適宜紹介する						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	月・水・金曜日の昼休み及び放課後					

科目番号	118	授業科目	学校図書館メディアの構成 (Composition of School Library Media)			担当者	川戸 理恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学校図書館は、児童や生徒が学習活動や読書活動を行うために利用される場所である。そのため、「役に立つ学校図書館」を作りあげるために、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類、特質、組織化について理解をする。						
	2. 到達目標 1 学校図書館で扱うメディアの種類・性質と扱い方について理解する。 2 学校図書館のメディアの組織法について理解する。						
	3. 事前事後学習 授業前には、授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読むこと。 授業後は、授業内容を踏まえて知識の整理をすること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 学校図書館メディアの意義と役割						
	② 学校図書館メディアの種類と特性(1)						
	③ 学校図書館メディアの収集						
	④ 学校図書館メディアの整理						
	⑤ 目録作業の概要						
	⑥ 目録作業の実際(1)						
	⑦ 目録作業の実際(2)						
	⑧ 主題分析の概要、件名の付与の概要						
	⑨ 件名付与の実際						
	⑩ 分類作業の概要						
	⑪ 分類作業の実際(1)						
	⑫ 分類作業の実際(2)						
	⑬ 学校図書館メディアの配架						
	⑭ 学校図書館メディアの保存						
⑮ 総括							
成績評価	筆記試験(70分) 学期末試験の成績(80%)※筆記試験は70分で実施 受講態度(10%)、授業中の指示した課題の提出(10%)						
参考文献等	テキスト:なし。講義中にプリントを配布する。						
備考							
	オフィスアワー	火曜日 16:20~17:20					

科目番号	119	授業科目	社会 ( Social Science for Elementary Course )			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 社会科教育法等で学んできたことを踏まえ、学生による教材開発や討論・見学等をとおして、授業者として社会科教育実践を行うための応用力を培う。						
	2. 到達目標 ①様々な教材の有用性を理解する。 ②体験をとおして地域と教育の関係について理解する。 ③授業内容を応用して自分なりの教材を構想できる。						
	3. 事前事後学習 発表や討論が授業の中心となるため、その事前準備をしっかりと行う。また、事後学習として、体験の振り返りや自分なりの教材構想を課す。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	イントロダクション					
	②	実践研究・教材開発 (1) —マンガの教材化—					
	③	実践研究・教材開発 (2) —恋愛の教材化—					
	④	実践研究・教材開発 (3) —日韓関係の教材化—					
	⑤	実践研究・教材開発 (4) —食育と社会科—					
	⑥	実践研究・教材開発 (5) —地域の歴史教材—					
	⑦	実践研究・教材開発 (6) —法教育—					
	⑧	実践研究・教材開発 (7) —地名教育—					
	⑨	見学学習の実践事例紹介					
	⑩	工場等見学の準備学習					
	⑪	見学・体験学習 (1) —鹿児島県の産業等について—					
	⑫	見学・体験学習 (2) —鹿児島県の産業等について—					
	⑬	見学・体験学習 (3) —鹿児島県の産業等について—					
	⑭	見学学習のふりかえり					
⑮	総括						
成績評価	レポートを課す。また、受講態度等を加味する。(レポート=80%、態度=20%)						
参考文献等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館） 参考文献は授業で適宜指示する。						
備考	単位互換開放対象科目 見学体験学習の行先については、社会科教育研究の動向や学生の希望等を踏まえ決定する。						
	オフィスアワー	月曜日 18:00～19:00					

科目番号	120	授業科目	理科 (Science)			担当者	横峯 孝昭	
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別	備考
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 小学校学習指導要領に示されている理科の全体としての目標をとらえたうえで、学年後との目標とそれに対応する学習内容について理解を深めることを目的とする。							
	2. 到達目標 (1)小学校理科教育の目標を理解する。 (2)ものづくりを模擬授業を通して考え、実践力を養う。							
	3. 事前事後学習 理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である。その点を踏まえて事前に勉強しておく和良好的。ものづくりのための教材研究を学年ごとに考えつつ、毎回の学習指導案作成に取り組んでもらいたい。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 小学校理科の全体目標							
	② 小学校理科単元							
	③ 学習指導案の作成(小学校教科書をもとに)							
	④ 学習指導案の比較							
	⑤ 小学校理科に関わる基礎知識 物理							
	⑥ 小学校理科に関わる基礎知識 科学							
	⑦ 小学校理科に関わる基礎知識 生物							
	⑧ 小学校理科に関わる基礎知識 地学							
	⑨ 小学校理科に関わる基礎知識 総括							
	⑩ 学習指導案の作成							
	⑪ 学習指導案の作成							
	⑫ 学習指導案の作成							
	⑬ 学習指導案の作成							
	⑭ 学習指導案の作成							
	⑮ 学習指導案の作成							
⑯ レポート								
成績評価	講義中に行う課題の達成(100%)によって評価する。							
参考文献等	テキスト、参考文献等は開講時に提示する。							
備考								
	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間						



科目番号	121	授業科目	家庭 ( Elementary Home )			担当者	山崎 歌織
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 小学校における家庭科を指導するために必要な基本的知識や指導法を習得し、社会や家庭生活の変化に対応した指導ができることを目指す。						
	2. 到達目標 (1) 家庭に関する基本的な知識を学ぶ (2) 家庭生活の変容を認識し、その環境に合わせた指導法について考える。						
	3. 事前事後学習 事前に学習内容についてテキストを読み基礎事項を把握する。 事後には課題に取り組み提出する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	家庭科の目標・内容について					
	②						
	③	日常の食事と調理の基礎					
	④	栄養・食品・調理・献立・食生活に関する指導の基礎					
	⑤	食生活指針について					
	⑥						
	⑦						
	⑧	快適な衣服					
	⑨	着方・手入れ・被服材料・製作に関する指導の基礎					
	⑩						
	⑪	快適な住まい・身近な消費生活と環境					
	⑫	快適な住まい方・物の選び方・購入に関する指導の基礎					
	⑬						
	⑭	調理実習(調理の基本)					
⑮	全体のまとめ						
成績評価	筆記試験(60分で実施)60% 課題レポート30% 受講態度10%の総合評価						
参考文献等	テキスト:小学校家庭科の指導・中間美佐子, 多々納道子・建帛社 文部科学省著・小学校学習指導要領解説 家庭編・株式会社東洋館出版社 参考文献:適宜プリントを配布 視聴覚機器:ビデオVHS、DVD						
備 考							
	オフィスアワー	金曜日午後					

科目番号	122	授業科目	音楽Ⅱ (MusicⅡ)			担当者	新村 元植
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児教育に必要な音楽の基礎理論についてさらに演習すると共に、幼児曲の歌唱演習を通して音楽の一般的能力を高める。また、保育活動に必要な音楽的訓練について演習する。						
	2. 到達目標 (1) 授業の前半は各人が幼児曲を使用した歌唱、弾き歌いの演習を実施する。 (2) 授業の後半では、幼児教育に必要な音楽的基礎理論の演習を実施する。						
	3. 事前事後学習 演習に際しては、事前に各人の歌唱する幼児曲について弾き歌い援助を研究する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 音楽理論1(コードネームの基礎知識)						
	② 音楽理論2(長三和音・短三和音の作成演習)						
	③ 音楽理論3(減三和音・増三和音・属七の和音の作成演習)						
	④ 音楽理論4(長・短・減・増の各三和音、属七の和音の総合的作成演習)						
	⑤ 幼児曲によるコードネーム作成演習1						
	⑥ 幼児曲によるコードネーム作成演習2						
	⑦ 幼児曲によるコードネーム作成演習3						
	⑧ 幼児曲による簡易伴奏演習1						
	⑨ 幼児曲による簡易伴奏演習2						
	⑩ 幼児曲による簡易伴奏演習3						
	⑪ 音楽的援助における基礎研究1(事例を基にした音楽的表現活動の研究)						
	⑫ 音楽的援助における基礎研究2(音楽的表現活動の保育指導案における研究)						
	⑬ 音楽的援助における基礎研究3(海外の幼児音楽教育)						
	⑭ 総合的演習1(コードネームの作成演習および評価)						
⑮ 総合的演習2(簡易伴奏作成演習および評価)							
成績評価	1) 期末試験では筆記試験(90分)を実施し、講義内容の理解度を評価する。(70%) 2) 平常点(授業課題・出席等)を評価する。(30%)						
参考文献等	うたとあそび(鹿児島私立幼稚園協会編) ピアノテキスト(全国大学音楽教育学会九州地区学会編)						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日(新村研究室)					

科目番号	123	授業科目	器楽Ⅱ (PianoⅡ)			担当者	中村 礼香 稲森 奈津子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 <small>(小・幼/小・保/幼・保)</small>	演習	1	選択	幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 幼児曲の弾き歌いを修得する						
	2. 到達目標 (1) バイエル95番まで弾けるようになる (2) 実習曲の弾き歌いができるようになる						
	3. 事前事後学習 ・授業で毎回1曲は合格がもらえるように事前に練習した上でレッスンに臨む。 ・授業後は、レッスンで注意されたことを復習する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	バイエル83/「さよならのうた」を中心に個人指導及び集団指導					
	②	バイエル85/「お弁当」を中心に個人指導及び集団指導					
	③	バイエル90/「おかえりのうた」を中心に個人指導及び集団指導					
	④	へ長調スケール・カデンツ/「チューリップ」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑤	バイエル96を中心に個人指導及び集団指導					
	⑥	ニ長調スケール・カデンツ/「めだかの学校」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑦	「あわてんぼうのサンタクロース」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑧	バイエル80を中心に個人指導及び集団指導					
	⑨	「犬のおまわりさん」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑩	イ短調スケール・ガデンツ/「菊の花」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑪	バイエル91/「どんぐりころころ」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑫	バイエル88/「ふしぎなポケット」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑬	バイエル95/「線路は続くよどこまでも」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑭	「おもちゃのチャチャチャ」を中心に個人指導及び集団指導					
	⑮	試験曲のための個人指導及び集団指導					
⑯	ピアノ実技試験						
成績評価	① ピアノ実技試験を行う。 ② バイエル95番以降の任意の1曲と履修した幼児曲1曲(弾き歌い)の2曲を暗譜で演奏する ③ 成績は実技試験(50%)と、平常点及び受講態度(50%)とする。						
参考文献等	テキスト : うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ピアノテキスト(全国大学音楽教育学会九州地区編) ピアノ教則本(ソナチネアルバム、ブルグミュラー他レベルに応じたもの)						
備考	オフィスアワー (中村研究室) 月～金 9:00～18:00(ただし授業時間を除く)						

科目番号	124	授業科目	図画工作 (Drawing and manual arts)			担当者	井上 周一郎
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期 2年・後期	児教 小幼保	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児期から児童期における「つくる」造形表現活動を考察する。						
	2. 到達目標 ①幼児期から児童期における「つくる」活動の発達段階と教育的意義を学ぶ。 ②多様な「つくる」活動を通して、表現の魅力を十分に味わいつつ創造的な感性を養い、保育者としての保育観と技能を習得する。 ③様々な造形表現学習を通して、教材研究や環境づくり、支援の在り方を学習する。						
授 業 計 画	3. 事前事後学習 事前学習:テキスト「保育をひらく造形表現」P9～15 事後学習:テキスト「保育をひらく造形表現」P83～124						
	4. 各回の授業内容						
	① 色彩と子どもの絵の関わり:色の性質と色彩感覚の発達について						
	② 想像を基にした絵画表現Ⅰ:主題から発送したことを基に絵の構想を深める						
	③ 想像を基にした絵画表現Ⅱ:色形を工夫して表現する						
	④ 子どもの造形表現の読み取り方・表現につまづく子どもへの援助について考察する						
	⑤ 美術の誕生と歴史						
	⑥ 幼児期の造形表現活動について:粘土遊びの発達と魅力						
	⑦ 土粘土による造形表現						
	⑧ 豊かな感性を育むための造形表現活動についてⅠ						
	⑨ 豊かな感性を育むための造形表現活動についてⅡ						
	⑩ 幼児期の感触遊び						
	⑪ 工作活動の発達と魅力:紙を用いた多様な造形						
	⑫ 折り紙による造形と魅力Ⅰ						
	⑬ 折り紙による造形と魅力Ⅱ						
	⑭ 紙粘土の魅力と造形表現Ⅰ						
	⑮ 紙粘土の魅力と造形表現Ⅱ						
成績 評価	出席回数と受講態度(10点)・レポート(10点)・筆記試験90分(40点)・作品評価(40点)						
参考 文献 等	テキスト:「保育をひらく造形表現」榎 英子 萌文書林 参考文献:「表現活動を豊かにする 絵画・製作・造形あそび 指導大百科」 東山 明 ひかりの国株式会社 ※随時資料を配布						
備 考							
	オフィスアワー	月・水・金 16:25～17:55					

科目番号	125	授業科目	体育Ⅱ (Physical Education Ⅱ)			担当者	小松 恵理子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 幼稚園教育要領・保育指針に示される「健康」や「表現」指導の基礎となる音と伴う運動教材の習得や模擬授業等の指導場面の体験を通して、基礎的身体技術・知識や指導方法の蓄積を目指す。						
	2. 到達目標 (1) 幼児教育に必要な音を伴う「運動教材」を身につけることができる。 (2) 音を伴う運動教材を用い、保育案作成や指導実践を行うことができる。 (3) 体操の創作等教材制作や手具を使用した集団演技のまとめ方等を身につける。						
	3. 事前事後学習 授業中に出す課題達成のため、グループワークや自主練習が必要である。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 音を伴う運動教材(幼児体操・フォークダンス・レクダンス等)と幼稚園教育要領・保育指針との関連について						
	② 運動教材の習得・模擬保育1(保育案の作成について)						
	③ 運動教材の習得・模擬保育2(導入方法の実際について)						
	④ 運動教材の習得・模擬保育3(体操・ダンスの示範方法について)						
	⑤ 運動教材の習得・模擬保育4(集団の誘導方法について)						
	⑥ 運動教材の習得・模擬保育5(教材と発達について)						
	⑦ 運動教材の習得・模擬保育6(保育者の位置とコミュニケーションについて)						
	⑧ 運動教材の習得・模擬保育7(安全に対する配慮について)						
	⑨ 音を伴う運動教材(幼児体操)の製作1(製作方法についての説明)						
	⑩ 音を伴う運動教材(幼児体操)の製作2(原型発表/手直し)						
	⑪ 音を伴う運動教材(幼児体操)の製作3(最終発表/VTR撮影)						
	⑫ 手具の使用方法(輪)						
	⑬ 手具の使用方法(リボン)						
	⑭ 手具の使用方法(ボール)						
	⑮ 手具体操の創作と集団演技のまとめ方について						
⑯ 実技試験							
成績評価	授業中の課題の発表・指導案等の提出物(90%)・受講態度(10%)によって行う。						
参考文献等							
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー	月曜日午後					

科目番号	126	授業科目	教育原理 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	必修	幼教免必修・保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の第一の使命である。しかし、そればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長することにも、教育は関わっている。この二重の役割はどのように理解されるべきなのか、また幼児期・児童期ではどのように捉えるべきなのか、本講義が目指すのはこのことである。各自が過去を振り返りつつ、教育についてじっくり考えてもらいたい。						
	2. 到達目標 教育の目的、子ども理解、指導力の基礎作り						
	3. 事前事後学習 前期の「教職概論」が事前学習的役割を果たしている。 本科目の事後学習は、紹介する参考文献の読書に必ずあててもらいたい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーションー自分たちの過去を思い出そう						
	② 成長するとは？(Ⅰ)ー身体的成長と精神的成長						
	③ 成長するとは？(Ⅱ)ー精神的成長と自立						
	④ 成長するとは？(Ⅲ)ー精神的成長と自律						
	⑤ 成長するとは？(Ⅳ)ー成長と教育の関係						
	⑥ 教育とは？(Ⅰ)ー教育の目指すもの						
	⑦ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その一)						
	⑧ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その二)						
	⑨ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その三)						
	⑩ 教育とは？(Ⅱ)ー教育の歴史(その四)						
	⑪ 教育における諸問題(その一)						
	⑫ 教育における諸問題(その二)						
	⑬ 教育における諸問題(その三)						
	⑭ 課題と展望(その一)						
⑮ 課題と展望(その二)							
成績評価	筆記試験(100%)により評価する。						
参考文献等	講義中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。					

科目番号	127	授業科目	保育者論 (Theory of Childcare worker)			担当者	丸田 愛子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小保/幼保)	講義	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保育士という専門職の役割や責務、倫理について理解した上で、大人が子どもの育ちにできることは何かを考え、保育者のあり方について理解を深める。その後、0歳から6歳までの子どもの発達の特徴を学習しながら、各年齢における子どもの発達に応じた援助のあり方と保育・教育の計画について理解を深め、将来、教育・保育の現場において、子どもと発達を理解して十分に専門性を発揮し、自らが成長・自己発揮していけるような人材を育てることを目標とする。						
	2. 到達目標 1. 子どもの人権、専門職としての保育士の責務や倫理、社会的役割を理解している。 2. 0歳から6歳までの子どもについて発達の特徴および保育のポイントを把握している。 3. 保育者の自覚をもち、保育の現場で専門性を発揮し、自ら成長する心構えがある。						
授 業 計 画	3. 事前事後学習 毎回の講義の後、各自、配布されたプリント等をもとに復習することが望ましい。また、十分に理解できなかった内容は、講義後あるいは次回講義等で質問をし、不明な点を残さないこと。						
	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション（保育者の資質と専門性について）						
	② 保育者の役割（制度と資格、責務、倫理）						
	③ 保育と子育てにおける基本的姿勢：子どもの育ちとは						
	④ 保育と子育てにおける基本的姿勢：おとなが子どもの育ちにできること						
	⑤ 保育と子育てにおける基本的姿勢：子どもの主体性、個別と集団の援助、トラブルの対応等						
	⑥ 各年齢期における保育援助（1）：3歳児（年少児）						
	⑦ 各年齢期における保育援助（2）：4歳児（年少児）						
	⑧ 各年齢期における保育援助（3）：5歳児（年長児）						
	⑨ 各年齢期における保育援助（4）：0歳から6カ月未満児 / エピソード記述						
	⑩ 各年齢期における保育援助（5）：6カ月から1歳3カ月未満児 / エピソード記述						
	⑪ 各年齢期における保育援助（6）：1歳3カ月から2歳未満児 / エピソード記述						
	⑫ 各年齢期における保育援助（7）：2歳児 / エピソード記述						
	⑬ 保育所における協働（1）：職員間の連携、家庭・地域社会との連携						
	⑭ 保育所における協働（2）：小学校との連携、他の専門機関との連携						
	⑮ 保育所における職員の成長：自己評価、職員の資質向上、保育者の生活とキャリア発達						
成績 評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況(20%程度) 2. 学期末ノート提出(30%程度) 3. 学期末レポート課題(50%程度) 以上による総合評価とする。						
参考 文献 等	[テキスト] ※配布プリントを中心とする。 [参考文献等] 阿部明子・中田カヨ子(編)「保育における援助の方法」 萌文書林 その他、 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ、PC、プロジェクター						
備 考							
	オフィスアワー	月 16:30～17:30					

科目番号	128	授業科目	教育方法の研究 (Teaching Method)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	1	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 様々な分野の研究者による教育方法論について考察するとともに、授業技術について体験的に学び、その歴史や目的、効果について理解する。						
	2. 到達目標 ①教育方法の歴史・目的・効果を理解する。 ②特に小学校の授業に必要な技能を習得する。 ③効果的な教育実践を行おうとする意識や態度をもつ。						
	3. 事前事後学習 授業で提示した課題に基づき、参考文献等を読み込んだり他の教育方法について調べ学習を行ったりする。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① イントロダクション						
	② 教育方法研究の歴史(日本)						
	③ 教育方法研究の歴史(世界)						
	④ 現代の教育方法(1) —「命の教育」を事例に—						
	⑤ 現代の教育方法(2) —教育実践者の著作から—						
	⑥ 現代の教育方法(3) —教育学以外の視点から—						
	⑦ 保護者・地域の願いと教育方法						
	⑧ 授業をつくる(1) —導入について—						
	⑨ 授業をつくる(2) —教材開発について—						
	⑩ 授業をつくる(3) —発問・板書等について—						
	⑪ 授業をつくる(4) —体験型学習の活用—						
	⑫ 授業をつくる(5) —教育機器の活用—						
	⑬ 教育評価について						
	⑭ 学習指導案の作成について						
⑮ 総括							
成績評価	原則として筆記試験(60分)で評価する。受講態度も加味する。(試験=90%、態度=10%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業で適宜指示する。 ビデオ(DVD)を使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日 18:00~19:00					



科目番号	129	授業科目	生徒指導・進路指導 (Student guidance and Career guidance)			担当者	松元 理恵子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	講義	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「子どもの生きる力が育つ」という観点より、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性を活かして豊かな自己実現をはかるための理論を具体的に学びます。そして、子どもにどのような援助や指導ができるかを考え、実践にうつすことができる意識を養います。						
	2. 到達目標 1. 子ども達が豊かな自己実現をはかるための理論を習得する 2. 生徒指導の教育的意義と課題を理解する 3. 実地的な知識を習得し、実践力を習得する						
	3. 事前事後学習 次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメをもとに予習をしてください。授業後は、レジュメを見ながら復習を行い、授業で配布した資料も参考にしながら自分なりにノートにまとめてみましょう。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 生徒指導の意義と特質						
	② 学校内のシステム構成～組織とその運営、心理教育的援助サービス						
	③ 生徒指導と教育過程や教育経営						
	④ 生徒指導の課題						
	⑤ 生徒指導と教育過程や教育経営						
	⑥ 心理教育プログラム						
	⑦ 道徳・特別活動と生徒指導						
	⑧ 子どもの発達のプロセス						
	⑨ 不登校の理解と指導						
	⑩ 「いじめ」の理解と対応						
	⑪ 非行問題の理解と指導						
	⑫ 進路指導の定義と展開						
	⑬ 進路指導と教育課程						
	⑭ ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論						
	⑮ 進路指導の進め方						
⑯ 筆記試験							
成績評価	※筆記試験は60分で実施(70%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(20%)、 受講態度(10%) ※出席点を含む						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業中に適宜提示する。 パワーポイント、DVDを使用する場合がある。						
備考							
	オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05～12:55					

科目番号	130-①	授業科目	障害児の教育・保育 (Education and Childcare for Handicapped Children)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教 小・幼/小・保	演習	2	選択	幼教免・小教免必修 保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保育現場では、子どもの発達を促す保育行為が求められます。この授業では、自閉症スペクトラム、注意欠陥/多動性障害、学習障害といった様々な障害特性の理解と対応の基礎となる支援スキルや留意点について学びます。また、二次的問題への対応や、保護者への支援、他の相談機関との協力体制についても理解を深めることを目標とします。						
	2. 到達目標 1.様々な障害の特性を理解する 2.障害に応じた援助について理解し、考える事ができる 3.保護者への援助について考えることができる						
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション / 障害児の教育・保育とは						
	② 障害とは何か(ICIDHからICFへの変遷)						
	③ 自閉症スペクトラムの理解						
	④ 自閉症スペクトラムへの支援スキル						
	⑤ 注意欠陥/多動性障害の理解						
	⑥ 注意欠陥/多動性障害への支援スキル						
	⑦ 学習障害の理解						
	⑧ 学習障害への支援スキル						
	⑨ 知的障害、運動障害の理解						
	⑩ 知的障害、運動障害への支援スキル						
	⑪ 聴覚障害、視覚障害の理解						
	⑫ 聴覚障害、視覚障害への支援スキル						
	⑬ 保護者への支援						
	⑭ 特別支援教育についての基礎知識						
	⑮ 地域の専門機関との連携と小学校への接続						
⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 受講態度およびレポートの提出状況(20点)						
参考文献等	テキスト: 平山諭(編著)「保育士養成テキスト⑫ 障害児保育」 ミネルヴァ書房 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。						
	オフィスアワー	金曜日 10:35~12:05 (研究室)					

科目番号	130-②	授業科目	障害児の教育・保育 (Education and Childcare for Handicapped Children)			担当者	丸田 愛子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (幼保)	演習	2	選択	幼教免・小教免必修 保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 障がいに関する基礎的な知識を身につけた上で、障がいのある子など保育所や幼稚園において特別な配慮が必要な子どもについて、その理解と援助の方法を事例を通して学習する。また、園内におけるケース会議や支援計画、保護者への支援のあり方、小学校や地域の相談機関との協力体制についても理解を深める。 これらの学習を通じて、教育・保育現場において役立つ知識と感覚を養うことを目標とする。						
	2. 到達目標 1. 障がい児を理解するためのポイントがわかり、対応するための基本的な心構えがある。 2. 障がい児、配慮が必要な子について多様なケースを知り、対応を幅広く考えられる。 3. 障がい児の保護者支援、保育所の役割、他機関との連携について理解している。						
	3. 事前事後学習 毎回の講義の後、各自、教科書の該当箇所を読み、復習および補足学習することが望ましい。また、十分に理解できなかった内容は、講義後あるいは次回講義等で質問をし、不明な点を残さないこと。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	① オリエンテーション (保育の中でちょっと気になる子どもについて)						
	② 障がいの基礎知識 (1) : 障がいの概念と歴史						
	③ 障がいの基礎知識 (2) : 知的障がい, 身体障がい, 精神障がい						
	④ 障がいの基礎知識 (3) : 発達障がいと支援の難しさ						
	⑤ 発達障がいの理解 (1) : 広汎性発達障がい						
	⑥ 発達障がいの理解 (2) : 注意欠陥/多動性障がい						
	⑦ 発達障がいの理解 (3) : 学習障がい, その他の障がい						
	⑧ 気になる子どもの特徴と援助のポイント						
	⑨ 保護者のおもいと保護者への援助						
	⑩ 事例検討 (1) : 広汎性発達障がいに関連するケース						
	⑪ 事例検討 (2) : 注意欠陥/多動性障がいに関連するケース						
	⑫ 事例検討 (3) : 学習障がいに関連するケース						
	⑬ 事例検討 (4) : その他, 気になる子どものケース						
	⑭ 保育所・幼稚園で取り組む支援 (1) : 集団保育と個別支援, 個別支援の計画, 子どもの育ち合い						
	⑮ 保育所・幼稚園で取り組む支援 (2) : 保育カンファレンス, 家庭・小学校・地域の専門機関との連携						
成績評価	1. 受講態度およびレポート等の提出状況(20%程度) 2. 学期末筆記試験(80%程度) ※筆記試験は90分で実施 以上による総合評価とする。						
参考文献等	[テキスト] 田中康雄(監)「わかってほしい!気になる子 自閉症・ADHDなどと向き合う保育」学研 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター, VHS/DVDプレーヤー						
備考	オフィスアワー	月曜日 16:30~17:30					

科目番号	131	授業科目	発達心理学Ⅱ (Developmental psychology Ⅱ)			担当者	平嶋 慶子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人の生涯にわたる発達変化を概観し、発達についての基礎理解を図る。						
	2. 到達目標 ①発達の概念と発達の原則を学ぶ。 ②発達理論を理解する。 ③それぞれの発達段階の特徴を知り、自分や他者の理解を深める。						
	3. 事前事後学習 講義後の復習を主とする。テキストと共に配布資料を確認し、次回の講義までに用語や概念を理解しておくことが重要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 乳幼児の定義と発達の特徴						
	② 発達の始まり:胎児期～新生児期～乳児期						
	③ 中枢神経系の成熟と運動発達、相互作用の重要性						
	④ 情動・情緒・感情の発達と意欲・動機づけ						
	⑤ 認知・思考の発達:ピアジェ理論を中心に						
	⑥ 言語の発達						
	⑦ 社会性と道徳性の発達						
	⑧ 自己抑制:自律はどのように育つか						
	⑨ 個人内差と個人差						
	⑩ 発達の援助と集団保育①生活と遊び						
	⑪ 発達の援助と集団保育②発達課題に即した保育と援助						
	⑫ 発達をつまづきと発達検査・発達診断						
	⑬ さまざまな援助の方法①プレイセラピーほか						
	⑭ さまざまな援助の方法②援助の場とあり方						
	⑮ 保護者と保育者の連携						
⑯ 試験							
成績評価	筆記試験は90分で実施 試験80% 受講態度20%						
参考文献等	参考文献 ①1年次のテキスト ②乳幼児心理学を愉しむ 宮原和子・宮原英種 著 ナカニシヤ出版 ほか適宜紹介する						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(火曜日除く)					

科目番号	132	授業科目	子どもと人権 ( Human Rights for Children )			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	1	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 日本及び世界の人権教育・保育実践を参照しながら、人権教育の目標・内容・方法等を学び、実践を行うのに必要な知識や技能、意識を高める。						
	2. 到達目標 ①子どもと人権を守る教育者として必要な資質を養う。 ②人権教育を実践するための知識や技能を習得する。						
	3. 事前事後学習 授業で提示した課題に基づき、人権教育に活用できる絵本などの教材を探す。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 人権教育とは何か						
	② 異文化理解と人権教育						
	③ 障がい者理解と人権教育						
	④ マンガで学ぶ人権教育						
	⑤ 幼児教育・保育における人権教育の在り方						
	⑥ 学校教育における人権教育の在り方						
	⑦ 人権教育を通じて育てるべき子ども像						
	⑧ 総括						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	筆記試験(90分)を行う。(100%)						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献(絵本を含む)は講義中に適宜指示する。 ビデオ(DVD)を使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日 18:00~19:00					

科目番号	133	授業科目	国語科教育法 (Teaching Method of Japanese Language for the Elementary School)				担当者	瀬戸口 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 小学校の教諭(国語科)として、必要な知識・技能・能力を身につける。							
	2. 到達目標 (1)国語科教育の沿革・目標・内容について学ぶ。 (2)教材分析・教材研究・指導案作成に習熟する。 (3)国語教師力を身につける。							
	3. 事前事後学習 教員採用試験に備える。教育問題・情報にアンテナをたてて自己の考え・教育観を培う。教育実習に活かす。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 「国語科教育」と「国語教育」( cf, 「日本語教育」 )							
	② 国語科教育の法的規定(憲法・基本法・学校教育法・学校教育施行規則)							
	③ 「学習指導要領」の解説							
	④ " " 分析							
	⑤ " " 教採試験対応							
	⑥ 「教材分析」——教材A							
	⑦ " " 教材B							
	⑧ " " 教材C							
	⑨ 「教材研究」・・・グループ発表							
	⑩ " "							
	⑪ " "							
	⑫ " "							
	⑬ 「指導計画」・・・グループ発表							
	⑭ 「学習指導案」の作成							
⑮ 「本時学習指導案」の作成・・・提出								
成績評価	各種レポート(20%)と最終評価用レポート(80%)							
参考文献等	テキスト:野地潤家・湊 吉正著『新編 小学校国語科教育法』おうふう サブテキスト:『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省 参考文献:益地憲一編著『小学校 国語科の指導』建帛社							
備考								
	オフィスアワー	金7・8限						

科目番号	134	授業科目	体育科教育法 (Teaching Method of Physical Education)			担当者	小松 恵理子 黒原 貴仁
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 小学校学習指導要領に示されている運動領域について学習することにより、体育科の目標としている適切な運動経験、健康・安全についての理解、運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進と体力の向上、楽しく明るい生活態度などについて理解し、効果的な指導ができるようにする。						
	2. 到達目標 小松(1)学習指導要領に示された運動領域の内容について理解する。 (2)発達段階に合わせ各運動領域の指導内容を理解する。 (3)各運動領域の指導方法や必要とされる態度を身につける。 黒原(1)各種運動内容が理解できる。 (2)各運動領域に沿った授業を構築できる。 (3)体育授業を展開できる。						
	3. 事前事後学習 (小松)学習指導要領を読んでおく。授業中に出す課題達成のため、グループワークが必要である。 (黒原)事前:小学校学習指導要領解説(体育編)を購読すること。 事後:授業でのポイントを整理すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	小学校体育目標					(黒原)
	②	各学年の運動領域					(黒原)
	③	低学年における運動とその指導 1					(黒原)
	④	低学年における運動とその指導 2					(黒原)
	⑤	低学年における運動とその指導 3					(黒原)
	⑥	中学年における運動とその指導 1					(黒原)
	⑦	中学年における運動とその指導 2					(黒原)
	⑧	中学年における運動とその指導 3					(黒原)
	⑨	高学年における運動とその指導 1					(黒原)
	⑩	高学年における運動とその指導 2					(黒原)
	⑪	体づくりの運動 1(特性について/単元計画や授業計画の立て方について)					(小松)
	⑫	体づくりの運動 2(学年別指導の実際について)					(小松)
	⑬	表現運動 1(特性について/英国ナショナルカリキュラムとの比較)					(小松)
	⑭	表現運動 2(単元計画や授業計画の立て方について)					(小松)
⑮	表現運動 3(学年別指導の実際について)					(小松)	
成績評価	学期末試験(80%)、受講態度(20%)を総合して評価する (黒原) 学期末試験(90%)、受講態度(10%)またはレポートによる (小松)						
参考文献等備	小学校学習指導要領 文部科学省 小学校学習指導要領 体育編 文部科学省						
備考	単位互換科目						
	オフィスアワー	(小松)月曜日午後 (黒原)月曜5・6限					

科目番号	135	授業科目	保育内容(環境) (Education for Early Childhood Relation to the Environment)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期 2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 幼稚園や保育所の保育内容である5領域のうち「環境」とはどのようなねらいと内容をもつか、具体的に理解することを目標とする。						
	2. 到達目標 (1) 幼児を取り巻く環境について理解する。 (2) 幼児の遊びをふくらませる環境について理論と実践を考える。						
	3. 事前事後学習 領域「環境」についての捉え方を中心に話をしていくことになるので、具体的な活動の仕方までは、各自の事後学習となる。いろいろな事例について、該当文献を読みつつ知見を広げる活動をしていただきたい。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① イントロダクション						
	② 領域「環境」をどうとらえるか						
	③ 指導のねらいとあり方						
	④ 幼児の発達と環境						
	⑤ 動物とのかかわり						
	⑥ 植物とのかかわり						
	⑦ 物とのかかわり①						
	⑧ 物とのかかわり②						
	⑨ 自然事象とのかかわり						
	⑩ 地域とのかかわり						
	⑪ 情報とのかかわり						
	⑫ 文字とのかかわり						
	⑬ 数、量、図形とのかかわり						
	⑭ 他の領域や総合演習とのかかわり						
	⑮ 小学校とのかかわり						
⑯ 学期末試験							
成績評価	受講態度(30%) 学期末試験(70%)						
参考文献等	テキスト 小田 豊 監修、新子どもと環境－理論編－、三晃書房						
備考							
	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間					



科目番号	136	授業科目	幼稚園教育実習 I 指導 (Guidance for Teaching Practice for Preschool I)			担当者	横峯孝昭・大村一光 附属幼稚園長・主任	
			開講学期	学科・専攻	履修方法			単位数
区分	1年・後期	児教 (全コース)	講義	1	選択	小教免・幼教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 例年、1年次後期に2週間の予定で実施される、本学附属幼稚園での教育実習に関わる事前事後指導を行うことで、幼稚園教員(間接的には小学校教員)として求められる基礎的資質・能力の養成を図る。							
	2. 到達目標 1.実習に必要な心構えを学び、事前準備を完了する。 2.附属園に2回行き、教育現場の実情をよく理解する。 3.附属園教諭から保育の実際を学び、保育技術の指導を受ける。							
	3. 事前事後学習 2年生との幼稚園実習に関する情報交換。実習についての振り返り。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	実習概要の説明					(大村・横峯)	
	②	実習配当先調査及び諸注意					(大村・横峯)	
	③	長期休暇中における諸課題への取組みについて					(大村・横峯)	
	④	調査書記入及び諸資料配布説明					(大村・横峯)	
	⑤	附属幼稚園別指導 I					(附属幼稚園)	
	⑥	〃					(附属幼稚園)	
	⑦	附属幼稚園別指導 II					(附属幼稚園)	
	⑧	〃					(附属幼稚園)	
	⑨	製作・歌・絵画等の指導について					(附属幼稚園)	
	⑩	実習事後指導					(大村・横峯)	
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
⑮								
成績評価	原則として、この授業に全回出席した者以外の評価は行わない。その他の評価基準としては、レポート等の提出物の提出状況(60%)及び各内容、与えられた課題に対する達成状況(40%)等から総合的に評価する。							
参考文献等	講義初回時に紹介する。							
備考								
	オフィスアワー	火・水・金の講義のない時間(横峯研究室)						

科目番号	137	授業科目	幼稚園教育実習 I (Teaching Practice for Preschool I)			担当者	横峯孝昭・大村一光 附属幼稚園長・主任
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (全コース)	講義	1	選択	小教免・幼教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 (1)幼稚園教諭として必要な資質を養成するために実際の保育を経験し、さらに社会人としての基本的な勤務態度を身につける。 (2)幼稚園教諭二種免許状を取得するためにこの実習を実施する。						
	2. 到達目標 (1)教育実習先:本学附属のかもめ、なでしこ、すみれの各幼稚園における10日間の実習。 (2)実習内容:幼稚園教諭として必要な資質を養成するために観察実習、参加実習、担当保育実習を行う。						
	3. 事前事後学習 事前:評価保育の保育案作成、教材などの製作、ピアノ練習・園児に向けての集団パフォーマンスの計画と練習などの準備。 事後:実習の振り返り。幼稚園の先生方へのお礼状を出す。						
授 業 計 画 画	4. 各回の授業内容						
	①	以下について実習する。					
	②	① 実習の態度					
	③	積極的な取り組み、謙虚な態度、責任ある行動					
	④	② 保育の実践					
	⑤	保育指導案の作成、保育の指導及び援助、保育の環境構成					
	⑥	③ 実習の記録					
	⑦	観察の視点、表現の適切さ、幼児の理解					
	⑧	④ 教育実習オリエンテーション					
	⑨	教育実習に関するオリエンテーションが実習中に適宜開催される。					
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	実習園の評価及びオリエンテーションの参加を含めて総合的に評価する。 *実習日数の5分の1を超える欠席は、評価の対象にならない。						
参考文献等	(1)幼稚園教育実習Iに関するオリエンテーションが適宜実施されるが、全て参加すること。 (2)実習に参加するためには、学生使覧に示された実習参加要件を全て満たすこと。						
備考							
	オフィスアワー	実習中、自身で解決し得ない問題が生じた場合は連絡のこと。内容により、適宜、対応する。					

科目番号	138	授業科目	児童家庭福祉 (Child and Family Welfare)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	児教	講義	2	必修	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ・児童家庭福祉に関する全般を通し、体系的な知識と援助の基礎を身に付ける。						
	2. 到達目標 (1) 児童家庭福祉の歴史と概要を理解する。 (2) 児童家庭福祉の理念と現状及び課題を理解する。 (3) 児童家庭福祉に関する児童福祉法を理解する。						
	3. 事前事後学習 事前: 教科書を読む。 事後: 教科書で示した重要事項や配布した資料のポイントを整理する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 講義のガイダンス、保育における児童家庭福祉						
	② 現代社会と児童家庭福祉 I						
	③ 現代社会と児童家庭福祉 II						
	④ 児童家庭福祉の概念と理念 I						
	⑤ 児童家庭福祉の概念と理念 II						
	⑥ 児童福祉法と実施体制 I						
	⑦ 児童福祉法と実施体制 II						
	⑧ 児童家庭福祉施策の現状と課題 I						
	⑨ 児童家庭福祉施策の現状と課題 II						
	⑩ 児童家庭福祉施策の現状と課題 III						
	⑪ 児童福祉施設従事者と関連機関						
	⑫ 児童福祉施設と自立援助						
	⑬ 鹿児島における子育て支援の実際 I						
	⑭ 鹿児島における子育て支援の実際 II						
⑮ 総括							
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する。 ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	139	授業科目	子どもの保健Ⅱ (Child HealthⅡ)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	1	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 子どもの健康管理に必要な技術及び安全に係る保健活動について、子どもの心身の不調に対応するための観察ポイントや処置、事故を予防するための環境管理を具体的に理解する。さらに、実習に向けて、保育者としての自身の健康管理や地域の資源の活用についても学ぶ。						
	2. 到達目標 1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動のしくみを学ぶ 2. 子どもの心身の不調に対応するための観察ポイントや処置、事故を予防するための環境管理を具体的に学ぶ 3. 実習に向けて、保育者としての自身の健康管理や地域の資源の活用について学ぶ。						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回行うことが望ましい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 講義ガイダンス、班分け、乳児の抱き方・寝かせ方						
	② 調乳、授乳の仕方						
	③ 小児各期の発育の評価(身体計測)						
	④ 健康状態の観察方法(バイタルサインの観察)						
	⑤ 感染予防、手洗い						
	⑥ 食事介助						
	⑦ 与薬、罨法						
	⑧ 事故と対策、事故防止グッズの紹介						
	⑨ 応急処置、ケガの手当て						
	⑩ 運搬法						
	⑪ 清潔の援助①(歯磨きの指導、仕上げ磨き)						
	⑫ 心肺蘇生法						
	⑬ 清潔の援助②(おむつ交換)						
	⑭ 清潔の援助③(清拭)						
	⑮ 清潔の援助④(沐浴①)						
⑯ 清潔の援助⑤(沐浴②技術試験)							
成績評価	演習への取り組み状況(授業態度)30%・技術試験等70%						
参考文献等	テキスト : 開講時に指示する 参考文献: 授業の中で適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	月・水・金曜日の昼休み及び放課後(宇都研究室)					

科目番号	140	授業科目	乳児保育 (Childcare under three years old)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教	演習	2	選択	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 乳児保育の理念や役割について学び、乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の成長・発達について学び、保育の実際についても理解を深める。さらに、乳児保育における保育の内容や方法、計画や記録についても学ぶ。家庭や地域、関係機関との連携についても学ぶ。						
	2. 到達目標 1. 乳児保育の現状と課題について理解する 2. 3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学ぶ 3. 家庭や地域、関係機関との連携について学ぶ						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回行うことが望ましい。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 乳児保育とは、乳児保育の歴史、家庭保育と集団保育						
	② 家庭生活と園生活						
	③ 3歳未満の発達の特徴と保育①(自我の発達と保育、ビデオ)						
	④ 3歳未満の発達の特徴と保育②(運動発達と保育、ビデオ)						
	⑤ 3歳未満の発達の特徴と保育③(言葉の発達と保育、ビデオ)						
	⑥ 乳児の日常生活と保育の実際①(乳児期前半)						
	⑦ 乳児の日常生活と保育の実際②(乳児期後半)						
	⑧ 1歳児の日常生活と保育の実際						
	⑨ 2歳児の日常生活と保育の実際						
	⑩ 保育における保健活動						
	⑪ 保育計画と記録①						
	⑫ 保育計画と記録②						
	⑬ 保育所実習に向けて						
	⑭ 保育の実際(ビデオ)						
	⑮ 乳児保育を支える制度や連携と今後の課題						
⑯ 筆記試験							
成績評価	筆記試験(90分で実施)80%・レポート20%等						
参考文献等	テキスト:「はじめて学ぶ 乳児保育」、志村聡子 他著、同文書院 視聴覚教材:ビデオ「すばらしき36ヶ月」「乳児保育の実際」「低年齢児の保育」「保育実習」 参考文献:授業の中で適宜紹介する						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	月・水・金曜日の昼休み及び放課後(宇都研究室)					

科目番号	141	授業科目	保育所実習 I 指導 (Practice of Nursery School I)			担当者	丸田 愛子 宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保育所実習 I へ向けて、保育実習の意義・目的および内容を確認し、子どもの人権と最善の利益、実習施設における子どもの生活、保育士の仕事について理解する。また実習に向け、実習計画、観察、援助、記録の仕方など具体的な方法について学習する。実習後には、自己の課題を確認し、その後の学習の目標を立てる。						
	2. 到達目標 1. 子どもの人権、子どもの生活、保育士の仕事等、基本的なことを十分理解している。 2. 実習の目的や保育士の責務を理解し、保育者としての責任感と使命感を有している。 3. 実習に必要な基本的知識を有し、実習に向けての十分な準備と学習が行えている。						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に授業内容の復習や実習準備活動をして、本授業を実習に向けた計画的な実習準備に結び付け個々の活動を行うことが望ましい。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	① 保育実習の目的と内容、保育所実習までの流れについて						(宇都・丸田)
	② 子どもの人権と最善の利益、保育所保育における子どもの生活および保育士の仕事						(丸田)
	③ 実習に向けての準備と心構え(守秘義務、プライバシー保護、社会人としてのマナー等)						(丸田)
	④ 保育における観察・援助の方法						(丸田)
	⑤ 保育記録および指導案の作成						(丸田)
	⑥ 事前訪問について						(丸田・宇都)
	⑦ 保育所実習における目標、自己の課題と実習計画の立て方						(丸田・宇都)
	⑧ 腸内細菌検査及びぎょう虫卵検査について						(丸田)
	⑨ 検査結果配布と実習準備の確認						(丸田)
	⑩ 実習事後指導、レポート提出						(丸田・宇都)
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	実習準備の取り組み状況(50%)とレポート(実習の終了報告書)(50%)で総合的に評価する						
参考文献等	[テキスト] 鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)『保育実習の手引き』 [参考文献等] 授業中に適宜紹介する。 [視聴覚機材] 書画カメラ, PC, プロジェクター, VHS/DVDプレーヤー						
備考	オフィスアワー 授業時間の前後,あるいは随時研究室 ※研究室の場合は可能な限り事前連絡をすること						

科目番号	142	授業科目	保育所実習 I (Teaching Practice for Nursery I)			担当者	丸田 愛子 宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	1年・後期	児教 (小保/幼保)	実習	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 児童福祉施設としての保育所の機能、保育士の仕事や職業倫理について学び、実際に子どもや保育士の姿に触れることを通して、子どもの生活や発達、保育者の援助について理解を深める。そうした中で、既習の理論や技能を実践し、自身の知識や技能の及ばないところを見つける。また、保育士を目指す動機は何か、保育者として必要な資質は何か、社会人としての責任ある行動ができるかを確認する。						
	2. 到達目標 1. 保育所の機能・役割・基本的な子どもの生活や保育士の仕事を理解している。 2. 乳幼児の生活や発達、保育援助について、具体的な姿を体験的に学習している。 3. 参加/部分/担当保育等を通して実践力が高まり、社会人としての態度が育っている。						
	3. 事前事後学習 「保育所実習 I 指導」の授業と並行して計画的に実習準備活動を進めることが本科科目の事前学習となる。また実習終了後は、レポートを作成し実習での経験を振り返り、保育者としての自己の課題を明確にすることが、事後学習となる。						
	4. 各回の授業内容 保育所実習 I では、保育所における子どもの生活、保育士の保育活動に参加しながら、次のような内容の学習・実践をおこない、乳幼児保育の基本と実際について学ぶ。 1. 1年次のこれまでの学習を基に、理論や保育技術が実際の保育現場においてどのように応用され、実践されているかを学ぶ。 2. 0歳から6歳の全年齢層にわたって実習し、乳幼児の発達全般および年齢や発達過程に応じた保育について学ぶ。 3. 実習の方法については、観察はもとより、保育活動に参加しながら(保育士の補助、部分保育、担当保育を含む)、保育技術の実践の体験的理解をはかる。 4. 主な学習課題(1) 保育所の目的・役割・機能 (2) 保育所における乳幼児の生活や遊び(1日の保育の流れ) (3) 保育士の援助・かかわり方(保育活動) (4) 一人ひとりの子ども・集団の姿やその発達 (5) 環境構成 (6) 保育課程と保育計画 (7) 保育士とその他の職員の仕事・役割・機能、職員間の連携 (8) 保育所と家庭・地域との関係						
成績評価	本学の定めた評価票に従って、各実習先が評価する。その評価の観点は以下の3項目である。 ①実習の態度 ②保育・援助の実践 ③実習の記録(100%)						
参考文献等	テキスト:鹿児島女子短期大学 児童教育学科編 『保育実習の手引き』						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	143	授業科目	国語 (Japanese)			担当者	瀬戸口 修
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	小教免・幼教免選択必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼稚園・小学校(国語科)教諭としてふさわしい‘教師力’を養成する。						
	2. 到達目標 あいさつや敬語の使い方を身につける。保育現場での話し方に習熟する。実習日誌などの表記や書き方に習熟する。						
	3. 事前事後学習 実習生調書や個人票の書き方や事前訪問などのアポや話し方に活かす。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 自己紹介(話す・書く)						
	② 原稿用紙のつかい方の演練・・・定着・実践						
	③ 会話表現(基礎編)話し方・あいさつ						
	④ “ ” 敬語の使い方						
	⑤ 会話表現(応用編) 保育者の発声・自己紹介のしかた						
	⑥ “ ” 実習先との話し方・保育現場での話し方・子どもへのコトバかけ						
	⑦ “ ” 就職面接・保護者との話し方・保育現場での電話						
	⑧ 文章表現(基礎編) 文字について・正しい表記						
	⑨ “ ” 文章作成上の留意点・文章の基本的な書き方						
	⑩ 文章表現(応用編) 実習日誌の書き方・指導計画の書き方						
	⑪ “ ” 礼状など手紙・ハガキの書き方 メールの書き方						
	⑫ “ ” 履歴書の書き方						
	⑬ “ ” 小論文の書き方						
	⑭ “ ” 連絡帳・園便りの書き方						
⑮ 課題作文の提示・・・(最終作文)							
成績評価	各種レポート(20%)と最終作文(80%)						
参考文献等	テキスト：田上 貞一郎著『保育者になるための国語表現』萌文書林						
備考							
	オフィスアワー	水5・6限					



科目番号	144	授業科目	算 数 ( Mathematics for Elenentary and Preschool Education )			担当者	内田 豊海
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	小教免・幼教免選択必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 子どもの成長に見合った小幼保それぞれの段階における算数科の展開を考察する						
	2. 到達目標 1. 幼児の発達過程における算数能力の発達を把握する 2. 幼児期における算数教育の意義を理解する 3. 算数的活動の深さと楽しさを知る						
	3. 事前事後学習 適宜、授業内で指示する						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① ガイダンス:本講義の概要や目標等について						
	② 算数を学習することの意義						
	③ 子どもの発達と数概念の発達						
	④ 数と計算①:数を用いた遊び						
	⑤ 数と計算②:小数・分数とその計算						
	⑥ 量と測定①:ものの測り方を考えよう						
	⑦ 量と測定②:測れないものはどうやって測るのか						
	⑧ 量と測定③:大きさ;面積・体積						
	⑨ 図形①:さまざまな形						
	⑩ 図形②:空間の認識						
	⑪ 数量関係①:ものともものが関連し合うこと						
	⑫ 数量関係②:関連し合うものの変化						
	⑬ 算数教育の拡張①:他の教科との関連						
	⑭ 算数教育の拡張②:価値観を取り扱う						
⑮ 総括							
成績 評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は90分で実施 ○受講態度(15%) ○講義での発表や提出物(15%)						
参考 文献 等	テキスト 小幼・小保コース:文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』, 東洋館出版社 幼保コース:文部科学省『幼稚園教育要領』						
備 考							
	オフィスアワー	月・水・金13時～18時(西館412号室)					

科目番号	145	授業科目	生活 (Elementary Life Environmen Studies)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	小教免・幼教免選択必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 講義や体験的な学習をとおして、生活科教育の目標を具現化するために学習材開発ができる力を培う。						
	2. 到達目標 ①生活科を实践できる知識・技能を習得する。 ②地域を見つめ、環境を教育に活かそうとする意識をもつ。						
	3. 事前事後学習 授業で提示した課題に基づき、地域や自然の観察などを行う。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① イントロダクション						
	② 「学校と生活」の学習材開発						
	③ 「家庭と生活」の学習材開発						
	④ 「地域と生活」の学習材開発						
	⑤ 「公共物や公共施設の利用」の学習材開発						
	⑥ 「季節の変化と生活」の学習材開発						
	⑦ 「自然や物を使った遊び」の学習材開発						
	⑧ 「動植物の飼育・栽培」の学習材開発						
	⑨ 「生活や出来事の交流」の学習材開発						
	⑩ 「自分の成長」の学習材開発						
	⑪ 「地域探検」の実践—大学周辺を歩く—						
	⑫ 牧場体験学習 (1) (幼・保コースは「保・幼・小連携」について)						
	⑬ 牧場体験学習 (2) (幼・保コースは「保・幼・小連携」について)						
	⑭ 牧場体験学習 (3) (幼・保コースは「保・幼・小連携」について)						
⑮ 総括							
成績評価	試験またはレポートを課す。また、受講態度等を加味する。 (試験・レポート=90%、態度=10%)						
参考文献等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版） 参考文献は講義中に適宜指示する。 ビデオ(DVD)を使用する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日 18:00～19:00					

科目番号	146	授業科目	音楽Ⅲ ( MusicⅢ )			担当者	中村 礼香 稲森 奈津子
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児現場における音楽的表現の理論や実践を学び保育者としての資質を高める						
	2. 到達目標 1.コードネームを見て伴奏を弾けるようになる 2.様々な楽器の奏法を知る 3.様々な幼児曲の弾き歌いができるようになる						
	3. 事前事後学習 ピアノのレッスンには練習した上で臨み、レッスン終了後は復習する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 歌唱法Ⅰ／4月のうた 及びピアノ個人指導						
	② 歌唱法Ⅱ／5月のうた 及びピアノ個人指導						
	③ 歌唱法Ⅲ／6月のうた 及びピアノ個人指導						
	④ 簡易楽器奏法／7・8月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑤ コードネームの基礎Ⅰ／9月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑥ コードネームの基礎Ⅱ／10月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑦ 即興的な伴奏法Ⅰ／11月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑧ 即興的な伴奏法Ⅱ／12月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑨ 即興的な伴奏法Ⅲ／1月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑩ 即興的な伴奏法Ⅳ／2・3月のうた 及びピアノ個人指導						
	⑪ 器楽アンサンブルⅠ／生活指導のうた 及びピアノ個人指導						
	⑫ 器楽アンサンブルⅡ／集団遊びのうた 及びピアノ個人指導						
	⑬ ボディーパーカッションⅠ 及びピアノ個人指導						
	⑭ ボディーパーカッションⅡ 及びピアノ個人指導						
	⑮ 弾き歌い試験 及びピアノ実技試験の個人指導						
⑯ クラシック曲実技試験							
成績評価	①平常点(25%)弾き歌い試験(25%)、クラシック曲実技試験(50%) ②弾き歌い試験は幼児曲・小学校教材曲の中から任意の一曲を暗譜で演奏する ③ピアノ試験はクラシックの曲の中からバイエル100番以降の任意の一曲を暗譜で演奏する						
参考文献等	テキスト 幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編) うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ソナチネアルバム、ブルグミュラー等のピアノ教則本						
備考							
	オフィスアワー	(中村研究室)月～金 9:00～18:00(ただし授業時間を除く)					

科目番号	147	授業科目	児童の健康と保健 (Child Health)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教	講義	2	選択	小教免・幼教免選択	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 小児の保健について、発育過程から子どもの罹りやすい病気とその対応まで広く総論的に学ぶ。特に学童期の子どもの健康保持・増進のための保健活動については、学校保健活動の目標にそって学習する。さらに、現代の子どもが生活している環境や社会状況から生じる健康問題についても掘り下げ、健康教育のあり方を学ぶ。						
	2. 到達目標 1. 統計から見た子どもの健康に関する現状を知り、それに対する行政施策を学ぶ 2. 学校保健活動のしくみと保健管理と保健教育について、具体的に学ぶ 3. 子どもが罹りやすい病気とその対応、事故防止と安全対策について理解する						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回行うことが望ましい。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 小児期の範囲と区分、小児の成長						
	② 生理機能の発達						
	③ 運動機能の発達						
	④ 精神発達						
	⑤ 小児の栄養						
	⑥ 小児に関する統計と小児(母子)保健行政						
	⑦ 小児の事故と対策						
	⑧ 学校保健の領域構造、学校保健計画、学校における保健管理(健康診断)						
	⑨ 健康観察、健康調査、健康相談						
	⑩ 小児の健康と環境						
	⑪ 生活習慣病						
	⑫ 保健教育①(喫煙・飲酒・薬物乱用防止)						
	⑬ 保健教育②(命の大切さ、性教育)						
	⑭ 小児期の感染症						
	⑮ 予防接種と学校伝染病予防措置						
⑯ 筆記試験							
成績評価	筆記試験(90分で実施)100%						
参考文献等	テキスト:開講時に指示する 参考文献:授業の中で適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	月・水・金曜日の昼休み及び放課後(宇都研究室)					

科目番号	148	授業科目	教育相談 (Educational Counseling)			担当者	松元 理恵子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教	講義	2	選択	小教免・幼教免必修 ピアヘルパー試験受験必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会の変容の中で、幼児、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向がみられます。また、近年の子どもの健康に与える家庭の教育力や地域社会の機能の低下等を概観し、教師として子ども、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学びます。						
	2. 到達目標 1.問題を抱える子どもの心理状態を理解する 2.教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を習得する 3.自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える						
	3. 事前事後学習 次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメや資料をもとに予習をしてください。また、授業を深く理解するための資料やワークシートも配布しますので、レジュメと照合しながら復習を行ってください。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 教育相談の理論と方法						
	② 現代生きる子ども達～子どもの行動をどう理解するか						
	③ 子どもの発達理解と相談・支援～乳児期・幼児期						
	④ 子どもの発達理解と相談・支援～学童期・思春期						
	⑤ 子どもの不適応行動とその心理～いじめに対する支援						
	⑥ 子ども不適応行動とその心理～集団不適応、非社会的行動(不登校等)に対するかかわり方						
	⑦ 子ども不適応行動とその心理～情緒障害、反社会的行動(逸脱行動等)に対するかかわり方						
	⑧ 保護者への対応～親子の関係づくり、「親育ち」のための発達支援						
	⑨ 保護者への対応～保護者の要望と方針との間で						
	⑩ 発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり						
	⑪ 子どもの発達とアセスメント						
	⑫ 虐待について(身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待)						
	⑬ 危機に直面した子どもと心のケア						
	⑭ 教育相談の具体的方法～カウンセリングの基本事項、傾聴(ロールプレイング)						
	⑮ 社会資源の活用～関係機関を知る						
⑯ 筆記試験							
成績評価	※筆記試験は60分で実施(70%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(20%)、 受講態度(10%) ※出席点を含む						
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業中に適宜提示する。 パワーポイント、DVDを使用する場合がある。						
備考							
	オフィスアワー	火曜日・木曜日12:05～12:55(研究室)					

科目番号	149	授業科目	情報機器演習 (Computer exercise)			担当者	瀬戸 博幸
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	2	選択	小教免・幼教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、自信をもって活用できる人を育てる。						
	2. 到達目標 1. ICTの基本的な技術の習得 2. インターネットの存在する社会環境を把握する 3. コンピュータを道具として使える自信を持たせる						
	3. 事前事後学習 1. 身のまわりの情報機器に、常に関心を持つようにしておく。 2. 各時間に修得した内容を整理し、記録しておく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	コンピュータの基本操作					
	②	インターネットの歴史					
	③	電子メール					
	④	ホームページを作ってみよう					
	⑤	ホームページに写真を載せよう					
	⑥	Wordを使うその1					
	⑦	Wordを使うその2					
	⑧	Wordを使うその3					
	⑨	Wordを使うその4					
	⑩	Excelを使うその1					
	⑪	Excelを使うその2					
	⑫	WordとExcelの連携					
	⑬	PowerPoint					
	⑭	最終レポート その1					
⑮	最終レポート その2						
成績 評価	日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)による						
参考 文献 等	テキスト 実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 noa出版						
備 考	オフィスアワー	月曜日～金曜日(水曜日を除く)メールにて連絡すること。					

科目番号	150	授業科目	保育臨床 (Clinical Nursery Psychology)			担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期/後期	児教 小・幼/小・保/幼・保	講義	2	選択	幼教免・小教免必修 保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児期・児童期の発達に関する知識と臨床心理学をベースに、幼児・児童に現れる反・非社会的問題行動や、習癖、神経症的な問題行動などに関する理解を深めます。その上で、それらの問題を抱えた幼児・児童や保護者に対してどのように対応するかを、自ら根拠に基づいて考えられるようになることを目標とします。						
	2. 到達目標 1. 幼児の問題行動の理解のための基本的知識を習得する 2. 問題行動への対応を、根拠に基づき考えることができる 3. 育児相談についての基本的技術を習得する						
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション / 保育臨床とは						
	② 子どもの育ち ① (現代社会と子どもの育ち)						
	③ 子どもの育ち ② (幼児期の発達と遊び)						
	④ 保育者の役割と専門性 ① (臨床心理学的な視点)						
	⑤ 保育者の役割と専門性 ② (保育臨床の実践)						
	⑥ 保育者の役割と専門性 ③ (観察と記録、保育者の資質向上を目指した取り組み)						
	⑦ 年少児の問題行動の理解 ① (反社会的行動: 盗み、暴力、いじめ、虚言)						
	⑧ 年少児の問題行動の理解 ② (非社会的行動: 緘黙、登園拒否、孤立)						
	⑨ 年少児の問題行動の理解 ③ (神経症的行動: チック、爪かみ、指しゃぶり、抜毛)						
	⑩ 年少児の問題行動の理解 ④ (食事、排泄、睡眠に関わる問題行動)						
	⑪ 発達障害児の理解(自閉症スペクトラムについて)						
	⑫ 発達障害児の理解(注意欠陥多動性障害、学習障害について)						
	⑬ 保育現場でぶつかる諸問題 ① (保育の組み立て、子どもへの対応、保護者への対応)						
	⑭ 保育現場でぶつかる諸問題 ② (実習中の指導・援助、園や保育者との関わり)						
	⑮ 総括と質疑応答						
⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績(80点) 受講態度およびレポートの提 ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキスト: 小田豊・他(編著)「新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育臨床相談」 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。						
	オフィスアワー	金曜日 10:35~12:05 (研究室)					

科目番号	151	授業科目	家族関係論 (Family Sociology)			担当者	倉重 加代
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教	講義	2	選択		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 家族と社会の関連を学習し、家族の理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 家族を多角的に捉える視点を身につける。 2. 状況に応じた柔軟な思考ができるようになる。 3. 情報評価能力を身につける。						
	3. 事前事後学習 事前学習…家族問題を取り上げたニュース・新聞記事等に目を通しておくこと。 事後学習…現代家族が直面している問題に対して、自分自身の考えをまとめること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 家族とは何か—アンケートからの考察						
	② 家族の特性・定義						
	③ 家族の類型						
	④ 家族の変動(1)家族と全体社会の変動・家族変動の諸側面						
	⑤ 家族の変動(2)産業化と戦後家族の変動						
	⑥ 家族の変動(3)家族変動の行方						
	⑦ 現代の家族問題						
	⑧ 多様化する家族						
	⑨ 家族周期と親子関係						
	⑩ 子どもの社会化と親子関係(1)						
	⑪ 子どもの社会化と親子関係(2)						
	⑫ 少子化と子育て支援(1)少子化						
	⑬ 少子化と子育て支援(2)子育て支援						
	⑭ 少子化と子育て支援(3)						
	⑮ 総括、質疑						
⑯ 筆記試験							
成績評価	筆記試験(90%)※筆記試験は90分で実施 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト 木下謙治ほか編『新版 家族社会学—基礎と応用』九州大学出版会 2008年  参考文献 井上眞理子編『現代家族のアジェンダー—親子関係を考える』世界思想社 2004年 厚生労働省『子ども・子育て白書』ほか授業中に紹介 一部視聴覚教材(DVD)使用						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日9・10限目(研究室)					



科目番号	152	授業科目	教師と法 (Teachers in Laws)			担当者	池田 哲之
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 公教育(学校教育)と法の関わりを理解し、あわせて重要教育法令に関する運用能力を培う。小学校教員採用試験への準備も兼ねた内容にしてゆく予定。						
	2. 到達目標 (1)戦後教育法を体系的に理解する。 (2)法と学校教育のあるべき関係を知る。 (3)教員採用試験に対応しうる法令知識を習得する。						
	3. 事前事後学習 事前学習:日ごろから教育問題に関心を持ち、新聞、インターネット等の教育記事に目を通す習慣をつけること。 事後学習:授業で頒布した演習問題を繰り返し解いてみる。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 日本国憲法の基本理念						
	② 教育権と学習権						
	③ 旧教育基本法の基本理念						
	④ 新教育基本法の基本理念－旧教育基本法との対比－						
	⑤ 学校制度の基本Ⅰ－学校教育法を中心に－						
	⑥ 学校制度の基本Ⅱ－学校教育法施行規則を中心に－						
	⑦ 学校制度の基本Ⅲ－平成20年版小学校学習指導要領を中心に－						
	⑧ 地方公務員法Ⅰ－公務員の義務・責任－						
	⑨ 地方公務員法Ⅱ－公務員の分限・懲戒－						
	⑩ 教育公務員の研修－教育公務員特例法から－						
	⑪ 地方教育行政法Ⅰ－教育委員会制度の改正を視野に－						
	⑫ 地方教育行政法Ⅱ－国と地方教育行政の関係－						
	⑬ 地方教育行政法Ⅲ－教員の人事－						
	⑭ 教員の養成－教育職員免許法を踏まえ－						
	⑮ 総括						
⑯ レポート提出・受講状況							
成績評価	レポート等の内容・提出状況(70%) 受講状況(30%) ※出席状況も勘案する。						
参考文献等	教員作成の問題演習プリント中心。						
備考	単位互換開放対象科目 シラバスの記載内容は、受講生の理解態度等により、授業開始後に変更となる場合があります。						
	オフィスアワー	火曜日 16:30～17:30					

科目番号	153	授業科目	理科教育法 (Teaching Method of Natural Science)			担当者	横峯 孝昭
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 見通しを持った観察や実験を行う段階で、子どもの学習の構造化の一貫性を考慮した指導内容について理解する。実際に行うであろう実験棟もふまえて再理解へとつなげ、活動するための実践について考える。						
	2. 到達目標 (1) 小学校理科教育の目標・内容について理解する。 (2) 小学校理科に求められる基本的な考えについて理解する。						
	3. 事前事後学習 理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である。その点を踏まえて事前に勉強をしておくが良い。見通しを持った観察、実験をするための教材研究を各学年の内容を学習した後に各々考えて欲しい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 小学校理科教育の目標と内容						
	② 領域の内容 A区分 B区分の取り扱い						
	③ 第3学年の目標と内容(A区分)						
	④ 第3学年の目標と内容(B区分)						
	⑤ 第4学年の目標と内容(A区分)						
	⑥ 第4学年の目標と内容(B区分)						
	⑦ 第5学年の目標と内容(A区分)						
	⑧ 第5学年の目標と内容(B区分)						
	⑨ 第6学年の目標と内容(A区分)						
	⑩ 第6学年の目標と内容(B区分)						
	⑪ 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い						
	⑫ 学習指導案の作成方法と具体例(1)						
	⑬ 学習指導案の作成方法と具体例(2)						
	⑭ 学習指導案の作成方法と具体例(3)						
	⑮ 総括						
⑯ レポート							
成績評価	作成した指導案(70%)および受講態度(30%)によって評価する						
参考文献等	参考文献は講義中適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間					

科目番号	154	授業科目	音楽科教育法 (Teaching Method of Music for Elementary School)			担当者	新村 元植
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 (1) 小学校音楽科の目標及び内容について理解を深める。 (2) 模擬授業を通して具体的に教材を研究し、指導計画や指導法について研究する。						
	2. 到達目標 (1) 3名のグループでそれぞれ20分程度の模擬授業を実施する。 (2) 小学校音楽科における教材、指導案、模擬授業を研究する。 (3) 小学校学習指導要領音楽編を研究する。 (4) コードネームによる簡易伴奏法を研究する。						
	3. 事前事後学習 模擬授業に際しては、事前に指導案の作成、指導法、伴奏法の研究をする。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 教材曲を使用したコードネーム作成練習1						
	② 教材曲を使用したコードネーム作成練習2						
	③ 教材曲を使用したコードネームによる簡易伴奏法演習1						
	④ 教材曲を使用したコードネームによる簡易伴奏法演習2						
	⑤ 小学校学習指導要領音楽編の研究1 (新学習指導要領が目指すものとその変更点)						
	⑥ 小学校学習指導要領音楽編の研究2 (子どもの音楽的発達と新指導要領)						
	⑦ 音楽授業指導の研究1 (指導計画の作成と領域の取り扱い)						
	⑧ 音楽授業指導の研究2 (音楽科授業の具体的な指導ポイント)						
	⑨ 音楽授業指導の研究3 (歌唱活動、器楽活動授業をどのように展開するべきか)						
	⑩ 音楽授業指導の研究4 (身体表現活動、創作活動授業をどのように展開するべきか)						
	⑪ 音楽授業指導の研究5 (1・2学年の鑑賞教材の取り扱い方)						
	⑫ 音楽授業指導の研究6 (3・4学年の鑑賞教材の取り扱い方)						
	⑬ 音楽授業指導の研究5 (5・6学年の鑑賞教材の取り扱い方)						
	⑭ 総合的演習1						
⑮ 総合的演習2							
成績評価	1) 期末試験では筆記試験(90分)を実施し、講義内容の理解度を評価する。(70%) 2) 平常点(授業課題・出席等)を評価する。(30%)						
参考文献等	うたとあそび(鹿児島私立幼稚園協会編)						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日(新村研究室);要事前連絡					

科目番号	155	授業科目	図画工作科教育法 (Teaching method of drawing and manual arts)			担当者	井上 周一郎 松下 茉莉香
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児期から児童期における造形表現活動を考察する。						
	2. 到達目標 ①各学年の教育目標に基づいた学習内容、児童期の造形表現の発達段階を理解する。 ②多様な実験や作品制作を通して、造形表現の基礎的技能を培い、豊かな情操を養う。 ③表現及び鑑賞学習の具体的な指導法を修得する。						
	3. 事前事後学習 事前学習:特になし 事後学習:講義の中で指示を行う						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	「クロッキー・デッサンに取り組む～感じて描く～」					(井上)
	②	彫塑表現Ⅰ「紙粘土制作～心棒作りから荒付け～」					(井上)
	③	彫塑表現Ⅱ「紙粘土制作～荒付けから成形」					(井上)
	④	彫塑表現Ⅲ「紙粘土制作～成形から仕上げ～」					(井上)
	⑤	図画工作科教育の目的と意義を学習					(井上)
	⑥	工作に表すⅠ「帽子制作～発想から枠組み作り～」					(井上)
	⑦	工作に表すⅡ「帽子制作～組み立てから仕上げ～」					(井上)
	⑧	「造形遊び」と「工作に表す」の特質と指導の在り方を学習					(井上)
	⑨	絵画表現の実験制作と指導の在り方について	水彩絵の具を用いた風景画の制作			(松下)	
	⑩	(遠近法について・構図の組み方・形の捉え方を学ぶ)					(松下)
	⑪	(様々な表現技法について・描画材の特徴を考察)					(松下)
	⑫	児童期の描画表現の発達と指導の在り方について					(松下)
	⑬	版画表現の実験制作と指導の在り方について	一版多色版画を用いた実験制作			(松下)	
	⑭	(版画の種類・道具の扱い・表現技法について学ぶ)					(松下)
⑮	児童期の版画表現の指導の在り方について	小学校図画工作科の指導案作成に関して			(松下)		
成績評価	出席回数と受講態度(10点)・レポート(10点)・筆記試験90分(40点)・作品評価(40点)						
参考文献等	随時資料を配布 参考文献:「新学習指導要領による 図画工作科教育法」 大学美術教育教育法研究会編著 日本文教出版						
備考	オフィスアワー	月水金 16:25～19:55					

科目番号	156	授業科目	家庭科教育法 (Teaching Method of Home Economics)			担当者	大倉 洋代
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 1 「生きる力」という理念を共有する。 2 基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 3 豊かな心や健やかな体の育成のための指導。						
	2. 到達目標 1 日常生活に必要な基本的な知識と技能を身につける 2 家庭生活を大切にすることを育む 3 家族の一員として生活を良くしようとする態度を育てる						
	3. 事前事後学習 1 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。 2 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 家庭科教育の意義						
	② 家庭科の目標及び内容						
	③ 学習指導法						
	④ 学習指導計画						
	⑤ 家庭科の内容(A)						
	⑥ 家庭科の内容(B)						
	⑦ 家庭科の内容(C)						
	⑧ 家庭科の内容(D)						
	⑨ 家庭科の評価、家庭科の施設・設備						
	⑩ 学習指導案の作成						
	⑪ 授業計画と教材研究						
	⑫ 模擬授業発表(1)						
	⑬ 模擬授業発表(2)						
	⑭ 被服実習(小物づくり)						
⑮ 被服実習(小物づくり)							
成績評価	受筆記試験(60分で実施)40%・課題レポート40%・受講態度20%の総合評価						
参考文献等	○テキスト・・・『わたしたちの家庭科 小学校5・6』 開隆堂 文部科学省著・小学校学習指導要領解説 家庭編・株式会社東洋館出版社 ○参考文献・・・小学校家庭科の指導・中間美佐子, 多々納道子・建帛社 ○視聴覚機器 ビデオVHS、DVD						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	157	授業科目	道徳教育の研究 (Study of Moral Education)			担当者	村若 修
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「道徳」とは何かという問いに始まり、日本の道徳教育の歴史を学んだ上で、「道徳」の授業のあり方、その他の科目を含め、学校生活のなかで行われる道徳教育の実践などについて考えていきます。その中ではまた、子どもの道徳性の発達にも配慮し、年齢に応じた教育内容を考えます。模擬授業もできるだけ取り入れ、実践的な授業を行います。						
	2. 到達目標 1. 道徳教育の意味と意義を理解する。 2. 日本の道徳教育の歴史と特性を知る。 3. 「道徳の時間」の授業を構成できる。						
	3. 事前事後学習 講義前に講義で扱うテキストの部分を読んでおくこと。 講義後に復習や視聴覚教材の感想文を課することがある。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 「道徳」とは何か、「道徳」は教えられるか						
	② 日本の道徳教育の歴史(1)						
	③ 日本の道徳教育の歴史(2)						
	④ 世界各国の道徳教育(1)						
	⑤ 世界各国の道徳教育(2)						
	⑥ 道徳性の発達(低学年)						
	⑦ 道徳性の発達(中学年)						
	⑧ 道徳性の発達(高学年)						
	⑨ 道徳教育の理論						
	⑩ 「道徳の時間」の指導						
	⑪ 家庭生活と道徳教育						
	⑫ 学校生活と道徳教育						
	⑬ 社会生活と道徳教育						
	⑭ 倫理学と道徳教育						
⑮ 道徳教育の可能性							
成績評価	基本的に期末テストによりますが、感想文や提出物等を評価に加味します。 学期末テスト(80点) 提出物(感想文等)(20点)						
参考文献等	テキスト: 吉田武男他著『道徳教育の変成と課題 「心」から「つながり」へ』学文社						
備考							
	オフィスアワー	火曜日					

科目番号	158	授業科目	特別活動の研究 (Learn-by-doing-Theory)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長と共に、集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要である。また、道徳の時間等との関連性も含め、学校での教師の活動全体に関わる特別活動の位置づけも考えていきたい。下記の授業計画による。						
	2. 到達目標 (1) 特別活動の全般的理解						
	3. 事前事後学習 講義実施中に、小学校教育実習があるので、それも事前事後学習の機会と考えてもらいたい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 特別活動とは？－その変遷、概略的内容						
	② 特別活動で望まれるもの(I)－集団の一員としての自覚、好ましい人間関係など						
	③ 特別活動で望まれるもの(II)－社会生活上の基本的モラルの習得、自主的態度など						
	④ 特別活動で望まれるもの(III)－日本人としての自覚と国際協調の精神の涵養など						
	⑤ 小中学校学習指導要領の比較						
	⑥ 学級活動について						
	⑦ 学級活動について－その内容と事例研究(I)						
	⑧ 学級活動について－その内容と事例研究(II)						
	⑨ 児童会活動について						
	⑩ 児童会活動について－その内容と事例研究						
	⑪ クラブ会活動について－その内容と事例研究						
	⑫ 学校行事について(I)－子どもの成長に対する行事の持つ意味						
	⑬ 学校行事について(II)－具体的な学校行事とその事例研究						
	⑭ 特別活動の新しい実践課題と具体策						
⑮ 総括							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	講義中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。					

科目番号	159	授業科目	教育課程・保育課程 (Curriculum Research)			担当者	丸田 愛子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保/幼保)	講義	2	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 教育課程・保育過程の意義・目的と編成方法を理解する						
	2. 到達目標 ① 編成の意義や目的について理解する ② 編成方法や内容について理解する ③ 今日的課題を知り、理解を深める						
	3. 事前事後学習 事前学習では、保育所・幼稚園の教育課程・保育課程が書かれている雑誌を紹介し、実際の保育現場の具体的な編成を理解できるよう指導する。 事後学習では、教育実習・保育実習の実習先での教育課程・保育課程を見て理解し、保育の実践に役立てるように指導する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 教育課程・保育課程の意義と歴史的変遷						
	② カリキュラムの基礎理論1						
	③ カリキュラムの基礎理論2						
	④ 教育課程・保育課程の編成と構造1						
	⑤ 教育課程・保育課程の編成と構造2						
	⑥ 教育課程・保育課程の編成の留意事項						
	⑦ 保育計画の実際と作成・展開1(保育の省察と記録)						
	⑧ 保育計画の実際と作成・展開2(実際の作成手順)						
	⑨ 保育所以外の保育の計画と評価と指導要録と保育要録						
	⑩ 特別支援教育と教育課程・保育課程						
	⑪ 保育の評価(保育所及び保育士)と学校評価(幼稚園・小学校)1						
	⑫ 保育の評価(保育所及び保育士)と学校評価(幼稚園・小学校)2						
	⑬ 教育課程・保育課程の評価と改善						
	⑭ 教育課程・保育課程の今後の課題						
⑮ 総括							
成績評価	①講義で出された課題(レポート等)の達成状況(15%) ②筆記試験(70%);45分で実施 ③受講態度(15%)						
参考文献等	「保育所保育指針解説」 「幼稚園教育要領解説」 資料を配布するのでファイリングすること 使用機器;教材提示装置、コンピューター(パワーポイントなどの使用)						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日 16:30~17:30					



科目番号	160	授業科目	保育内容(表現Ⅱ) (Childcare content (RepresentationⅡ))			担当者	小松 恵理子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期 2年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本授業では、領域「表現」において、特に幼児の自発性・好奇心を重視した遊びや体験活動を取り入れた「運動による表現活動(身体表現)」を通して、幼児の豊かな感性や創造性、ひいては生きる力の基礎を育成する支援の在り方について、どうあるべきかを考える。						
	2. 到達目標 (1) 身体表現指導の基礎的理論を身につける。 (2) 日常の保育から運動会までオリジナル書式での保育案を作成することができる。 (3) 作成した保育案を基に模擬保育を経験することで保育実践力を養う。						
	3. 事前事後学習 1. 参考図書を熟読すること。 2. 授業中に出す課題達成のために、グループワークや自主練習が必要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 指導要領・保育指針と「領域 表現」とのについて						
	② 幼児の身体表現の実際と発達について(VTR視聴)						
	③ 身体表現指導の基礎理論について						
	④ 身体表現指導の実際1 (模擬保育) 歌遊び・手遊びから表現へ						
	⑤ 身体表現指導の実際2 (模擬保育) 歌遊び・手遊びから表現へ						
	⑥ 身体表現指導の実際3 (模擬保育) 様々な素材から表現へ						
	⑦ 身体表現指導の実際4 (模擬保育) 様々な素材から表現へ						
	⑧ 身体表現指導の実際5 (模擬保育) 季節・生活から表現へ						
	⑨ 身体表現指導の実際6 (模擬保育) 季節・生活から表現へ						
	⑩ 身体表現指導の実際7 (模擬保育) 空想・物語から表現へ						
	⑪ 身体表現指導の実際8 (模擬保育) 空想・物語から表現へ						
	⑫ 身体表現指導の実際9 (模擬保育) オペレッタから表現へ(伴奏音編集及び演出方法を含む)						
	⑬ 身体表現指導の実際10 (模擬保育) オペレッタから表現へ						
	⑭ 身体表現指導の実際11 (模擬保育) 自由な課題から表現へ(伴奏音編集及び演出方法を含む)						
	⑮ 身体表現指導の実際12 (模擬保育) 運動会での表現活動へ						
⑯ 実技試験							
成績評価	受講態度(10%)・授業中の課題発表・レポート・実技試験等(90%)を総合して評価する。						
参考文献等	井上勝子編著:「新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び」(株)ぎょうせい						
備考	単位互開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日午後					

科目番号	161	授業科目	小学校教育実習指導 (Guidance for Teaching Practice for Elementary School)			担当者	松崎 康弘
							内田 豊海
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小幼/小保)	講義	1	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実習の意義・目的を正しく理解するとともに、実習に必要な授業技術等を培うなど小学校教育実習に必要な知識・技能・態度を養う。また、実習の成果を振り返り、今後の進路に生かそうとする態度を養う。						
	2. 到達目標 ①小学校教育実習の意義を理解し、実習に臨む意欲をもつ。 ②実習に必要な観察力や技能を習得する。 ③実習をふりかえり今後生かそうとする意識をもつ。						
	3. 事前事後学習 授業時の指示に基づき、実習記録の必要事項の記入や指導案作成の準備等、必要な学習を行う。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 教育実習の意義と目的						
	② 教育実習の準備について						(松崎・内田)
	③ 教育実習の展開について ―観察実習から参加実習へ―						(松崎・内田)
	④ 学習指導案の作成について						(松崎・内田)
	⑤ 授業実習への取り組み方について						(松崎・内田)
	⑥ 生活指導等への取り組み方について						(松崎・内田)
	⑦ 教育実習生としてのマナー						(松崎・内田)
	⑧ 実習事後指導						(松崎・内田)
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポートを課す。受講態度等を加味する。(レポート=90%、態度=10%)						
参考文献等	テキストとして本学作成の『教育実習の手引』を使用する。 参考文献は講義中に適宜指示する。						
備考							
	オフィスアワー	月曜日 18:00～19:00					

科目番号	162	授業科目	小学校教育実習 (Teaching Practice for Elementary School)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/小保)	実習	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実習校のご指導の下、教育活動への参加・観察、授業実習や学級経営への参加、講話の聴講などを行い、小学校教諭にふさわしい力をつける。						
	2. 到達目標 ①小学校教師の責任ややりがいを胸に刻む。 ②教師の仕事に必要な知識や技能を習得する。 ③児童と接する中で子ども観を構築できる。						
	3. 事前事後学習 実習校の指示に従い、授業実習等の準備や実習記録の記述をとおしての振り返りなどを行う。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	①	10日間の実習は、実習校の計画・ご指導の下行われるが、概ね下記の内容となる。					
	②	第1週は授業参観(観察)が中心となるケースが多い。各教科等、各学年の授業を参観しながら、教師の授業展開や技術を学ぶとともに、子どもたちの実態をつかんでいく。また、実習担当教諭から学習指導案作成などの指導を受け、教材研究などの形で授業実習の準備を積んでいく。そして、第1週の後半ごろから、実習生が実際に1単位時間の授業を行う授業実習が開始される。					
	③	第2週にも授業参観(観察)及び授業実習が行われる。授業実習の総仕上げ的なものが「評価授業」(「研究授業」)で、実習生の授業に対する努力が表れる。授業実習の後には授業研究会(反省会)が行われ、実習担当教諭や参観者からさまざまな指摘・ご指導を受けることになる。					
	④	教科等の授業以外に、学校行事への参加を求められるケースも多く、クラス担任の補助をしながら子どもたちにかかわる。学級経営に関しては、講話の形で諸担任教諭等による指導を受けるとともに、実際にクラスにおいて実務に携わり、その目的や方法を学ぶ。給食指導や清掃指導、朝の会・帰りの会などの指導をとおして、その役割を理解する。校長・教頭をはじめ実習校の先生方から学校経営等に関する講話を聴講し、学校教育に対する理解を深める。実習校の教育方針や年間指導計画、校務分掌などについての理解が求められる。					
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	各実習校が知識・技能・態度に関する本学所定の項目について評価を行い、それをもとに本学で単位認定する。(100%)						
参考文献等	本学作成の『教育実習の手引』を参照すること。						
備考							
	オフィスアワー	月曜日 18:00~19:00					

科目番号	163	授業科目	幼稚園教育実習Ⅱ指導 (Guidance for Teaching Practice for Preschool Ⅱ)			担当者	山元・松崎・井上	
			開講学期	学科・専攻	履修方法			単位数
区分	2年・前期	児教 (小幼/幼保)	講義	1	選択	幼教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 2年次に行われる幼稚園教育実習Ⅱについての事前・事後指導である。1年次の基本実習をベースに、各自が実習に向けての意欲や問題意識を高めるとともに、教材研究、指導案作成に新たな観点を加えることができるように心から願うものである。							
	2. 到達目標 実習の事前事後の作業による人格的技術的向上							
	3. 事前事後学習 この指導以前に参加した二つの実習から得られたものや反省点を事前に踏まえてほしい。事後学習は実習後講義の機会を設ける。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	幼稚園教育実習の意義について					(山元・松崎・井上)	
	②	実習に参加する意識・態度について					(山元・松崎・井上)	
	③	実習に関する諸手続きについて					(山元・松崎・井上)	
	④	実習の形態と目的について					(山元・松崎・井上)	
	⑤	子どもの姿の理解に基づく指導計画の立て方について					(山元・松崎・井上)	
	⑥	指導計画の書き方について					(山元・松崎・井上)	
	⑦	実習記録の書き方について					(山元・松崎・井上)	
	⑧	実習のまとめ(事後指導)					(山元・松崎・井上)	
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
⑮								
成績評価	レポートの提出を義務づける。(80%) また、受講態度を重視する。(20%)							
参考文献等	本学作成の「教育実習の手引」を毎回持参すること。また、毎回プリントを配布するので、ファイルして熟読すること。							
備考	幼稚園教育実習Ⅱを履修(再履修等を含む)する者は必ず本科目を履修すること。この事前指導により、実習参加を最終決定するので注意すること。							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。						

科目番号	164	授業科目	幼稚園教育実習Ⅱ (Teaching Practice for PreschoolⅡ)			担当者	松崎・山元・井上
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小幼/幼保)	実習	2	選択	幼教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実践現場での実習を通して、以下の目的を達成する。 ①子ども達との遊びやふれあいを通して子どもを知る。②子どもとの関わり方を学ぶ。 ③保育の実践技術・技能を高める。④職員のチームワークを理解する。 ⑤保育の専門家としての資質を高める。 ⑥社会的な保育ニーズ、近年の幼稚園を取り巻く状況について理解する。 (以上、「教育実習の手引き」参照。)						
	2. 到達目標 実践による子ども理解、保育技術・保育観の形式						
授 業 計 画	3. 事前事後学習 事前学習は、これまでの実習と幼稚園教育実習Ⅱ指導である。 事後学習は、実習後に機会を与える。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	①	原則として幼・保コースは6月、小・幼コースは9月上旬～中旬の10日間の日程で実習は行われる。					
	②	実習の展開については、各実習園の指示に従うが、本学としては下記のような一応の目安がある。					
	③	第1段階では観察を中心とした実習を行い、配属されたクラスの1日の流れをつかみ、保育のねらい					
	④	や計画を理解し、教師(保育者)の教育方針(保育方針)を理解する。子ども一人ひとりを知ること					
	⑤	も大事な課題である。ただし、この段階は基本実習で行われるため、本実習では略されることも多い。					
	⑥	第2段階では、担当クラスの保育に参加しながら、教育課程・指導計画のねらいや計画を知る。担当					
	⑦	保育、評価(研究)保育の基礎となる経験を積み上げていく。					
	⑧	第3段階では、担当クラスの指導計画に沿いながら、かつそれらとの関連性を十分に配慮した上で					
	⑨	創意工夫のある指導計画を作成し、それらを実践・展開する。					
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	各実習園が保育の実践に関わる技能や実習記録・指導案などの状況、実習態度などに関する本学所定の項目について評価を行い、それをもとに本学で単位認定する。(100%)						
参考文献等	本学作成の「教育実習の手引」を参照すること。また、各実習園で参考文献等が提示される場合があるので、必ず参照すること。						
備考	所定の条件(実習指導の履修や必要書類の提出、事前指導への参加など)を満たしていない場合、実習に参加できないので注意すること。						
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。					

科目番号	165	授業科目	社会的養護 (Social Care)			担当者	谷川 知士
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教	講義	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ・社会的養護の歴史や現状を把握し、児童の権利擁護について理解する。						
	2. 到達目標 (1)社会的養護の歴史や現状を理解する。 (2)社会的養護の制度や体系を理解する。 (3)児童の権利擁護について理解する。						
	3. 事前事後学習 事前：指定された教科書等を読んでおく。 事後：重要事項を整理しておく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 講義ガイダンス、保育における社会的養護とは						
	② 社会的養護の歴史						
	③ 社会的養護の基本原理						
	④ 社会的養護の原則・理論						
	⑤ 子育て家庭の現状と社会的養護						
	⑥ 社会的養護の対象と領域Ⅰ・Ⅱ						
	⑦ 社会的養護の対象と領域Ⅲ・Ⅳ						
	⑧ 社会的養護の対象と領域Ⅴ						
	⑨ 社会的養護の体系と運営						
	⑩ 社会的養護の専門職						
	⑪ 社会的養護の形態と働き方						
	⑫ 子どもの権利擁護						
	⑬ 児童福祉施設の援助者としての資質と倫理						
	⑭ 社会的養護の課題						
⑮ 総括							
成績評価	以下の3点により、総合的に評価する ①筆記試験(90分で実施):60点満点+下記を加算 ②受講態度・発表:30点 ③レポート:10点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	166	授業科目	子どもの保健Ⅲ (Child Health Ⅲ)			担当者	宇都 弘美
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教	講義	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 子どもが心身共に健やかに育っていくために、保健管理の実際について具体的に学ぶ。また、子どもが生活している自然環境とそこでの健康上の問題点を理解し、健康を維持増進するための援助を考える。さらに、家庭や社会環境における課題についても理解を深め、社会資源を活用した支援を学ぶ。子どもの精神保健とその課題についても理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 子どもが生活している自然環境とそこでの健康上の問題点を理解し、健康を維持増進するための援助を学ぶ 2. 家庭や社会環境における課題についても理解を深め、社会資源を活用した支援を学ぶ 3. 子どもの精神保健とその課題について理解する						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回行うことが望ましい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 保育所・幼稚園の健康管理と健康教育						
	② 健康の保持・増進のための組織的取り組みと家庭・関係機関等との連携						
	③ 日常の健康観察						
	④ 健康と自然・保育環境						
	⑤ 健康的な生活習慣と生活習慣病						
	⑥ 思春期の問題行動						
	⑦ 事故予防と子どもの生活の場における安全管理・衛生管理						
	⑧ 児童虐待防止①						
	⑨ 児童虐待防止②						
	⑩ 子どもの生活環境と精神保健						
	⑪ 精神・神経系の病気						
	⑫ 予防接種について						
	⑬ 命の大切さを教える教育と性教育①						
	⑭ 命の大切さを教える教育と性教育②						
	⑮ 命の大切さを教える教育(ビデオ視聴)						
⑯ 筆記試験							
成績評価	筆記試験(90分で実施)100%						
参考文献等	テキスト:「子どもの保健Ⅰ」で使用したものを使用する 参考文献:授業の中で適宜紹介する						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	月・水・金曜日の昼休み及び放課後(宇都研究室)					

科目番号	167	授業科目	子どもの食と栄養 ( Food & Nutrition for Children )			担当者	河井 マサ子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ①栄養の基本的知識を学び、望ましい食生活のあり方を考え、自ら実践できるようになる。 ②保育士として、乳児期から学童期の子どもたちの食生活上の援助ができる知識と技術を習得する。 ③保育士として、食育を行うために必要な知識と技術を習得する。						
	2. 到達目標 ①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 ②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 ③食育の基本・内容及び食育のための環境等を理解する。 ④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 ⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
	3. 事前事後学習 ・テキストの熟読と疑問点の洗い出し ・家庭での調理の実践 ・食品成分表の準備が望ましい						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	子どもの発育・発達と支援		: 「食」の重要性、小児期栄養の特徴			
	②	栄養・食品の知識		: 栄養生理、栄養素の働き			
	③	小児期の食べ物		: 食品の栄養的特徴			
	④	望ましい献立		: 献立づくり、食品配分、調理の役割			
	⑤	妊娠・胎児期の食生活		: 妊娠・出産・母体の変化・胎児の成長			
	⑥	乳児期の食生活		: 乳児期の発育と栄養、授乳方法			
	⑦	離乳期の栄養		: 離乳の必要性、離乳食の進め方			
	⑧	幼児期の食生活		: 幼児期栄養の特徴、幼児食と食習慣			
	⑨	児童福祉施設における食事と栄養		: 保育所給食、学校給食			
	⑩	食育の基本		: 保育所における食育			
	⑪	食育の実践		: 食育媒体			
	⑫	子どもの食生活		: 食環境の変容の理解と対応			
	⑬	子どもの食生活への配慮		: 偏食・発熱、おう吐、アレルギーなどへの対処			
	⑭	障がいのある子どもの食生活		: 食生活の問題点と対応、食器の選択			
	⑮	総括					
⑯	試験						
成績 評価	レポート・コメント・筆記試験等による総合評価 1, 受講態度…10% 2, 課題提出…20% 3, 期末筆記試験 …70%						
参考 文献 等	【テキスト】 新時代の保育双書「子どもの食と栄養」峯木真知子・高橋淳子 編 (株)みらい 2,200円(税別) 【参考資料】 「家庭科」の教科書 ……文部科学省・高校で使用したもの 「授乳・離乳の支援ガイド」 ……厚生労働省 「日本食品成分表」 ……教育図書など						
備考	オフィスアワー						



科目番号	168	授業科目	社会的養護内容 (Contents of Social Care)			担当者	谷川知士・上原康祐 水流源彦・松下利衣
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教	演習	1	選択	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ・社会的養護の具体的な支援内容を理解する。						
	2. 到達目標 (1) 児童福祉施設の役割と支援方法について理解する。 (2) 社会的養護の対象となる親子への支援を理解する。 (3) 関係機関との連携とチームワークについて理解する。						
	3. 事前事後学習 事前:教科書を読んでおく。 事後:外部講師から配布された資料の重要事項を整理しておく。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	児童養護施設等	①子どもを受け入れる	-インテークと観察-		(上原)		
		②子どもへのかかわり	-方針と個別のかかわり-		(上原)		
		③生活のルールと子どもの意見の尊重	-集団を活用した生活づくり-		(上原)		
		④子どもの行動への対応1	-愛着障害等による行動への対応-		(上原)		
		⑤子どもの行動への対応2	-被虐待,暴力,非行等逸脱行動への対応や専門職との協力-		(谷川)		
		⑥子どものグループと担当居室の運営	-リビングケアと自立支援及びアフターケア-		(谷川)		
		⑦施設の行事と集団活動	-行事等の集団活動とその進め方-		(谷川)		
		⑧親子再統合への取り組み1・2	-ペアレントトレーニング等・親子再統合への準備-		(谷川)		
	障害児者利用施設等	⑨乳幼児の親子支援状況	-鹿児島市の状況-		(松下)		
		⑩乳幼児の親子支援事例	-鹿児島市の状況-		(松下)		
		⑪障がい児・者施設等の運営状況	-全国,鹿児島県の状況-		(水流)		
		⑫障がい児・者施設等の支援事例1	-鹿児島県の状況-		(水流)		
		⑬障がい児・者施設等の支援状況	-全国,鹿児島県の状況-		(水流)		
		⑭障がい児・者施設等の支援事例2	-鹿児島県の状況-		(水流)		
⑮職場の運営と職員のチームワーク		-組織と役割,職員の姿勢と信頼-まとめ		(谷川)			
成績評価	以下の2点により、総合的に評価する。 ①レポート:70点+下記の点を加味する ②受講態度・発表:30点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	169	授業科目	施設実習 I 指導 (Practical Guidance on Welfare I)			担当者	谷川 知士 松下 茉莉香	
							備考	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	児教	演習	1	選択	保育士証必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ・各福祉施設の現状と課題及び具体的な役割について理解する。							
	2. 到達目標 (1) 児童福祉施設について理解する。 (2) 障害児・者施設について理解する。 (3) 実習での留意点について理解する。							
	3. 事前事後学習 事前:自分が希望する実習先の施設の役割について調べておく。 事後:実習で学んだことや反省点についてレポートとして整理する。							
授業計画	4. 授業計画							
	① 児童養護施設について							
	② 特別講義 A. 児童養護施設の実際 (岩元)							
	③ 知的障がい児・障がい者施設について							
	④ 特別講義 B. 知的障がい施設の実際 (水流か)							
	⑤ 乳児院について							
	⑥ 特別講義 C. 乳児院の実際							
	⑦ その他の児童養護施設について							
	⑧ 施設実習事後指導 (岩元)							
成績評価	・レポートと受講態度(100%)により評価する。							
	・参考文献や必要な冊子等については、随時提示する。							
参考文献等								
備考								
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)						

科目番号	170	授業科目	施設実習 I ( Welfare Practice )			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・通年	児教	実習	2	選択	保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 ・職員の具体的な支援方法を理解する。						
	2. 到達目標 (1) 実習を通し、社会福祉における価値・理念を体験的に捉える。 (2) 施設で暮らす方々や通って来る方々との関わりを通して、生活や課題への理解を深める。 (3) 職員の専門的な関わり・支援方法を学びながら、社会福祉従事者としての資質向上を図る。						
授業計画	3. 事前事後学習 事前: 実習施設でのボランティアを事前に体験する。 事後: 実習後は施設での行事等に参加する。						
	4. 各回の授業内容						
授業計画	①	実習施設で作成されている学習プログラムに沿って行う。					
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	本学所定の評価表(A=優 B=良 C=可 D=不可)により、各実習施設側が下記の視点で評価する。 ①実習の態度 ②保育・援助の実践 ③実習記録						
参考文献等	鹿兒島女子短期大学児童教育学科「保育実習の手引き」						
備考							
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	171	授業科目	保育所実習Ⅱ指導 (Practice of Nursery School Ⅱ)			担当者	宇都 弘美 丸田 愛子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保育所実習の意義と目的を再確認し、既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育の観察、実践、記録及び自己評価等を踏まえ、保育の改善について学ぶ。さらに、実習の事後指導等を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育についての課題を明らかにする。						
	2. 到達目標 1. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う 2. 実習の総括と自己評価を行い、自身の保育についての課題を明らかにする						
	3. 事前事後学習 事前学習として当日の授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に授業内容の復習や実習準備活動をして、本授業を実習に向けた計画的な実習準備に結び付け個々の活動を行うことが望ましい。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	① 保育所実習Ⅰ事後指導及び保育所実習Ⅱに向けて						(宇都・丸田)
	② 保育所実習Ⅰでの各自の課題の確認						(宇都)
	③ 実習記録の記載方法の再確認及び保育場面ビデオを視聴し、保育記録を作成する						(宇都)
	④ 保育場面ビデオを視聴し、保育記録を作成する						(宇都)
	⑤ 各自の保育所実習Ⅱの目標の設定について						(宇都・丸田)
	⑥ 事前訪問について						(宇都・丸田)
	⑦ 事前訪問後の記録の整理及び指導案作成のための教材研究						(宇都)
	⑧ 腸内細菌検査及びぎょう虫卵検査について						(宇都)
	⑨ 検査結果配布と実習準備の確認						(宇都)
	⑩ 実習事後指導、レポート提出						(宇都)
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	実習準備の取り組み状況(50%)とレポート(実習の終了報告書)(50%)で総合的に評価する						
参考文献等	テキスト:鹿児島女子短期大学児童教育学科編『保育実習の手引き』						
備考							
	オフィスアワー	月・水・金曜日の昼休み及び放課後(宇都研究室)					

科目番号	172	授業科目	保育所実習Ⅱ (Teaching Practice for NurseryⅡ)			担当者	宇都 弘美 丸田 愛子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・前期	児教 (小保/幼保)	実習	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実践し、理解を深める。さらに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理、家庭・地域社会との連携について総合的に学び、自己の子ども観や保育観の確立を目指す。						
	2. 到達目標 1. 保育課程に基づく指導計画の一部を実践し、評価する 2. 入所している子どもの保護者支援や地域の子育て家庭への支援を学ぶ 3. 実習を通して、保育士としての自己の課題を明確にする						
授 業 計 画	3. 事前事後学習 保育所実習Ⅱ指導」の授業と並行して計画的に実習準備活動を進めることが本科科目の事前学習となる。また実習終了後は、レポートを作成し実習での経験を振り返り、保育者としての自己の課題を明確にすることが、事後学習となる。						
	4. 各回の授業内容						
	① 保育所の社会的役割と責任						
	② 保育所での生活や子どもの状態と保育士等の動きや実践						
	③ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・評価						
	④ 入所している保護者支援や地域の子育て家庭への支援						
	⑤ 多様な保育の展開と保育士等の業務と連携について						
	⑥ 地域社会との連携						
	⑦ 実習を通して、保育士としての自己の課題の明確化						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	本学の定めた評価表に従って、各実習先が評価する。その評価の観点、以下の3項目である。 ① 実習の態度 ② 保育・援助の実践 ③ 実習の記録 (100%)						
参考文献等	テキスト:鹿児島女子短期大学児童教育学科編『保育実習の手引き』						
備考	オフィスアワー 月・水・金曜日の昼休み及び放課後(宇都研究室)						

科目番号	173	授業科目	施設実習Ⅱ指導 (Practical Guidance on WelfareⅡ)			担当者	谷川 知士 松下 茉莉香	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	児教 (小保/幼保)	演習	1	選択	保育士証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ・施設実習Ⅰの反省等を踏まえ、より専門的な技術や能力を身に付ける。							
	2. 到達目標 (1) 実習した各福祉施設の現状を再整理し、より専門的な知識を深めていく。 (2) 個別支援計画に基づいた利用者やその家族への支援方法について理解する。							
	3. 事前事後学習 事前:実習Ⅰでのレポートを読み返す。 事後:実習後に学習成果を確認できる報告書を作成する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	児童養護施設について					(谷川・松下)	
	②	知的障がい児施設について					(谷川・松下)	
	③	障がい者の施設について					(谷川・松下)	
	④	児童厚生施設について					(谷川・松下)	
	⑤	乳児院について					(谷川・松下)	
	⑥	その他の施設について					(谷川・松下)	
	⑦							
	⑧							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
⑮								
成績評価	・レポートと受講態度(100%)により評価する。							
参考文献等	・参考文献や必要な冊子等については、随時提示する。							
備考								
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)						

科目番号	174	授業科目	施設実習Ⅱ (Practice for Welfare Work)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前期	児教 (小保/幼保)	実習	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ・施設の役割を理解し、職員具体的な支援方法を身に付ける。						
	2. 到達目標 (1) 実習した各福祉施設の現状を再整理し、より専門的な知識を深めていく。 (2) 個別支援計画に基づいた利用者やその家族への支援方法について理解する。						
	3. 事前事後学習 事前: 実習Ⅰでのレポートを読み返す。 事後: 実習後に学習成果を確認できる報告書を作成する。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画 画	①	実習施設で作成されている学習プログラムに沿って行う。					
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	本学所定の評価表(A=優 B=良 C=可 D=不可)により、各実習施設側が下記の視点で評価する。 ①実習の態度 ②保育・援助の実践 ③実習記録						
参考文献等	鹿児島女子短期大学児童教育学科「保育実習の手引き」						
備考							
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目 番号	175	授 業 科 目	<b>体 育 Ⅲ</b> (Physical Education Ⅲ)			担 当 者	黒原 貴仁
	開 講 学 期		学 科 ・ 専 攻	履 修 方 法	単 位 数		必 修 ・ 選 択 の 別
区 分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	1	選択		
授 業 の 目 標 及 び 内 容	1. 授業の目的 本講義は、小学校体育授業について基礎的理解を深める。具体的には、小学校低学年・中学年・高学年における「ゲーム領域」の教材を分析し、ゲーム構造の理解を基盤とした様々なゲーム教材を実践し、その内容の理解と習得を旨とする。さらに、自らゲーム教材を考え、実践することにより、教授方法の習得や発展的理解を深める。						
	2. 到達目標 1. ボール運動についての理解を深める 2. 児童に身につけさせたい技能を理解できる 3. 体育授業を客観的に観察し問題点を改善することができる						
	3. 事前事後学習 事前; 実技に耐えうる体力を高める 事後; 各種目の動きについてフィードバックを行う						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	①	ゲーム	ボールゲーム(ボール投げゲーム・ボール蹴りゲーム)				
	②	ゲーム	ゴール型ゲーム				
	③		ネット型ゲーム				
	④		ベースボール型ゲーム				
	⑤	ボール運動	ゴール型				
	⑥		ネット型				
	⑦		ベースボール型				
	⑧		総括				
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績 評価	参加態度(70%)及び課題の達成等(30%)を総合して評価する。						
参 考 文 献 等							
備 考							
	オフィスアワー	月曜日 5・6限 (ただし、研究室前に掲示してある授業時間以外)					



科目番号	176	授業科目	外国語活動に関する指導法 (Teaching Method for Communication Activities with Foreign Languages)			担当者	高島 まり子 吉村 圭	
			開講学期	学科・専攻	履修方法			単位数
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 小学校の外国語活動の目的・実情の理解と、児童が易しい英語に慣れ親しみ、コミュニケーションへの意欲を高め、異文化への関心を深めるよう指導するための知識・技法を学ぶ。							
	2. 到達目標 1.学習指導要領に沿った外国語活動の目的・実情の理解 2.外国語活動の指導に必要な知識・技能の修得。 3.グループでの模擬授業に取り組む。							
	3. 事前事後学習 予習・復習。振り返りシートの提出。 模擬授業については、事前の準備におけるグループ学習の徹底と事後の自己評価・相互評価の提出。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	小学校における外国語活動についての解説, 授業の実態や課題の提示					(高島・吉村)	
	②	授業内容の紹介DVD視聴, 内容についての考察, 外国語活動に活用できるゲーム・指遊び・体操・歌など					(高島・吉村)	
	③	同					(高島・吉村)	
	④	同					(高島・吉村)	
	⑤	同					(高島・吉村)	
	⑥	同					(高島・吉村)	
	⑦	同					(高島・吉村)	
	⑧	小学校における外国語活動の見学					(鹿児島市AET)	
	⑨	見学の振り返り					(高島・吉村)	
	⑩	模擬授業の準備					(高島・吉村)	
	⑪	模擬授業の準備					(高島・吉村)	
	⑫	模擬授業, 自己評価, 相互評価					(高島・吉村)	
	⑬	同					(高島・吉村)	
	⑭	同					(高島・吉村)	
	⑮	同, 模擬授業の総括					(高島・吉村)	
⑯	模擬授業・提出物の採点による成績評価							
成績評価	受講態度と毎回の授業振り返りシート提出(50%), 模擬授業(50%)の総合評価							
参考文献等	神保尚武 監修 『やさしく歌える英語のうた』NHK出版 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(文部科学省)東洋館出版社 『Hi, friends! 1・2』(文部科学省)東京書籍株式会社							
備考								
	オフィスアワー	水曜日の12:00～14:00						

科目番号	177	授業科目	カウンセリング入門 (Introduction to Counseling)			担当者	松元 理恵子
	開講学期		学科・専攻	履修方法	単位数		必修・選択の別
区分	2年・後期	児教	講義	1	選択	ピアヘルパー試験受験必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 悩みを抱えた心に触れ、耳を傾け、理解しようとするときには、自分の心をみつめることを含んだ包括的な視点を持つことが大切になります。地域や学校現場だけでなく日常生活の中でも実践していきけるカウンセリングの演習体験を通し、人間性の尊重を軸とした心理的援助を学びます。						
	2. 到達目標 1. カウンセリングの基礎的理論を理解する 2. カウンセリングにおける「みため」を理解する 3. 援助に必要な相談・面接技法を習得する						
	3. 事前事後学習 専門用語も出てきますので、次の授業でとりあげるテーマについて、テキストを読んである程度内容を把握してください。授業後は、書籍や学習方法も提示しますので、ノートとテキストを照合しながら、復習を行ってください。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① エンカウンターについて						
	② カウンセリングの理論(精神分析、自己理論)						
	③ カウンセリングの理論(行動療法、論理療法、その他の療法)						
	④ カウンセリング技法(受容、繰り返し、明確化)						
	⑤ カウンセリング技法(支持、質問)						
	⑥ カウンセリングの非言語的技法						
	⑦ 対話上の諸問題への対処法(ケースに基づいたロールプレイ)						
	⑧ 青年期の課題(グループワーク、ロールプレイ)						
	⑨ レポート提出						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
⑮							
成績評価	レポート提出(60%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(30%) 受講および演習態度(10%) ※出席点を含む						
参考文献等	テキスト : 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』 図書文化 2009年 参考文献 : 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』 図書文化 2009年 パワーポイントを使用する場合がある。						
備考							
	オフィスアワー	火曜日・木曜日12:05～12:55(研究室)					

科目番号	178	授業科目	生涯学習論 (Longlife Learning)			担当者	山元 有一
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択		
授業の 目標及び 内容	1. 授業の目的 生涯学習はまだ生まれて間もないものである。したがって、それはまだ試みの段階であると言える。しかし、その構想の理念には教育そのものへの重要な問いかけを含んでいる。本講義ではそうした根本的な考え方を理解することを目指して、学生自らが生涯に渡って学ぶことの意味を考えてもらいたい。						
	2. 到達目標 生涯学習の意義と内容						
	3. 事前事後学習 科目の性質上、事前事後がすべてであり、生涯に渡る「学び」が必要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 知るとは？学ぶとは？－学校教育における「学び」						
	② 知るとは？学ぶとは？－高等教育機関における「学び」						
	③ 知るとは？学ぶとは？－生涯学習における「学び」						
	④ 学び続けるとは？						
	⑤ 生涯学習のおこりとその特徴						
	⑥ 生涯学習支援の施設とその活動						
	⑦ 生涯学習の具体的内容(I)－教養としての生涯学習①						
	⑧ 生涯学習の具体的内容(II)－同上②						
	⑨ 生涯学習の具体的内容(III)－同上③						
	⑩ 生涯学習の具体的内容(IV)－知識の更新としての生涯学習①						
	⑪ 生涯学習の具体的内容(V)－同上②						
	⑫ 生涯学習の具体的内容(VI)－倫理性を伴った自己教育としての生涯学習						
	⑬ 生涯学習の現状とその課題						
	⑭ 生涯学習の総括と展望						
⑮ 総括							
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	講義中、随時紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。					

科目番号	179	授業科目	生活科教育法 (Teaching Method of Life Environment Studies)			担当者	松崎 康弘
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択	小教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学習指導要領の読み込みや実践検討をとおして、生活科の目標・内容・方法・評価について学び、実践に必要な能力を培う。						
	2. 到達目標 ①生活科の目標・内容・方法・評価等について理解する。 ②生活科をとおした保幼小連携の在り方を考察する。						
	3. 事前事後学習 事前学習として、テキストとなる学習指導要領解説をあらかじめ読むとともに、自らの生活科体験を振り返る。事後学習として、各目標に照らし合わせてどのような実践が行われているか調べ学習を行う。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① イントロダクション						
	② 「学校と生活」の目的・内容と実践事例						
	③ 「家庭と生活」の目的・内容と実践事例						
	④ 「地域と生活」の目的・内容と実践事例						
	⑤ 「公共物や公共施設の利用」の目的・内容と実践事例						
	⑥ 「季節の変化と生活」の目的・内容と実践事例						
	⑦ 「自然や物を使った遊びの工夫」の目的・内容と実践事例						
	⑧ 「動植物の飼育・栽培」の目的・内容と実践事例						
	⑨ 「生活や出来事の交流」の目的・内容と実践事例						
	⑩ 「自分の成長」の目的・内容と実践事例						
	⑪ 生活科の評価論						
	⑫ 保幼小連携と生活科 (1)						
	⑬ 保幼小連携と生活科 (2)						
	⑭ 生活科と総合的な学習の時間						
⑮ 総括							
成績評価	原則として筆記試験(90分で実施)で評価する。また、模擬授業への取組など受講態度を加味する。 (筆記=80%、態度=20%)						
参考文献等	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版） 参考文献は講義中に適宜指示する。						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日 18:00～19:00					

科目番号	180	授業科目	保育指導法の研究 (How nursing research)			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教	講義	2	選択	幼教免必修・保育士証選択	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保育における指導・援助について理解する。その中で、幼児の遊びの指導と援助について、実践的な指導法を「保育者の専門性」という観点から、深く理解を進める。						
	2. 到達目標 ① 環境を通して行う保育について、より深い理解をする ② 保育方法の種類とその具体的実践を知る						
	3. 事前事後学習 事前学習では、教育・保育実習で学んだことをまとめ、振り返りをする。 事後学習では「小さいなかま」「現代と保育」「保育白書」などの書籍から、現在の保育問題を理解し、保育観・教育観を深めていくように指導する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 幼児理解と指導法						
	② 遊びと保育者の関わり(見守り)						
	③ 遊びと保育者の関わり(直接・間接的指導・援助)						
	④ 遊び環境と保育の指導1						
	⑤ 遊び環境と保育の指導2						
	⑥ 葛藤(いざこざ)の援助						
	⑦ 保育形態の考え方と指導(設定保育と自由保育)						
	⑧ 保育形態の考え方と指導(年齢別保育と異年齢保育)						
	⑨ 生活(日課)と保育の指導						
	⑩ 保育と行事						
	⑪ 障害のある子ども・外国籍の子どもの受け入れと保育のあり方(障害児の支援計画についても触れる)						
	⑫ 保育計画の意義と必要性						
	⑬ 保育の評価と方法(保育士の自己評価及び教育要領・保育要録にも触れる)						
	⑭ 保育制度と子育て支援のあり方						
	⑮ 保育における情報機器の活用と教材の作成						
⑯ 総括							
成績評価	①講義で出された課題(レポート等)(25%) ②受講態度(15%) ③筆記試験(60%)						
参考文献等	テキスト;「保育方法の実践的理解」久富・梅田(著) 萌文書林 適宜、資料を配布する 使用機器;教材提示装置・コンピューター						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 16:30~17:30					

科目番号	181	授業科目	保育内容(人間関係) (Childcare content(Human relationship))			担当者	坪井 敏純
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 保育所保育指針・幼稚園教育要領に沿って領域「人間関係」の指導・援助を理解する。						
	2. 到達目標 ① 「人間関係」の「ねらい」と「内容」を理解する ② 「人間関係」の「ねらい」の達成のための指導・援助方法を知る ③ 「人間関係」の発達心理について理解する						
授業計画	3. 事前事後学習 事前学習では、1年前期で学んだ「教育心理学」の中で対人関係の発達と問題にかかわる内容を復習するように指導する。 事後学習では、「小さいなかま」「現代と保育」「九州合研ブックレット」を読み、実践的な理解を深めるよう指導する。						
	4. 各回の授業内容						
授業計画	① 領域「人間関係」の目標						
	② 領域「人間関係」のねらいと内容1						
	③ 領域「人間関係」のねらいと内容2						
	④ 領域「人間関係」のねらいと内容3						
	⑤ 領域「人間関係」のねらいと内容4						
	⑥ 領域「人間関係」のねらいと内容5						
	⑦ 領域「人間関係」の配慮事項と指導計画						
	⑧ 個と集団の指導						
	⑨ 子どもの社会性の発達1(仲間とのかかわり)						
	⑩ 子どもの社会性の発達2(遊びと対人関係の深化)						
	⑪ 子どもの社会性の発達3(向社会性の発達)						
	⑫ 子どもの社会性の発達4(道徳性の発達)						
	⑬ 外国籍の子どもと保育						
	⑭ 保育の中の人間関係の援助						
	⑮ 総括						
成績評価	① 講義で出された課題(実技・レポート等)の達成状況;20% ② 受講態度;15% ③ 筆記試験;65%(60分で実施)						
参考文献等	テキスト;「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 解説のための資料を配布するので、ファイリングすること 使用機器;教材提示装置、コンピューター(パワーポイントなどの使用)						
備考	単位互換開放対象科目						
考	オフィスアワー	月・水 16:30~17:30					

科目番号	182	授業科目	保育内容(表現Ⅲ) ( Childcare content (RepresentationⅢ) )			担当者	中村 礼香
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	児教 (小幼/小保/幼保)	演習	1	選択	幼教免・保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼児の音楽表現指導法を修得する						
	2. 到達目標 1. リトミックについて学ぶ 2. 幼児音楽教育の理論を理解する 3. 様々な音楽表現の方法を学ぶ						
	3. 事前事後学習 ピアノのレッスンには練習した上で臨み、レッスン終了後は復習する。 指導案の作成や、発表のための事前練習などを行う。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 領域「表現」概要講義 及びピアノ個人指導						
	② リトミックⅠ 及びピアノ個人指導						
	③ リトミックⅡ 及びピアノ個人指導						
	④ リトミックⅢ 及びピアノ個人指導						
	⑤ こどもの歌Ⅰ 及びピアノ個人指導						
	⑥ こどもの歌Ⅱ 及びピアノ個人指導						
	⑦ こどもの歌Ⅲ 及びピアノ個人指導						
	⑧ 器楽合奏Ⅰ 及びピアノ個人指導						
	⑨ 器楽合奏Ⅱ 及びピアノ個人指導						
	⑩ 幼児教育音楽(ダルクローズ、オルフ、コダーイ等)について 及びピアノ個人指導						
	⑪ ボディーパーカッションⅠ 及びピアノ個人指導						
	⑫ ボディーパーカッションⅡ 及びピアノ個人指導						
	⑬ 即興演奏Ⅰ 及びピアノ個人指導						
	⑭ 即興演奏Ⅱ 及びピアノ個人指導						
	⑮ 弾き歌い試験及びピアノ個人指導						
⑯ クラシック曲実技試験							
成績評価	①平常点(25%) 弾き歌い試験(25%) クラシック曲実技試験(50%) ②ピアノの実技試験はクラシック曲の中から任意の1曲と、幼児曲または小学校教材の中から任意の1曲(弾き歌い)で暗譜で演奏する。						
参考文献等	テキスト 新編幼児の音楽教育(音楽教育研究協会編) うたとあそび(鹿児島市私立幼稚園協会編) ピアノ教則本(ソナチネアルバムなど)						
備考							
	オフィスアワー	(中村研究室)月～金 9:00～18:00(ただし授業時間を除く)					

科目番号	183	授業科目	保育・教職実践演習 (Senior Seminar for Prospective Teachers)			担当者	高島まり子・坪井敏純・池田哲之・大村一光・平嶋慶子・山元有一・新村元植・松崎康弘・小松恵理子・井上周一郎・丸田愛子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	児教 (小保/幼保)	演習	2	選択必修	幼教免選択必修 保育士証必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 実習等の反省を踏まえ、専門職としてふさわしい子ども理解・保育技術の深化を図り、教師観・保育者観を確立する。							
	2. 到達目標 ① 討論等を通して子ども理解や保育理解を深化する。 ② 模擬保育等を通して保育職としての実践力を高める。 ③ 自分なりの保育者観を確立する。							
	3. 事前事後学習 事前事後学習として、実習の振り返りや模擬保育等の準備を行う。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	幼稚園教育実習・保育所実習・施設実習のふりかえり					(池田・新村・山元・松崎・丸田)	
	②	教員・保育者の職務内容についての講義					(坪井・山元・平嶋・丸田・松崎)	
	③	教員・保育者の職務内容についてのグループ討論					(坪井・山元・平嶋・丸田・松崎)	
	④	子ども理解についての講義					(坪井・山元・平嶋・丸田)	
	⑤	子ども理解についてのグループ討論					(坪井・山元・平嶋・丸田)	
	⑥	子どもへの対応についてロールプレイング					(坪井・山元・平嶋・丸田)	
	⑦	保育内容等の指導力についての講義					(坪井・大村・小松・井上)	
	⑧	保育内容等の指導力についてのグループ討論					(坪井・大村・小松・井上)	
	⑨	模擬保育案の作成					(新村・平嶋)	
	⑩	模擬保育①(幼児を対象とした劇など)					(小松・新村・平嶋・井上)	
	⑪	模擬保育②(幼児を対象とした劇など)					(小松・新村・平嶋・井上)	
	⑫	模擬保育についてのグループ討論(現職教諭による指導を含む)					(小松・新村・平嶋・井上)	
	⑬	教職(幼児教育)の意義についての講義					(坪井・山元)	
	⑭	教職(幼児教育)の意義についてのグループ討論					(坪井・山元)	
⑮	総括					(担当全教員)		
成績評価	レポートを課す。また、受講態度等を加味する。(レポート = 90%、態度 = 10%)							
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は講義中に適宜指示する。							
備考								
	オフィスアワー	教員によって異なる。						



科目番号	184	授業科目	教職実践演習(幼・小) (Senior seminar for Prospective Teachers)			担当者	高島まり子・坪井敏純・池田哲之・大村一光・平嶋慶子・山元有一・新村元植・松崎康弘・小松恵理子・井上周一郎・丸田愛子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	児教 (小幼/小保)	演習	2	選択必修	幼教免選択必修 小教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 実習等の反省を踏まえ、専門職としてふさわしい子ども理解・教育技術の深化を図り、教師観を確立する。							
	2. 到達目標 ①討論等を通して子ども理解や保育理解を深化する。 ②模擬保育やフィールドワーク等を通して実践力を高める。 ③自分なりの教師観を確立する。							
	3. 事前事後学習 事前事後学習として、実習の振り返りや模擬保育等の準備を行う。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	小学校教育実習・幼稚園教育実習のふりかえり					(松崎・山元・池田・新村)	
	②	教員の職務内容についての講義・グループ討論					(池田・山元・松崎)	
	③	教科内容等の指導力についての講義					(小松・大村・松崎・井上)	
	④	教科内容等の指導力についてのグループ討論					(小松・大村・松崎・井上)	
	⑤	小学校長(幼稚園長)による指導—授業・保育参観に向けて—					(池田・松崎)	
	⑥	小学校(または幼稚園)参観 ①					(池田・松崎)	
	⑦	小学校(または幼稚園)参観 ②					(池田・松崎)	
	⑧	参観の成果についてのグループ討論(授業の再現等を含む)					(池田・松崎)	
	⑨	児童理解・学級経営についての講義					(坪井・山元・丸田)	
	⑩	児童理解・学級経営についてのグループ討論					(坪井・山元・丸田)	
	⑪	学級経営案の作成					(坪井・山元・丸田)	
	⑫	学級経営のロールプレイ					(坪井・山元・丸田)	
	⑬	教職の意義に関する講義					(池田・山元・松崎)	
	⑭	教職の意義に関するグループ討論					(池田・山元・松崎)	
⑮	総括					(担当全教員)		
成績評価	レポートを課す。また、受講態度等を加味する。(レポート = 90%、態度 = 10%)							
参考文献等	テキストは特に指定しない。 参考文献は講義中に適宜指示する。							
備考	オプションとして屋久島での合宿を実施する。 (費用は別途徴収。都合により参加できない学生への評価に関する不利益は生じない。)							
	オフィスアワー	教員によって異なる。						

科目番号	185	授業科目	保育研究法 ( study of nursing method )			担当者	坪井敏純
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	保育士証選択	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 幼稚園教育要領及び保育所保育指針について概説し、保育の理念と指導・援助の基本的な考え方や方法を知る。						
	2. 到達目標 ① 保育内容について概要を知る ② 発達過程に応じた援助について理解する						
	3. 事前事後学習 事前指導では、保育雑誌などに目を通し、実際の保育内容を知ることができるよう指導する。またボランティアなどで幼児との触れ合う機会を紹介する。 事後指導では、保育にかかわる新聞やテレビ報道などに関心を向けると同時に、保育技術を高めるように具体的な教材作りを指導する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 研究の意義とエビデンス						
	② 研究の手順(問題提起から展望まで)						
	③ 観察法による実践研究と統計的手法1						
	④ 観察法による実践研究と統計的手法2						
	⑤ アンケート調査法による実践研究1						
	⑥ アンケート調査法による実践研究2						
	⑦ 事例研究						
	⑧ 園内研修と保育研究						
	⑨ 実践論文の書き方1						
	⑩ 実践論文の書き方2						
	⑪ 実践論文の書き方3						
	⑫ 発表の方法1						
	⑬ 発表の方法2						
	⑭ 文献検索の方法						
⑮ 文献検索による実際の資料の収集							
成績評価	受講態度(30%) 授業で出された課題の達成状況(70%)						
参考文献等	テキストは使わない 講義資料は適宜配布する 発表論文等(適宜配布する)						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月・水 16:30～17:00					

科目番号	186	授業科目	相談援助 (Social Work)			担当者	谷川 知士
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・後期	児教	演習	1	必修	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ・相談援助の理論と体系を理解し、援助の基礎を身に付ける。						
	2. 到達目標 (1)ソーシャルワークの概念や理論を理解する。 (2)ソーシャルワークの歴史や制度を理解する。 (3)事例を通して具体的な援助技術を理解する。						
	3. 事前事後学習 事前:1年時の社会福祉の教科書を読み直しておく。 事後:教科書や配布した事例のポイントを整理する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 講義ガイダンス、保育における社会福祉援助技術とは						
	② 社会福祉における援助活動の意義						
	③ ソーシャルワークの理論と動向						
	④ ソーシャルワークの意義と体系						
	⑤ 保育におけるソーシャルワーク						
	⑥ ケースワークの意義・定義						
	⑦ ケースワークの原則						
	⑧ ケースワークの方法						
	⑨ 保育におけるケースワーク						
	⑩ グループワークの意義・原則						
	⑪ グループワークの展開						
	⑫ 保育におけるグループワーク						
	⑬ コミュニティワークの意義・原則						
	⑭ コミュニティワークの展開と実践						
⑮ 総括							
成績評価	以下の2点により、総合的に評価する。 ①試験またはレポート等:70点+下記の点を加味する。 ②受講態度・発表:30点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	187	授業科目	家族支援論 (Family Support for Childcare)			担当者	平嶋 慶子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小保・幼保)	講義	2	選択	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 『3歳までは母親が家庭で子育てするべし』という考えの中には、どのような問題が存在しているだろうか。現代の家族と子育ての現状を理解し、家庭と幼稚園、保育所、認定こども園そのほかの保育施設が相補しながら子どもを含む家族の発達を保障するという課題を考える。また、適切な子育て支援を行うために制度を理解し、幼稚園・保育所ほか・地域における支援の在り方を学ぶ。						
	2. 到達目標 ①子育てや児童を取り巻く問題を新聞記事等から知る。 ②保育・教育制度の歴史的変化と最新の子育て支援制度を理解する。 ③身近な子育て支援事業について理解する。						
	3. 事前事後学習 講義初回に各月ごとのレポート課題のテーマを示すので、講義中に配布された資料やテキストを用いて、事前に下調べや作業をしておくことにより学習が進む。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 家族福祉と家族援助①						
	② 保育施設の役割と機能						
	③ 子育て支援とは						
	④ 子育て・保育をめぐる諸問題						
	⑤ 家族を取り巻く社会:その歴史的変化						
	⑥ 家族の変化・今日の家族関係						
	⑦ 食生活から見る現代の家族						
	⑧ 家族福祉と家族援助②援助を必要とする家族						
	⑨ 家庭をどのように支援するのか						
	⑩ 子育て支援の方法と内容						
	⑪ 地域における子育て支援:ソーシャル・ネットワークの構築						
	⑫ 関係法令と施策①新エンゼルプラン以降						
	⑬ 関係法令と施策②保育所保育指針と幼稚園教育要領の中の子育て支援						
	⑭ 関係機関と施設						
	⑮ 総括:実習のまとめと職業的自立にむけて						
⑯ 試験							
成績評価	筆記試験は90分で実施 毎月のレポート課題の提出(4回)と定期試験 80% 受講態度20%						
参考文献等	児童の福祉を支える 家庭支援論 吉田真理 萌文書林						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(火曜日を除く)					

科目番号	188	授業科目	保育相談支援 (Counseling and Support in Child Care)			担当者	谷川 知士
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教	演習	1	必修	保育士証必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ・保育相談支援の理論と体系を理解し、援助の基礎を身に付ける。						
	2. 到達目標 (1) 保育相談支援の理論を理解する。 (2) 保護者への相談支援を理解する。 (3) 特別な配慮を必要とする家庭への支援を理解する。						
	3. 事前事後学習 事前:1年時の児童家庭福祉の教科書を読み直しておく。 事後:教科書や配布した事例のポイントを整理する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 講義ガイダンス、保育相談支援とは						
	② 保護者に対する保育相談支援の意義						
	③ 保育士の特性と専門性を生かした支援とは						
	④ 子どもの最善の利益と福祉との関係						
	⑤ 子どもの成長と喜びの共有						
	⑥ 保護者の養育力向上に向けた支援						
	⑦ 信頼関係を構築するための支援原則						
	⑧ 社会資源の活用と関係機関との連携						
	⑨ 保育に関する保護者への具体的支援Ⅰ:内容						
	⑩ 保育に関する保護者への具体的支援Ⅱ:方法や技術						
	⑪ 保育に関する保護者への具体的支援Ⅲ:インテーク～アセスメント						
	⑫ 保育所における具体的な保育相談支援						
	⑬ 保育所における特別な対応を要する家庭への支援						
	⑭ 児童養護施設や障がい児施設及び母子生活支援施設等の要保護児童の家庭に対する相談支援						
⑮ 総括							
成績評価	以下の2点により、総合的に評価する。 ①試験またはレポート等:70点+下記の点を加味する。 ②受講態度・発表:30点						
参考文献等	テキスト、その他の参考文献等は開講時に提示する。						
備考							
	オフィスアワー	第1・3水曜日 9・10限 (谷川研究室)					

科目番号	189	授業科目	学習指導と学校図書館 (Management in the School and School Library)			担当者	岩下 雅子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 司書教諭として必要な知識と技能を身につけるため、学習指導における学校図書館活用に必要な知識と技能を身につける。多くの学校が取り組んでいるさまざまな授業支援のための図書館活用例を参考に学習指導(授業)と学校図書館を上手くコーディネートするために、司書教諭が果たす役割を理解する。						
	2. 到達目標 ①学習指導における学校図書館活用の意義を知る。 ②学習指導に必要な知識と技術を身につける。						
	3. 事前事後学習 事前に配布されたプリントは前もって読んでおく。質問事項は事前に配布したプリントに記入して提出する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 教育課程と学校図書館						
	② 学校図書館利用指導						
	③ 小学校における学校図書館と学習指導①						
	④ 小学校における学校図書館と学習指導②						
	⑤ 中学校における学校図書館と学習指導①						
	⑥ 中学校における学校図書館と学習指導②						
	⑦ 高校における学校図書館と学習指導①						
	⑧ 高校における学校図書館と学習指導②						
	⑨ パスファインダーを作成しよう①基礎						
	⑩ パスファインダーを作成しよう②応用						
	⑪ 総合的な学習の時間における学校図書館利用(小学校)						
	⑫ 総合的な学習の時間における学校図書館利用(中学校)						
	⑬ 総合的な学習の時間における学校図書館利用(高校)						
	⑭ 学校図書館における情報リテラシー教育						
	⑮ まとめ(学習・情報・教育活動を支援する学校図書館)						
⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績 70% レポート提出20% 発表10%						
参考文献等	参考文献:「学習指導と学校図書館」堀川照代 NHK出版						
備考	※ 単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	火曜講義日					

科目番号	190	授業科目	読書と豊かな人間性 (Human Life with Books )			担当者	伊佐山 潤子
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小幼/小保)	講義	2	選択	司書教諭資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本をめぐるさまざまな話題を提供します。それに合わせて、読書が人生にどのような喜びや楽しみ、豊かさを与えるものであるかを考えてもらいます。実際に自分で本を選んで紹介文を書く、ブックトークをするなどの実践を通して考えを深めていきます。						
	2. 到達目標 ・読書の必要性和楽しみを実感し、他者にもすすめる ・図書館のあり方と活用方法を知って利用する ・ブックトークをする						
	3. 事前事後学習 ・自分の趣味・興味にとらわれず、可能な限り幅広く多く、「読書」すること						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	「本を読む」ということ					
	②	本ができるまで(1)					
	③	本ができるまで(2)					
	④	図書館(1)					
	⑤	図書館(2)					
	⑥	絵本・こどもの本					
	⑦	読み聞かせ					
	⑧	ストーリーテリング					
	⑨	ブックトーク(1)					
	⑩	ブックトーク(2)					
	⑪	ブックトーク(3)					
	⑫	学生・大人の本					
	⑬	読めているか					
	⑭	読書の意味					
⑮	本のある生活						
成績評価	受講態度と課題への取り組み(70%) 学期末レポート(30%)で評価します。						
参考文献等	テキスト：プリントを配布します。 参考文献：松田哲夫『編集狂時代』(新潮文庫 2004) 田口久美子『書店風雲録』(ちくま文庫 2007) 向井元子『すてきな絵本 たのしい童話』(中公文庫 2003) ほかは講義中に随時紹介します						
備考	オフィスアワー 水曜日 16:25～17:00						

科目番号	191	授業科目	情報メディアの活用 (Practical use of information media)			担当者	瀬戸 博幸
			開講学期	学科・専攻	履修方法		
区分	2年・後期	児教 (小保)	講義	2	選択	司書教諭資格	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、携帯電話で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在において図書館で情報メディアをどのように活用すべきか考えてもらう。						
	2. 到達目標 1. 情報とは何か、その概念を述べることができるようになる。 2. 情報メディアの歴史を語れるようになる。 3. 情報メディアの活用について考えることができるようになる。						
	3. 事前事後学習 1. 身のまわりの情報メディアに、常に興味を持つようにしておく。 2. 各時間に修得した内容を整理し、記録しておく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 情報メディアってなんだろう						
	② ラジオ放送がどのように誕生したか						
	③ インターネットを活用しラジオについて歴史年表をつくろう						
	④ テレビの誕生						
	⑤ 地上デジタル放送とは						
	⑥ 映像の記録メディア						
	⑦ 南極からのハイビジョン生中継						
	⑧ 月からの映像						
	⑨ メディアについて現在の状況を眺めてみよう						
	⑩ OPAC						
	⑪ 国会国立図書館をみてみよう						
	⑫ 国立情報学研究所						
	⑬ これからの図書館について						
	⑭ 最終レポート その1						
⑮ 最終レポート その2							
成績評価	日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)による						
参考文献等	参考文献「情報メディアの意義と活用」(樹村房) 大串夏身編著						
備考							
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(水曜日を除く)メールにて連絡すること。					



**記入例**

1) 履修登録 (登録をした科目をチェックする)

**「修得単位記入表」**

平成26年度入学 児童教育学科○○コース 組 番 氏名 学生証の7桁の番号を記入 (学号番号 1411)		授業科目 開講学期 単位数		一般教養科目 W E L O V E 鹿児島! キャリアガイダンス 体育講義 体育実技 日本国憲法 日本語表現の基礎 倫理学 文学 心理学 社会学 国際化と経済 歴史学 インタナショナル 海外事情 数学基礎 理科基礎 分子からみた生物 人間と環境												外国語 (I・II) 英語演習 I 英語演習 II ドイツ語演習 I ドイツ語演習 II 中国語演習 I 中国語演習 II 韓国語演習 I 韓国語演習 II			
履修登録 (登録をした科目をチェックする)				履修登録をした箇所に○印をつける (○印は必ず必要最低必修単位数を超過する)												同科目で I・II を連続して受講			
自分の修得した単位数を記入⇒				① 必修科目 ② 選択必修科目 ③ 選択必修科目												④ 外国語			
卒業に必要な最低必修単位数 62				8												4			
○○免許申請に必要な最低必修単位数 △△免許申請に必要な最低必修単位数 ○○資格取得に必要な必修科目 △△資格取得に必要な必修科目																			

《卒業に必要な最低必修単位数》

① 必修科目

例) WE LOVE 鹿児島! (2単位) … 必ず履修登録し単位を修得しなければならない科目  
 ② 卒業に必要な62単位以上の単位を修得しても必修科目の単位が取得できていない場合は卒業はできない

② 選択必修科目

例) 「一般教養科目」 … 上記選択必修科目の中から選択し最低「8単位」修得する

「外国語 I・II」 … 4語学の中から1語学を選択し I ⇒ II を連続して履修する  
 ③ 「I・II」両方の単位が修得できていない場合は卒業はできない

《履修登録の際の注意事項》

- 履修登録をしていない科目は出席をしても成績が出ません。「卒業必修科目」の登録もれが無いよう十分に確認をしてください。
- 卒業時に単位数が不足しないよう、「選択科目」は余裕をもって履修登録をしてください。

2) 修得した単位を記入する (個人成績表から転記する)

**「修得単位記入表」**

平成26年度入学 児童教育学科○○コース 組 番 氏名 学生証の7桁の番号を記入 (学号番号 1411)		授業科目 開講学期 単位数		一般教養科目 W E L O V E 鹿児島! キャリアガイダンス 体育講義 体育実技 日本国憲法 日本語表現の基礎 倫理学 文学 心理学 社会学 国際化と経済 歴史学 インタナショナル 海外事情 数学基礎 理科基礎 分子からみた生物 人間と環境												外国語 (I・II) 英語演習 I 英語演習 II ドイツ語演習 I ドイツ語演習 II 中国語演習 I 中国語演習 II 韓国語演習 I 韓国語演習 II			
修得した単位を記入する				① 選択必修 ② 外国語															
自分の修得した単位数を記入⇒				8												4			
卒業に必要な最低必修単位数 62				2												2			
○○免許申請に必要な最低必修単位数 △△免許申請に必要な最低必修単位数 ○○資格取得に必要な必修科目 △△資格取得に必要な必修科目																			

《卒業に必要な単位を修得できなかった場合》

必修科目 … 後期もしくは次年度に再履修となります。時間割を見ながら履修時期を調整します。《「修得単位記入表」を持って教務課へ》

選択必修科目

- ① 「一般教養科目」 … a) 同科目を後期に再履修する  
 ※ 後期開講科目の単位が修得できなかった場合は次年度前期に再履修  
 b) 別の科目を履修し単位を補う
- ② 「外国語 I」 … 「○○演習 I」の単位を修得できなかった場合は次年度前期に「○○演習 I」を再履修  
 a) 後期に「○○演習 II」を履修し、次年度前期に「○○演習 I」を再履修  
 b) 「○○演習 I」の単位を修得しなければ「○○演習 II」の受講ができない科目は次年度「○○演習 I・II」を前・後期で再履修  
 「○○演習 II」の単位を修得できなかった場合は、次年度後期に再履修

# 「修得単位記入表」

授業科目	一般教養科目		外国語 (I・II)		専門科目(教科に関する科目)								専門科目(教職に関する科目)					
	開講時期	単位数	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
WE LOVE 鹿兒島！	2	1																
キャリアガイダンス	2	1																
体育講義	2	1																
体育実技	2	2																
日本語表現の基礎	1	1																
倫理学	1	1																
文学	1	1																
心理学	1	1																
社会学	1	1																
国際化と経済	1	1																
歴史学	1	1																
インターステップ	1	1																
海外事情	1	1																
数学基礎	1	1																
理科基礎	1	1																
分子からみた生物	1	1																
人間と環境	1	1																
英語演習Ⅰ	1	1																
英語演習Ⅱ	1	1																
ドイツ語演習Ⅰ	1	1																
ドイツ語演習Ⅱ	1	1																
中国語演習Ⅰ	1	1																
中国語演習Ⅱ	1	1																
韓国語演習Ⅰ	1	1																
韓国語演習Ⅱ	1	1																
音楽Ⅰ	1	1																
器楽Ⅰ	1	1																
図画工作	2	1																
体育Ⅰ	2	1																
国語	2	2																
算数	2	2																
生活	2	2																
社会	1	1																
理科	1	1																
家庭	1	1																
音楽Ⅱ	1	1																
音楽Ⅲ	2	2																
器楽Ⅱ	1	1																
体育Ⅱ	1	1																
体育Ⅲ	2	2																
児童の健康と保健(小幼のみ)	2	2																
外国語活動に関する指導法	2	2																
教職概論	2	2																
教育原理	1	1																
教育心理学	1	1																
発達心理学Ⅰ	1	1																
保育内容総論	2	2																
社会福祉	1	1																
保健師概論	2	2																

自分の取得した単位数を記入→

**卒業に必要な最低必修単位数** 62

小学校教員免許申請に必要な最低必修単位数 80

幼稚園教員免許申請に必要な最低必修単位数 67

司書教諭資格取得に必要な最低必修単位数 JA+10

ピアヘルパー必修科目

授業科目	専門科目(教職に関する科目)		資格取得関連科目			
	開講時期	単位数	前	後	前	後
保育者論	1	1				
教育方法の研究	2	1				
生徒指導・進路指導	2	2				
教育相談	2	2				
教育制度論	1	1				
情報機器演習	2	2				
保育臨床	2	2				
障害児の教育・保育	1	1				
発達心理学Ⅱ	1	1				
カウンセリング入門	1	1				
子どもと人権	1	1				
家族関係論	2	2				
教師と法	2	2				
生涯学習論	2	2				
学校経営と学校図書館	1	1				
国語科教育法	1	1				
社会科教育法	1	1				
算数科教育法	1	1				
理科教育法	2	2				
生活科教育法	2	2				
音楽科教育法	2	2				
図画工作科教育法	2	2				
家庭科教育法	2	2				
体育科教育法	1	1				
道徳教育の研究	2	2				
特別活動の研究	2	2				
教育課程・保育課程	2	2				
保育指導法の研究	2	2				
保育内容(健康)	1	1				
保育内容(環境)	2	2				
保育内容(人間関係)	1	1				
保育内容(言葉)	1	1				
保育内容(表現Ⅰ)	2	2				
保育内容(表現Ⅱ)	2	2				
保育内容(表現Ⅲ)	2	2				
小学校教育実習指導	2	2				
小学校教育実習	2	2				
幼稚園教育実習Ⅰ指導	2	2				
幼稚園教育実習Ⅰ	1	1				
幼稚園教育実習Ⅱ指導	2	2				
幼稚園教育実習Ⅱ	2	2				
教職実践演習(幼・小)	2	2				
保育研究法	2	2				
学校図書館メディアの構成	2	2				
学校図書館メディアの活用	2	2				
読書と豊かな人間性	2	2				
情報メディアの活用	2	2				

自分の取得した単位数を記入→

**卒業に必要な最低必修単位数** 29 (選択①+選択②)

29 (選択①+選択②)

※ 選択②

小学校教員免許申請に必要な最低必修単位数 1222222

幼稚園教員免許申請に必要な最低必修単位数 222222

司書教諭資格取得に必要な最低必修単位数 2

ピアヘルパー必修科目 2

# 修得単位記入表

# 「修得単位記入表」

平成26年度入学 児童教育学科 小・保コース 組 番 氏名 (学番号1411)	一般養育科目			外国語(Ⅰ・Ⅱ)			専門科目(教科に関する科目)			専門科目(教職に関する科目)					
	科目名	単位数	履修状況	科目名	単位数	履修状況	科目名	単位数	履修状況	科目名	単位数	履修状況			
WE LOVE 児童島!	2	後	2	ドイツ語演習Ⅰ	2	後	体育Ⅰ	2	前	教育心理学Ⅰ	2	後			
キャリアガイダンス	2	前	2	ドイツ語演習Ⅱ	2	後	図画工作	2	前	教育心理学Ⅱ	2	後			
体育講義	2	前	2	英語演習Ⅰ	2	後	音楽Ⅰ	1	前	教育原理	2	後			
体育実技	2	後	2	英語演習Ⅱ	2	後	音楽Ⅱ	1	前	教育原理	2	後			
日本国憲法	1	後	1	英語演習Ⅲ	2	後	音楽Ⅲ	1	後	教育相談	2	後			
日本語表現の基礎	1	後	1	中国語演習Ⅰ	2	後	音楽Ⅳ	2	前	生徒指導・進路指導	1	後			
倫理学	1	前	1	中国語演習Ⅱ	2	後	家庭	1	後	教育方法の研究	1	後			
文学	1	前	1	中国語演習Ⅲ	2	後	理科	1	後	保育者論	1	後			
心理学	1	前	1	中国語演習Ⅳ	2	後	社会	1	後	社会福祉	1	後			
社会学	1	前	1	韓国語演習Ⅰ	1	前	生活	2	前	保育内容総論	2	後			
国際化と経済	1	前	1	韓国語演習Ⅱ	1	前	算数	2	前	発達心理学Ⅰ	2	後			
歴史学	1	前	1	韓国語演習Ⅲ	1	前	国語	2	前	発達心理学Ⅱ	2	後			
インターネット	1	前	1	韓国語演習Ⅳ	1	前	生活	2	前	保育臨床	2	後			
海外事情	1	前	1	韓国語演習Ⅴ	1	前	図画	2	前	情報機器演習	2	後			
数学基礎	1	前	1	韓国語演習Ⅵ	1	前	音楽Ⅰ	1	前	教育制度論	2	後			
理科基礎	1	前	1	韓国語演習Ⅶ	1	前	音楽Ⅱ	1	前	教育相談	2	後			
人間と環境	1	前	1	韓国語演習Ⅷ	1	前	音楽Ⅲ	1	前	生徒指導・進路指導	1	後			
分子からみた生物	1	前	1	韓国語演習Ⅸ	1	前	音楽Ⅳ	2	前	教育方法の研究	1	後			
<b>自分の取得した単位数を記入→</b>				4				2				2			
<b>卒業に必要な単位数を記入→</b>				4				4				2			
小学校教員免許申請に必要な最低必修単位				80				80				80			
保育士証取得に必要な最低必修単位				83				83				83			
児童教育実践取得に必要な最低必修単位				0・10				0・10				0・10			
ピア・ヘルパー必修科目				2				2				2			

★より2単位以上修得する事

平成26年度入学 児童教育学科 小・保コース 組 番 氏名 (学番号1411)	一般養育科目			外国語(Ⅰ・Ⅱ)			専門科目(教科に関する科目)			専門科目(教職に関する科目)					
	科目名	単位数	履修状況	科目名	単位数	履修状況	科目名	単位数	履修状況	科目名	単位数	履修状況			
WE LOVE 児童島!	2	後	2	ドイツ語演習Ⅰ	2	後	体育Ⅰ	2	前	教育心理学Ⅰ	2	後			
キャリアガイダンス	2	前	2	ドイツ語演習Ⅱ	2	後	図画工作	2	前	教育心理学Ⅱ	2	後			
体育講義	2	前	2	英語演習Ⅰ	2	後	音楽Ⅰ	1	前	教育原理	2	後			
体育実技	2	後	2	英語演習Ⅱ	2	後	音楽Ⅱ	1	前	教育原理	2	後			
日本国憲法	1	後	1	英語演習Ⅲ	2	後	音楽Ⅲ	1	後	教育相談	2	後			
日本語表現の基礎	1	後	1	英語演習Ⅳ	2	後	音楽Ⅳ	2	前	生徒指導・進路指導	1	後			
倫理学	1	前	1	英語演習Ⅴ	2	後	理科	1	後	教育方法の研究	1	後			
文学	1	前	1	英語演習Ⅵ	2	後	社会	1	後	保育者論	1	後			
心理学	1	前	1	英語演習Ⅶ	2	後	生活	2	前	社会福祉	1	後			
社会学	1	前	1	英語演習Ⅷ	2	後	生活	2	前	保育内容総論	2	後			
国際化と経済	1	前	1	英語演習Ⅸ	2	後	算数	2	前	発達心理学Ⅰ	2	後			
歴史学	1	前	1	英語演習Ⅹ	2	後	国語	2	前	発達心理学Ⅱ	2	後			
インターネット	1	前	1	韓国語演習Ⅰ	1	前	生活	2	前	保育臨床	2	後			
海外事情	1	前	1	韓国語演習Ⅱ	1	前	図画	2	前	情報機器演習	2	後			
数学基礎	1	前	1	韓国語演習Ⅲ	1	前	音楽Ⅰ	1	前	教育制度論	2	後			
理科基礎	1	前	1	韓国語演習Ⅳ	1	前	音楽Ⅱ	1	前	教育相談	2	後			
人間と環境	1	前	1	韓国語演習Ⅴ	1	前	音楽Ⅲ	1	前	生徒指導・進路指導	1	後			
分子からみた生物	1	前	1	韓国語演習Ⅵ	1	前	音楽Ⅳ	2	前	教育方法の研究	1	後			
<b>自分の取得した単位数を記入→</b>				4				2				2			
<b>卒業に必要な単位数を記入→</b>				4				4				2			
小学校教員免許申請に必要な最低必修単位				80				80				80			
保育士証取得に必要な最低必修単位				83				83				83			
児童教育実践取得に必要な最低必修単位				0・10				0・10				0・10			
ピア・ヘルパー必修科目				2				2				2			

# 「修得単位記入表」

授業科目 開講 学期	一般教養科目											外国語(Ⅰ・Ⅱ)													専門科目(教科に関する科目)																												
	WE LOVE 鹿兒島!	キャリアガイダンス	体育講義	体育実技	日本国憲法	日本語表現の基礎	倫理学	文学	心理学	社会学	国際化と経済	歴史学	インターネット	海外事情	数学基礎	理科基礎	分子からみた生物	人間と環境	英語演習Ⅰ	英語演習Ⅱ	ドイツ語演習Ⅰ	ドイツ語演習Ⅱ	中国語演習Ⅰ	中国語演習Ⅱ	韓国語演習Ⅰ	韓国語演習Ⅱ	音楽Ⅰ	器楽Ⅰ	図画工作	体育Ⅰ	国語	算数	生活	音楽Ⅱ	音楽Ⅲ	器楽Ⅱ	体育Ⅱ	体育Ⅲ	外国語活動に関する指導法	教職概論	教育原理	保育原理	教育心理学	発達心理学Ⅰ	保育内容総論	社会福祉							
	単位数	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
自分の取得した単位数を記入→	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
卒業に必要な最低必修単位数	62	8													4													※ 選択①																									
幼稚園教員免許申請に必要な最低必修単位数	67	4													4																																						
保育士証取得に必要な最低必修単位数	83	6													4																																						
ピア・ヘルパー必修科目																																																					

★より2単位以上修得する事

授業科目 開講 学期	専門科目(教科に関する科目)																																								専門科目(保育士証に関する科目)										
	保育者論	教育相談	教育制度論	情報機器演習	保育臨床	障害児の教育・保育	発達心理学Ⅱ	カウンセリング入門	子どもと人権	家族関係論	教育課程・保育課程	教育指導法の研究	保育内容(健康)	保育内容(環境)	保育内容(人間関係)	保育内容(言葉)	保育内容(表現Ⅰ)	保育内容(表現Ⅱ)	保育内容(表現Ⅲ)	幼稚園教育実習Ⅰ指導	幼稚園教育実習Ⅰ	幼稚園教育実習Ⅱ指導	幼稚園教育実習Ⅱ	保育・教職実践演習	保育研究法	相談援助	児童家庭福祉	社会的養護	子どもの保健Ⅰ	子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅲ	子どもの食と栄養	家族支援論	乳児保育	社会的養護内容	保育相談支援	保育所実習Ⅰ指導	保育所実習Ⅰ	施設実習Ⅰ指導	施設実習Ⅰ	保育所実習Ⅱ指導	保育所実習Ⅱ	施設実習Ⅱ指導	施設実習Ⅱ							
	単位数	1	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2				
自分の取得した単位数を記入→	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
卒業に必要な最低必修単位数	29																																								(選択①・選択②)										
幼稚園教員免許申請に必要な最低必修単位数	2																																								2										
保育士証取得に必要な最低必修単位数	2																																								2										
ピア・ヘルパー必修科目	2																																								1										

## 目次(科目名50音順)

【い】	インターンシップ	17	児童家庭福祉	82
【う】	WE LOVE 鹿児島!	40	情報メディアの活用	135
【え】	英語演習Ⅰ	20	社会学	14
	英語演習Ⅰ	21	社会	62
	英語演習Ⅰ	22	【す】	数学基礎
	英語演習Ⅱ	32		図画工作
	英語演習Ⅱ	33		図画工作科教育法
	英語演習Ⅱ	34	【せ】	生活
【お】	音楽Ⅰ	41		生徒指導・進路指導
	音楽Ⅱ	65		生活科教育法
	音楽Ⅲ	90	【そ】	相談援助
	音楽科教育法	98	【た】	体育講義
【か】	韓国語演習Ⅰ	25		体育実技
	海外事情	31		体育Ⅰ
	韓国語演習Ⅱ	37		体育Ⅰ
	家庭	64		体育Ⅱ
	カウンセリング入門	121		体育Ⅲ
	家族関係論	95		体育科教育法
	家庭科教育法	100	【ち】	中国語演習Ⅰ
	家族支援論	131		中国語演習Ⅱ
	外国語活動に関する指導法	120	【と】	特別活動の研究
	学校経営と学校図書館	52		ドイツ語演習Ⅰ
	学校図書館メディアの構成	61		ドイツ語演習Ⅱ
	学習指導と学校図書館	133		道徳教育の研究
【き】	器楽Ⅰ	42		読書と豊かな人間性
	器楽Ⅱ	66	【に】	日本語表現の基礎
	教職概論	45		日本国憲法
	教職概論	46		人間と環境
	教育原理	69		乳児保育
	教育心理学	48	【は】	発達心理学Ⅰ
	教育方法の研究	71		発達心理学Ⅰ
	教育相談	92		発達心理学Ⅱ
	教育制度論	49	【ふ】	文学
	教師と法	96		文学
	教育課程・保育課程	103		分子からみた生物
	教職実践演習(幼・小)	128	【ほ】	保育者論
	キャリアガイダンスⅠ	18		保育原理
	キャリアガイダンスⅡ	19		保育臨床
【こ】	国際化と経済	15		保育内容総論
	国語(書写を含む)	87		保育指導法の研究
	子どもと人権	76		保育内容(健康)
	国語科教育法	77		保育内容(環境)
	子どもの保健Ⅰ	60		保育内容(人間関係)
	子どもの保健Ⅱ	83		保育内容(言葉)
	子どもの保健Ⅲ	110		保育内容(表現Ⅰ)
	子どもの食と栄養	111		保育内容(表現Ⅱ)
【さ】	算数	88		保育内容(表現Ⅲ)
	算数科教育法	54		保育・教職実践演習
【し】	心理学	13		保育研究法
	障害児の教育・保育	73・74		保育相談支援
	生涯学習論	122		保育所実習Ⅰ指導
	社会科教育法	53		保育所実習Ⅰ
	社会福祉	59		保育所実習Ⅱ指導
	小学校教育実習指導	105		保育所実習Ⅱ
	小学校教育実習	106	【よ】	幼稚園教育実習Ⅰ指導
	社会的養護	109		幼稚園教育実習Ⅰ
	社会的養護内容	112		幼稚園教育実習Ⅱ指導
	施設実習Ⅰ指導	113		幼稚園教育実習Ⅱ
	施設実習Ⅰ	114	【り】	倫理学
	施設実習Ⅱ指導	117		理科基礎
	施設実習Ⅱ	118		理科
	児童の健康と保健	91		理科教育法
	情報機器演習	93	【れ】	歴史学